

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

影織り

伝統工芸の誕生と分野間の相乗作用

Shadowfolds:

Birth of a Traditional Craft, Synergy of Disciplines

クリス・パルマー Chris Palmer

折り図 Diagrams

ベタ

Siamese Fighting Fish

ロバート・J・ラング

Robert J. Lang

ブリ(養殖)

Yellowtail (Farmed)

勝田恭平

Katsuta Kyohei

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

河童

KAPPA the Water Imp

宮本宙也

Miyamoto Chuya

つまみおり Information

第15回折紙探偵団コンベンション直前情報

Update on the 15th Origami Tanteidan Convention

通巻 116 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



河童

作: 宮本宙也 (P.34)

KAPPA the Water Imp
by Miyamoto Chuya (P.34)

■今年の関西コンベンションで初披露され、参加者の尻子玉…じゃなくて度肝を抜いた作品。「もし妖怪が現実の生物として存在したら、こういう姿なのでは？」と思えるような、良い意味で「ちょっとキモチワルいぐらい」の造形。精巧に作り込まれた甲羅の模様も要チェックです。

(解説 北條高史) Comments : Hojyo Takashi



KAPPA the Water Imp : Miyamoto Chuya

クローズアップ / Close-up

P.11 影織り

**伝統工芸の誕生と
分野間の相乗作用**

Shadowfolds : Birth of a Traditional
Craft, Synergy of Disciplines

クリス・パルマー
Chris Palmer

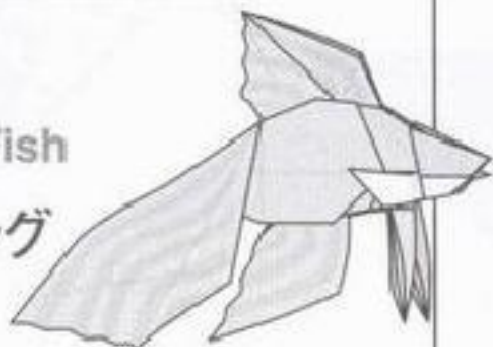
翻訳 : 羽鳥公士郎
Translator : Hatori Koshiro

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22 ベタ

Siamese Fighting Fish

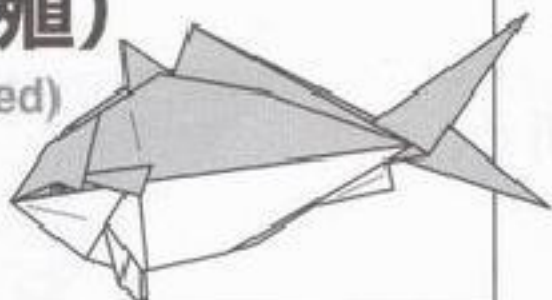
ロバート・J・ラング
Robert J. Lang



P.26 ブリ (養殖)

Yellowtail (Farmed)

勝田恭平
Katsuta Kyohei



**P.34 展開図折りに挑戦！
Crease Pattern Challenge!**

河童

KAPPA the Water Imp

宮本宙也
Miyamoto Chuya

カラーページ / Color

**P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery**

解説・北條高史
Comments : Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 まーしーのユニット・オルタナティブ

Mercy's Unit Alternative

クレバス
CREVASSE

田中将司
Tanaka Masashi

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

ミニたんす
Mini-Chest

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 日本折紙協会回想録

Reminiscence of and Notes on NOA

佐野康博 私を育ててくれた人

Sano Yasuhiro: The Man Who Made Me Who I Am

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

『おりがみ』河合豊彰著

"Origami" by Kawai Toyoaki

西川誠司
Nishikawa Seiji

P.18 折線雑考

A Long Excursus on Crease Lines

君が瞳はつぶらにて

How Cute Eyes You have

目黒俊幸
Meguro Toshiyuki

P.35 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

三浦公亮

Miura Koryo

取材 : 前川 淳
Maekawa Jun

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

P.32 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

北西一貴
Kitanishi Kazuki

P.33 折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司
Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.36 つまみおり Rabbit Ear

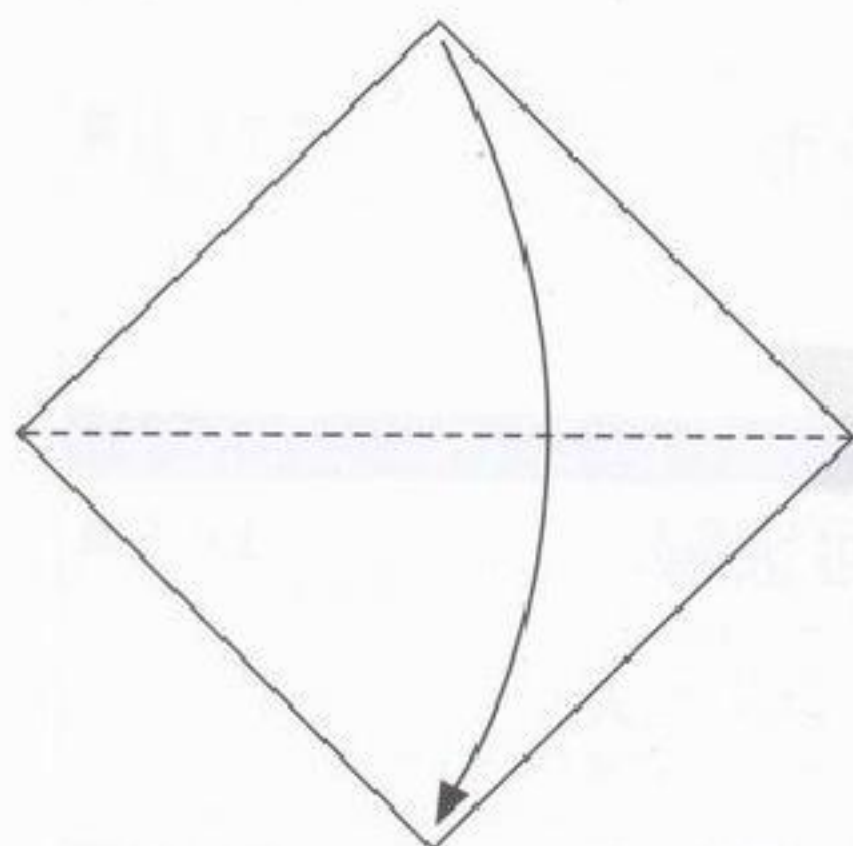
第15回折紙探偵団コンベンション直前情報

Update on the 15th Origami Tanteidan Convention

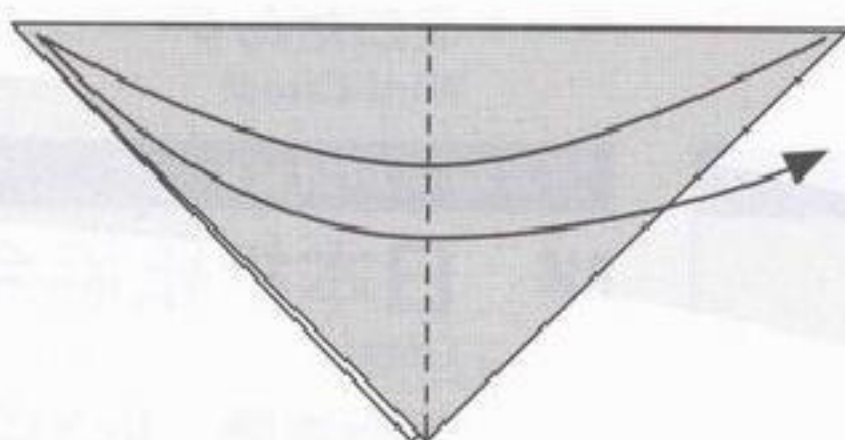


KFD-OriClub所属。折紙探偵団東海友の会スタッフ。苦手なものは酔っ払ったYさん。

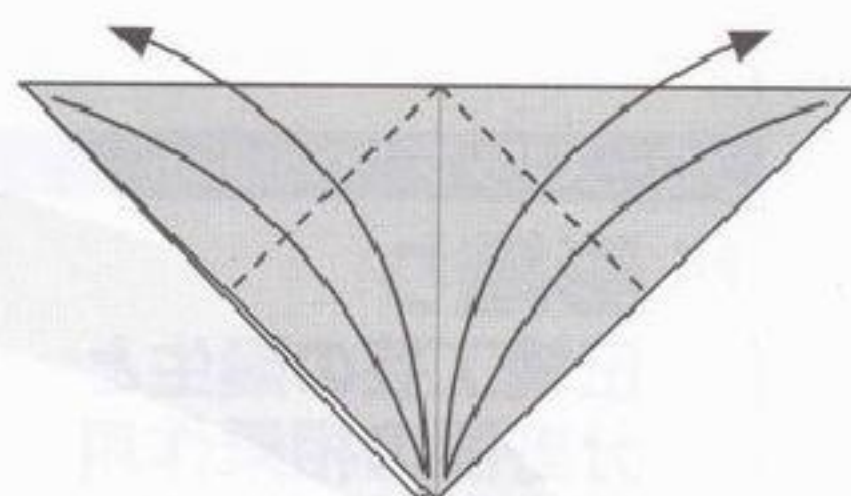
第4回 クレバス CREVASSE



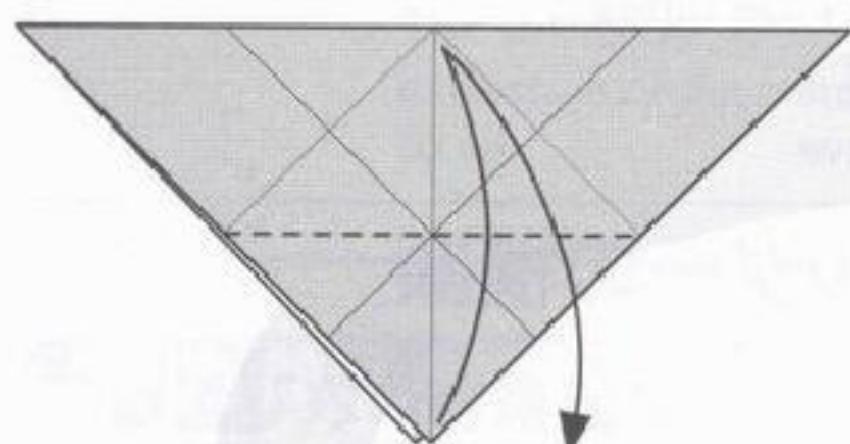
1. 半分に折る



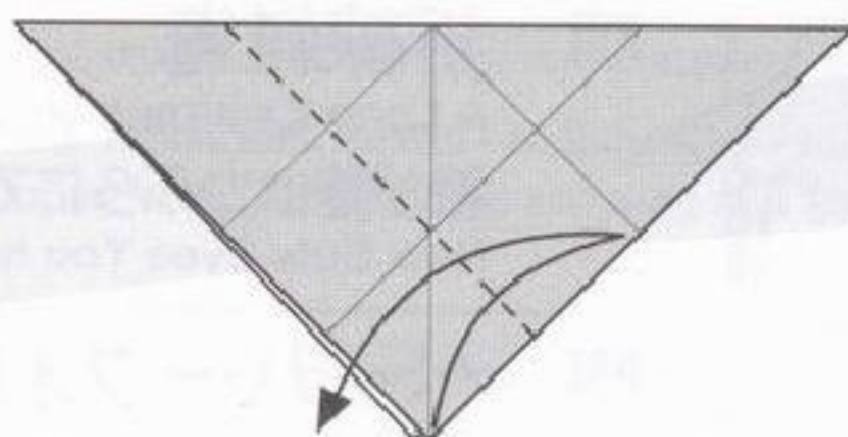
2. 半分の
折りすじをつける



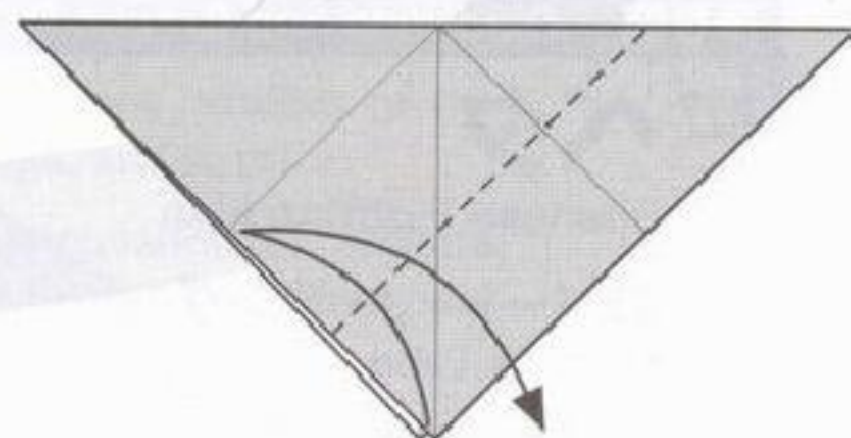
3. 折りすじをつける



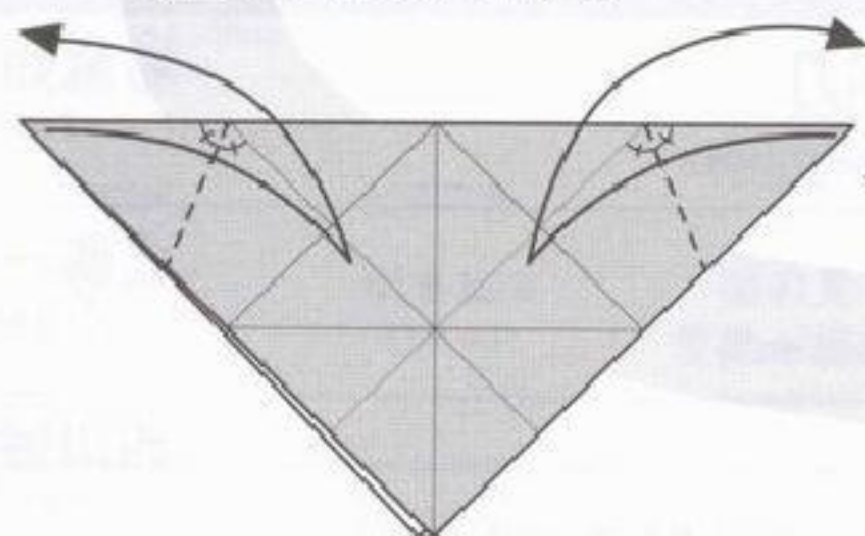
4. 上の1枚だけ
折りすじをつける



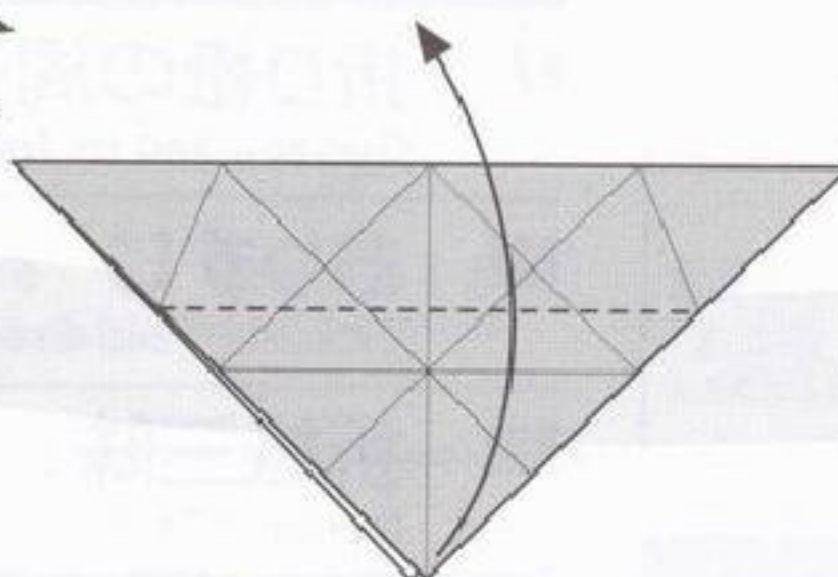
5. 反対側も同様に折る



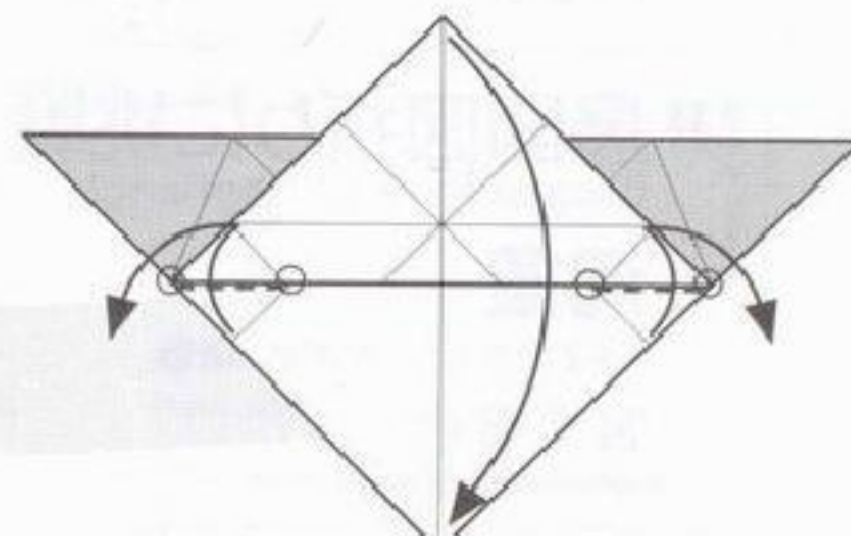
6. 上の1枚だけ
折りすじをつける



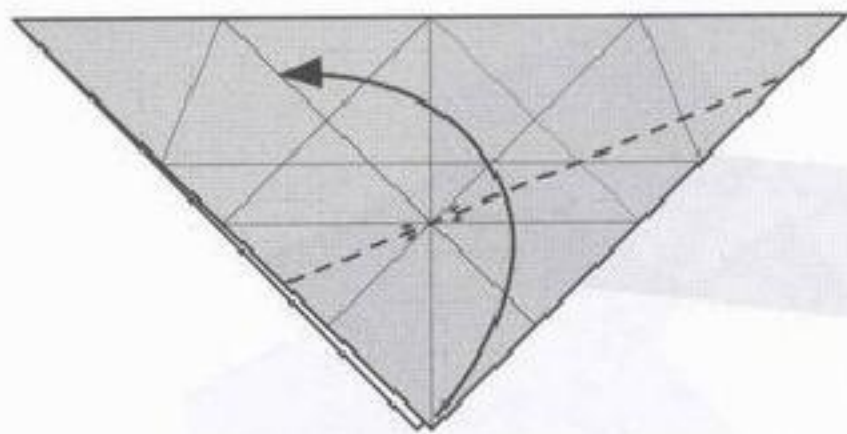
7. 上辺と工程4, 5でつけた
折りすじ2線の鈍角を
2等分する



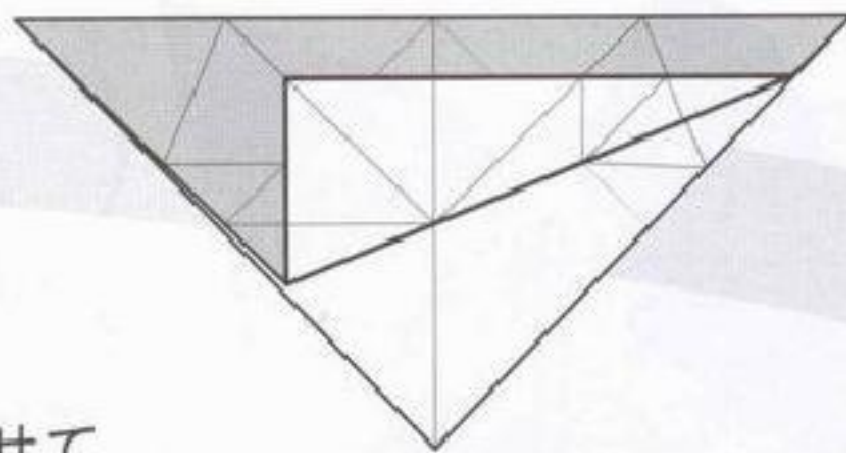
8. 工程7の折りすじと
左右の辺との交点で
折りあげる



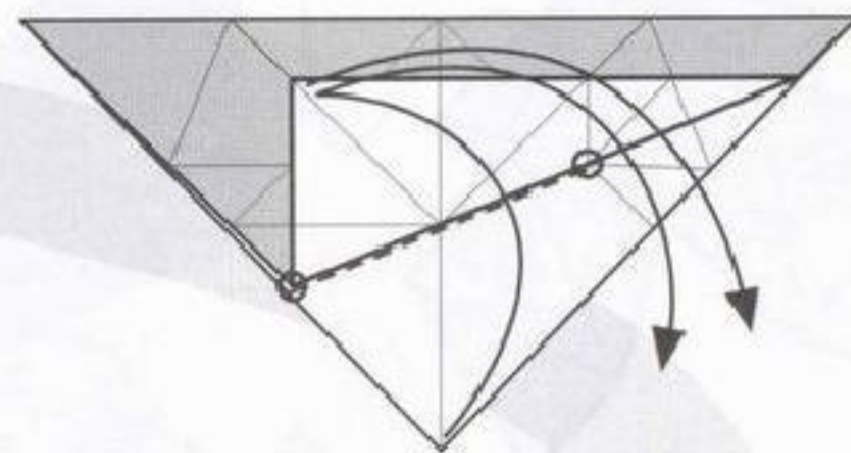
9. O印間に折り線をつけ
2枚とも開く



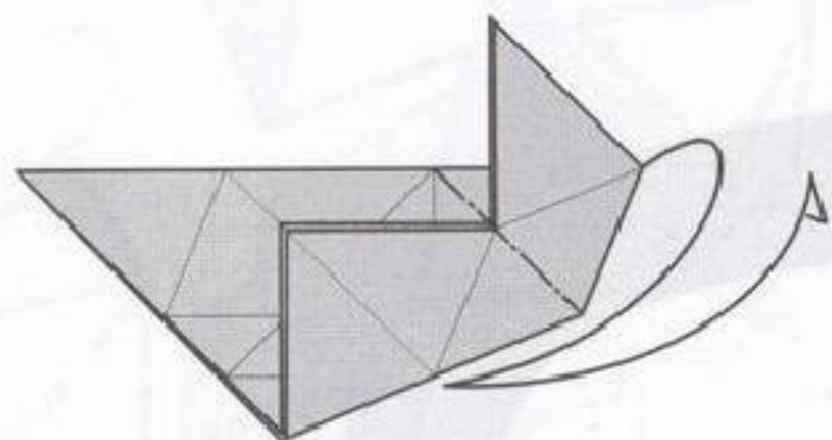
10. 次図を参考に各部分
折りすじをしっかりと合わせて
上の1枚だけ折る



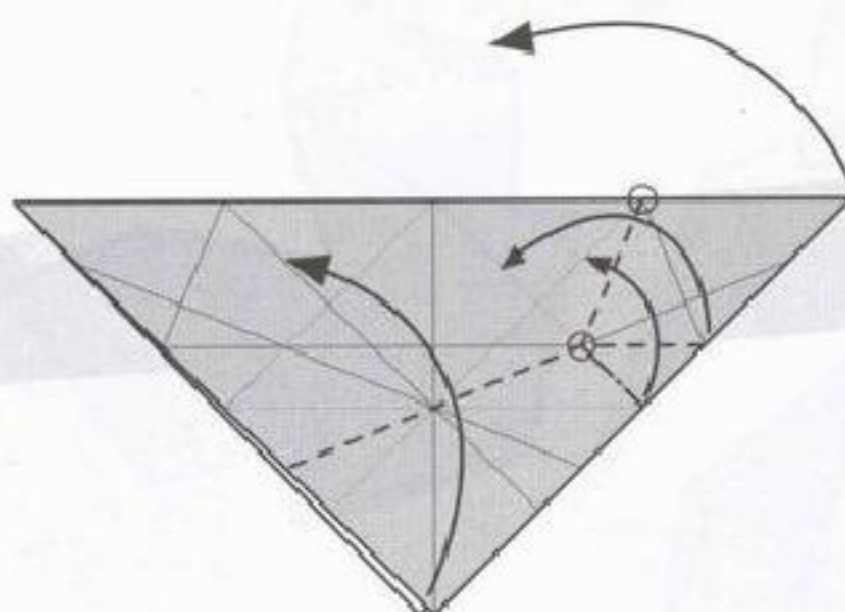
11. 確認図



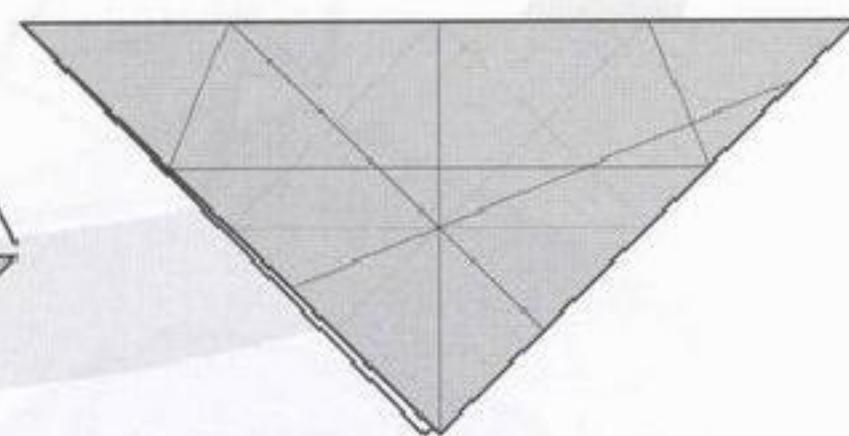
12. O印間に折りすじをつけ
2枚とも開く



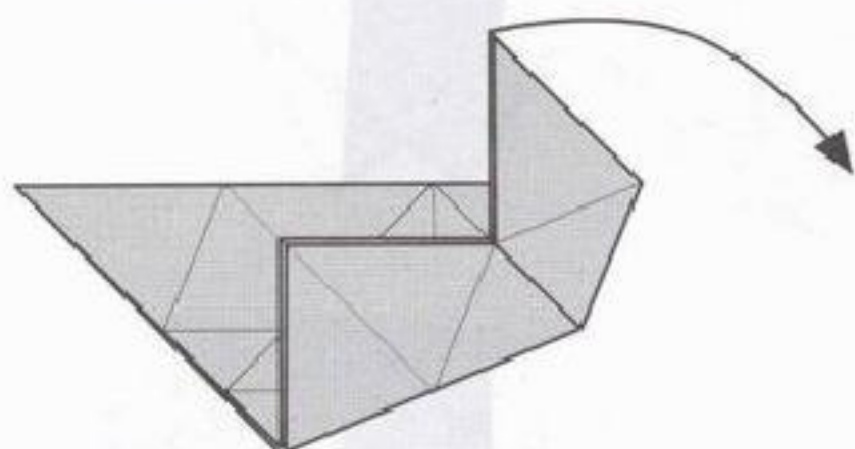
15. 新たな折りすじの
追加と山谷調整



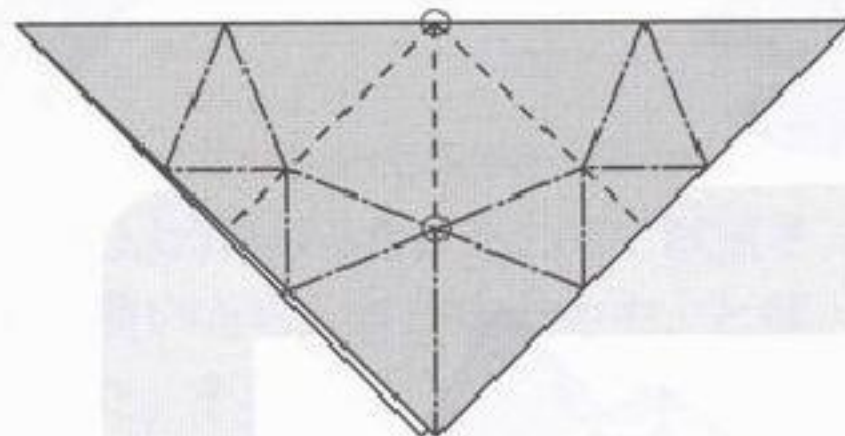
14. O印間に新たな折り線を
加えつつたため



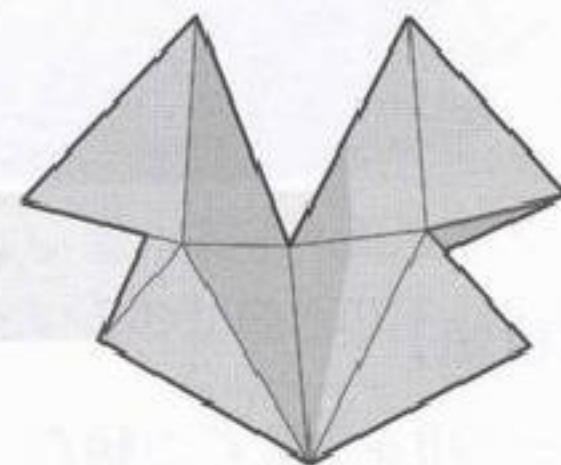
13. 反対側も同様に折る



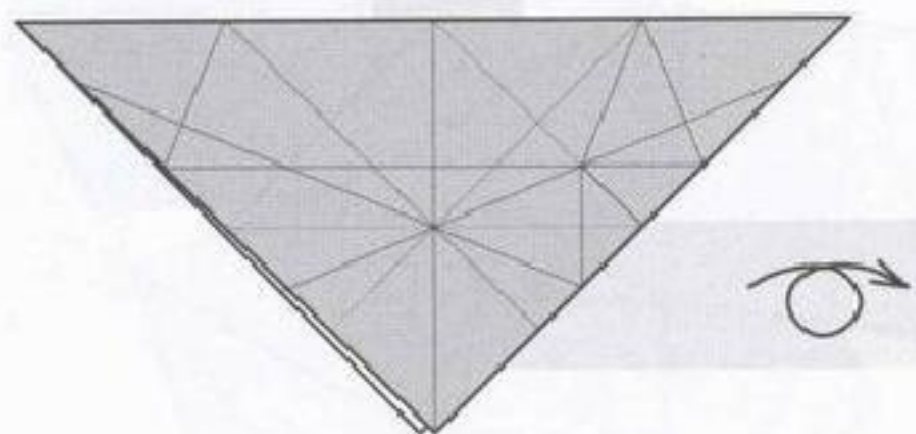
16. 開く



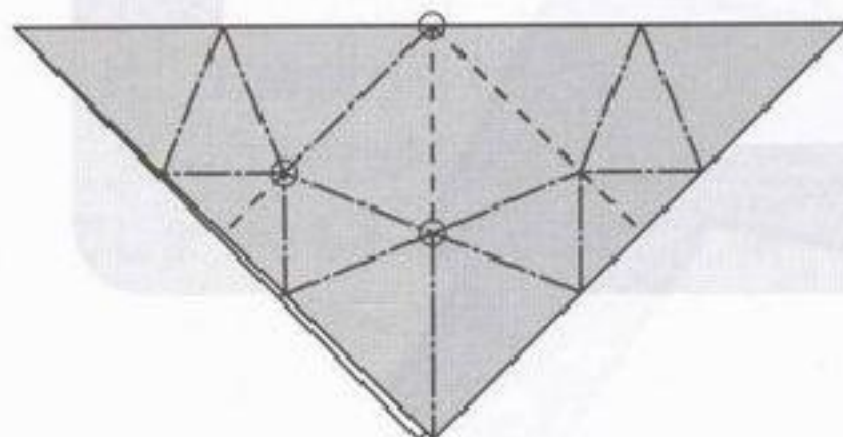
18a. 一部山谷を変えつつ
ついている折り線で
立体化



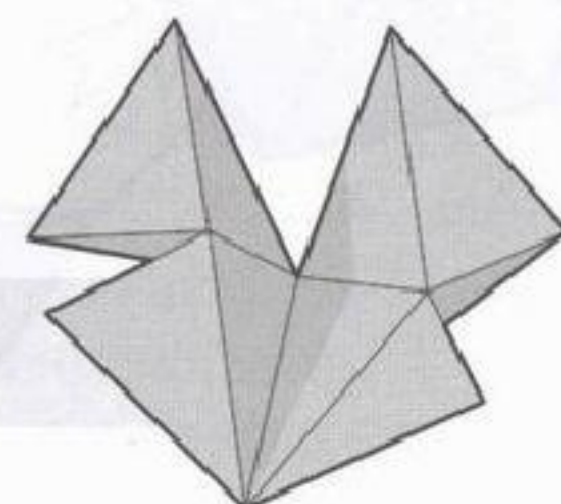
19a. パーツA



17. 反対側も同様に折る

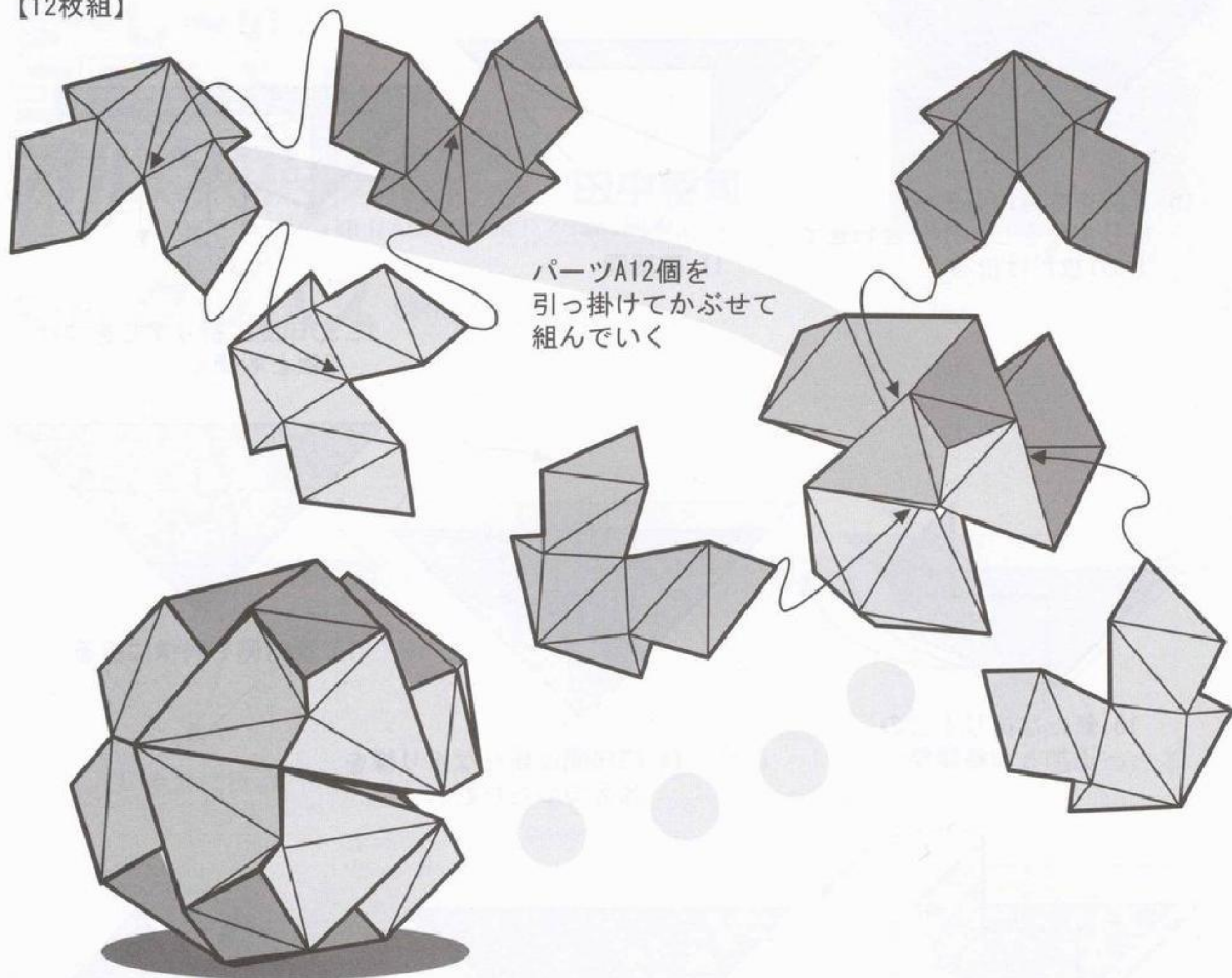


18b. 一部山谷を変えつつ
ついている折り線で
立体化



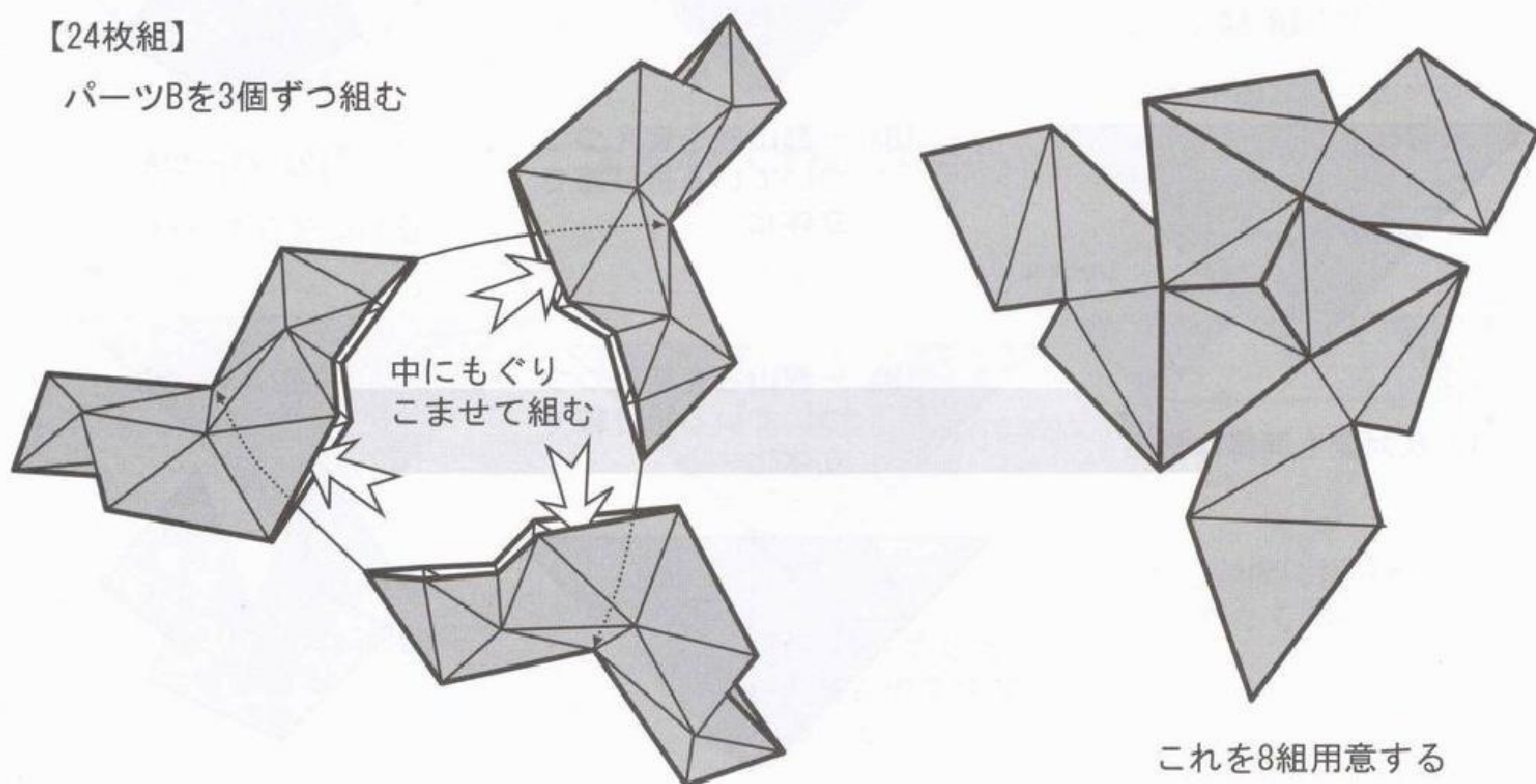
19b. パーツB

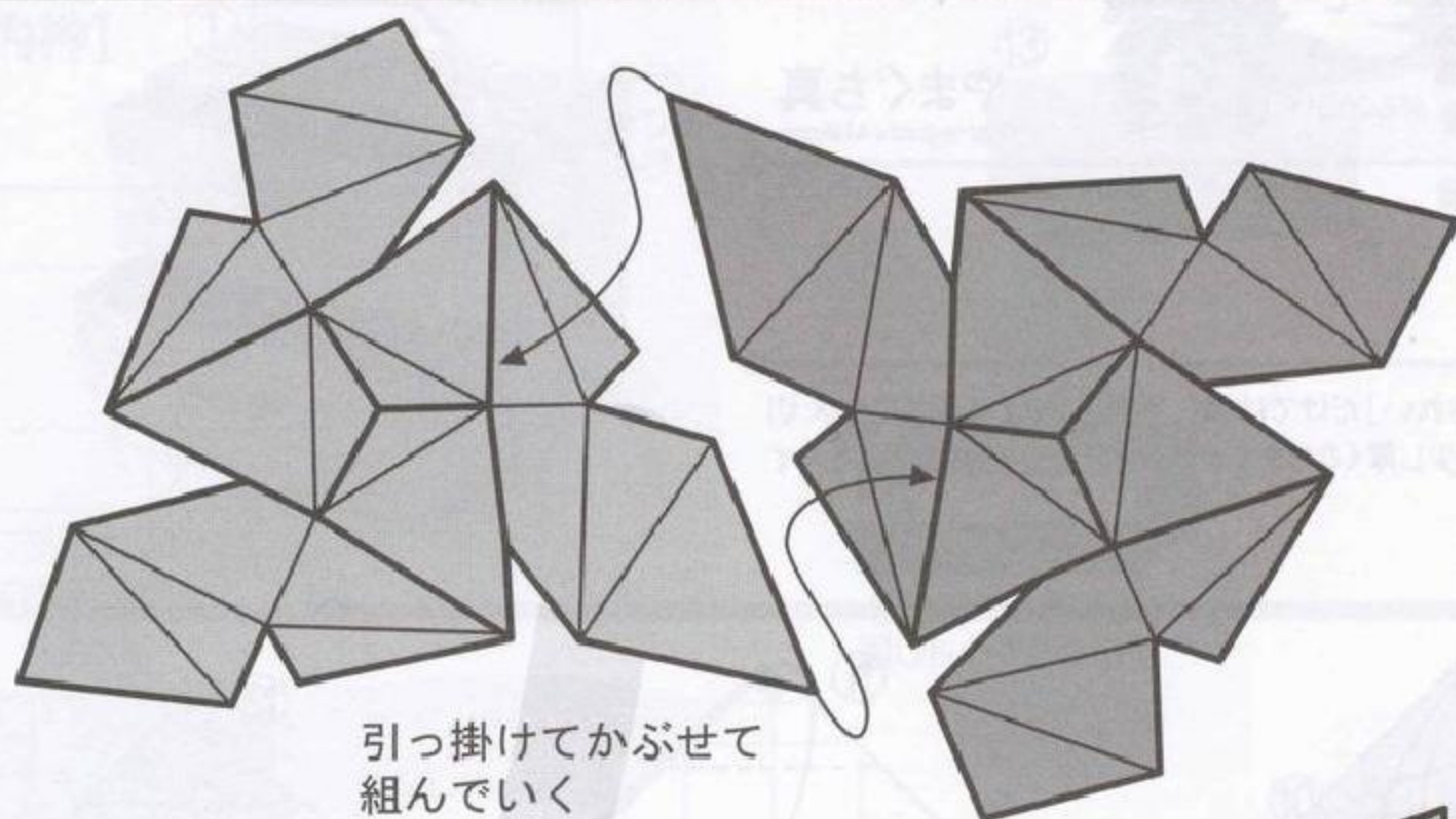
【12枚組】



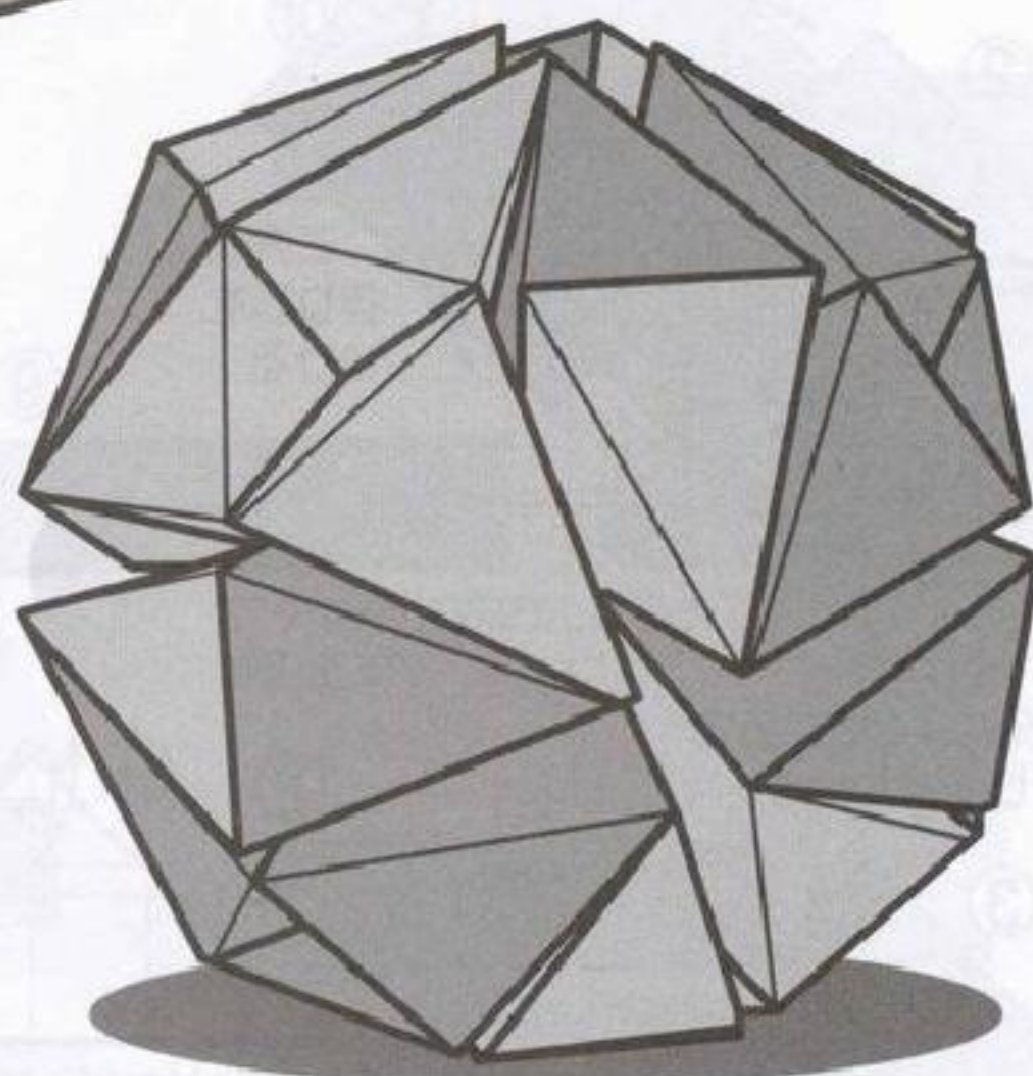
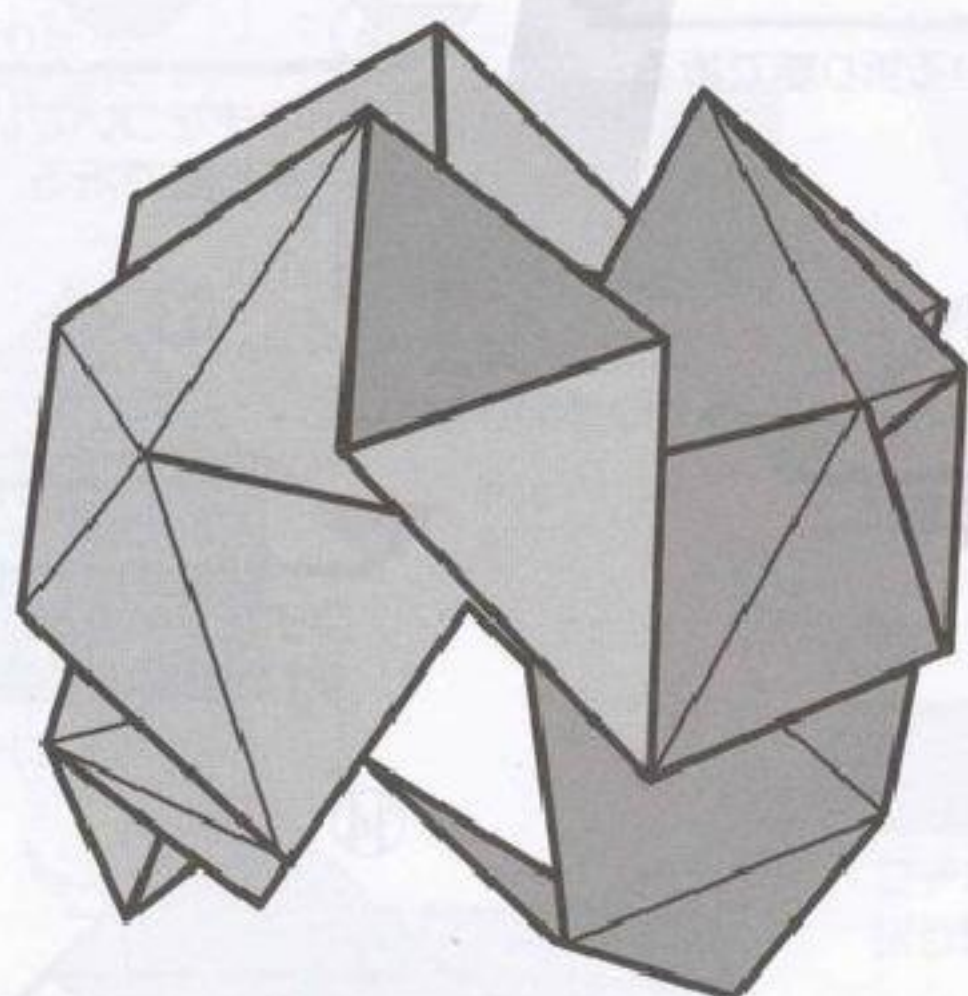
【24枚組】

パーツBを3個ずつ組む





引っ掛けてかぶせて
組んでいく



折り紙の 周辺

第36回
展覧会
(Non-)Exhibition

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

朝 起きるとネコの顔が腫れている。昨夜遅く豪雨の中、本人はちっとも濡れずに、仔マムシをくわえてきた。縁の下か土蔵のあたりでつかまえたのだろう。放り上げたり、添い寝したり、さんざもてあそんでいた。きっとそのときに噛まれたのだ。鼻の脇に傷がある。前のネコもマムシに噛まれて、顔がライ

オンようになった。あわてて獣医さんに聞いたら、ネコは大丈夫、と言われた。それにしてもネコはよく動物を狩る。どういうタイミングで狩り狩られ、噛み噛まれるのだろう。

世界各地で行われる大小の折り紙展から、出品のお誘いやお願いがくる。あうう、とうなる。展覧会に出すような作品を折るのは神経を使うし、折り紙作品はデリケートなので、梱包にも手間がかかる。そんなにほいほいお誘いにはのれない。よく知っている人やお世話になった人が主催のときは、万障繰り合わせて参加するが、気になりながらもそのまま見送ってしまう時もある。送料は主催者持ちの場合が多いが、作品そのものに関して使用料が払われることは

まずない。会が終わったら寄贈か送り返すというのがほとんど。主催者はだいたいお金がない。善意と友情とボランティア精神に基づいている。折り紙を仕事としている者にとってお祭りに参加するのはなかなかつらい。あらゆる体力がいる。最悪は折り紙に無知なケース。お断りして脱力感が残る。

昨年秋に『おりがみはうす』で太郎氏と2人展を開いていただいたのに続き、5月から8月までドイツの『Origami Galerie』で2人展を開いていただいている。長年の大切な友人の Pauloさんと Silkeさんが昨年からはめた小さいギャラリー。やりたいものだけをゆっくりやっていくそう。

第37回 ミニたんす

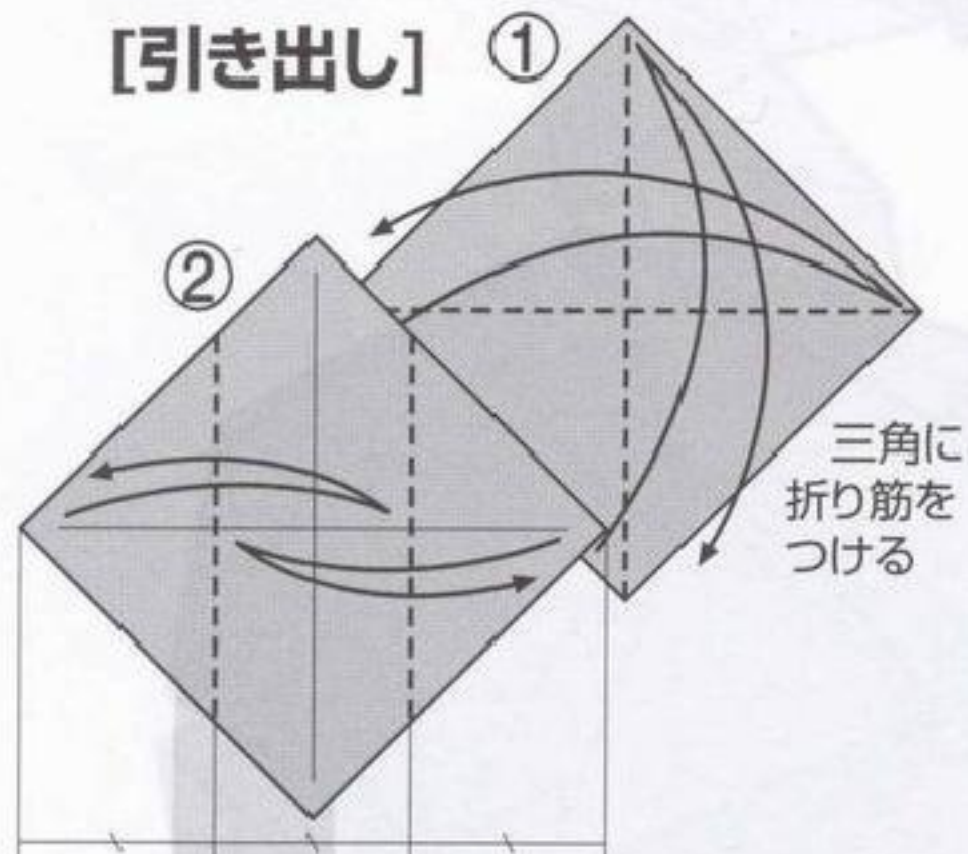
Mini-Chest

実用おりがみでは「かわいい・きれい」だけではなく、実際に使える頑丈さも大切です。この作品は紙が重なって少し厚くなりますが、しっかりとしたかわいいたんすが出来上がります。



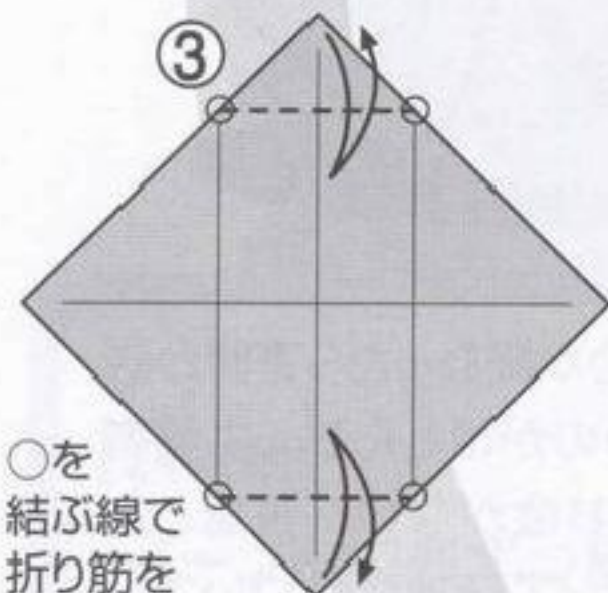
[引き出し]

①



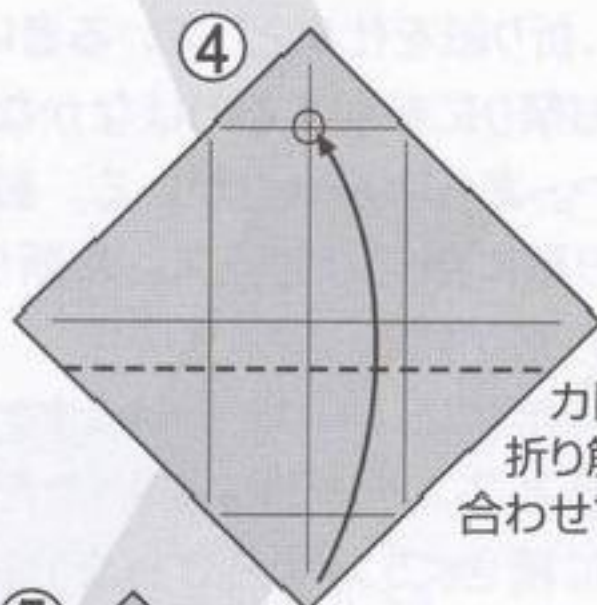
3分の1のところで
折り筋をつける

③



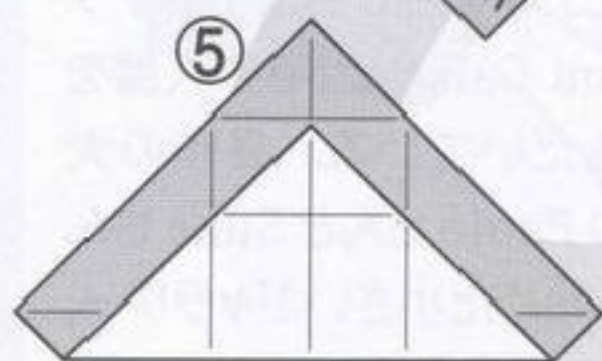
○を
結ぶ線で
折り筋を
つける

④

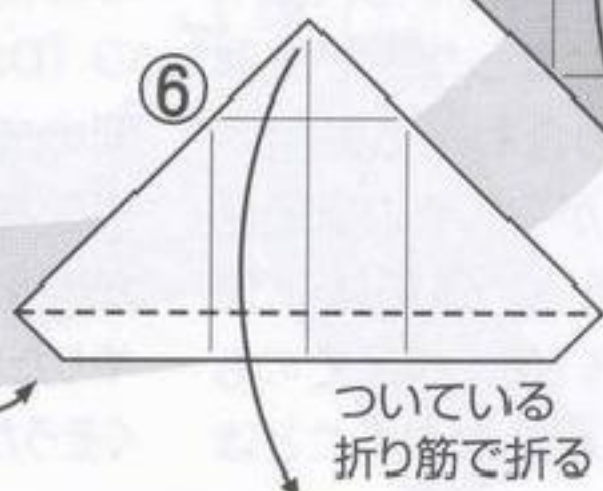


カドを
折り筋に
合わせて折る

⑤

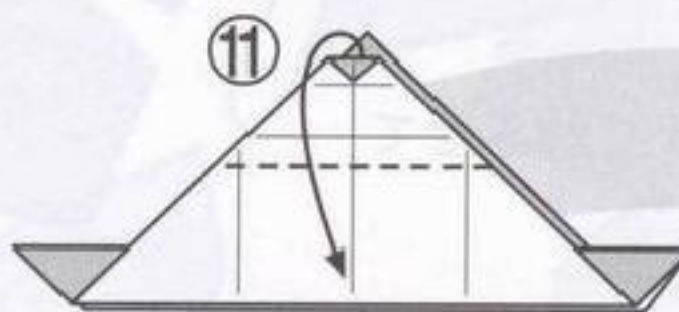


⑥



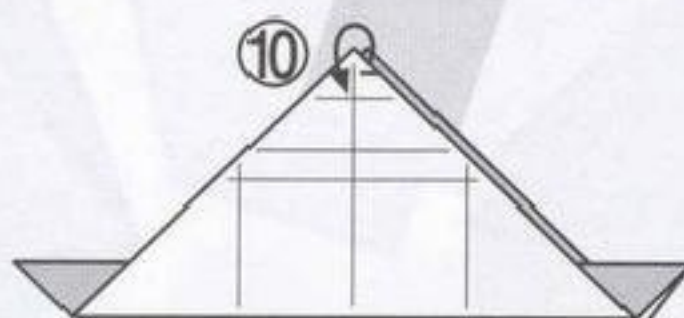
ついている
折り筋で折る

⑪



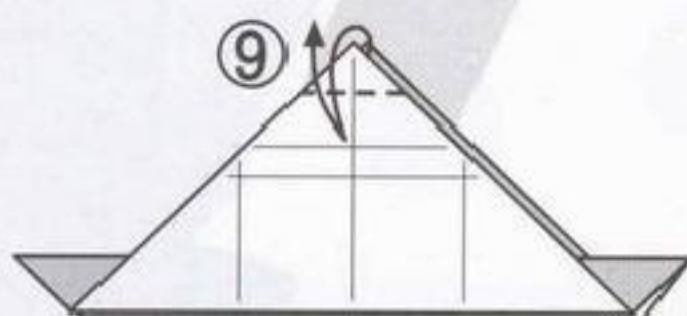
ついている折り筋で折る

⑩



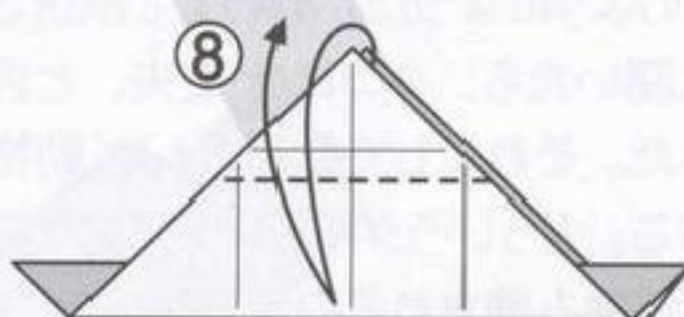
カドをつけた折り筋に
合わせて折る

⑨



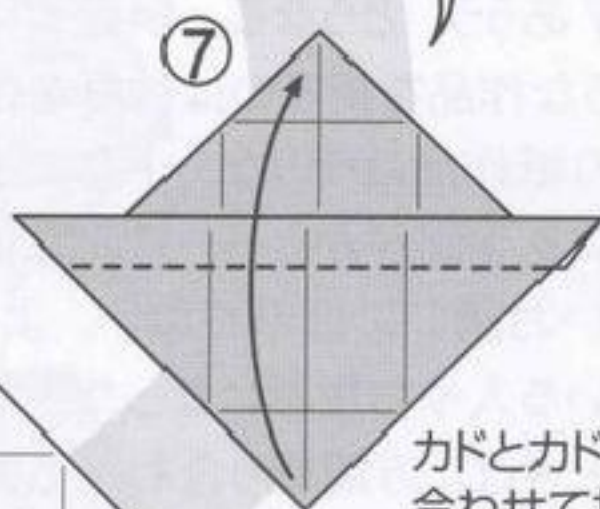
カドを折り筋に合わせて
折り筋をつける

⑧



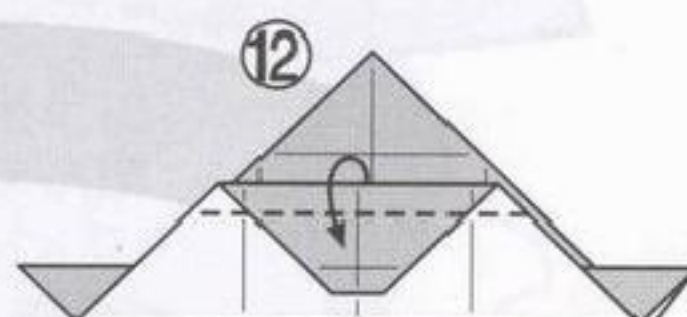
カドをフチに合わせて
折り筋をつける

⑦



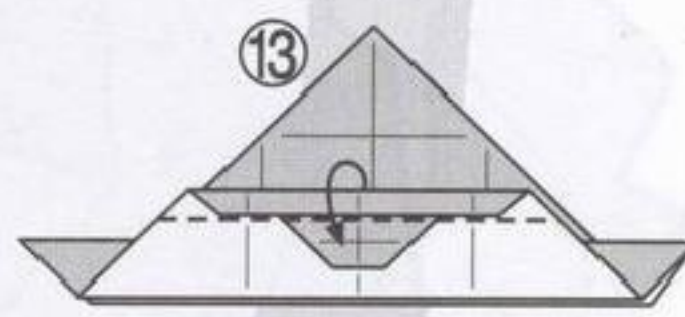
カドとカドを
合わせて折る

⑫



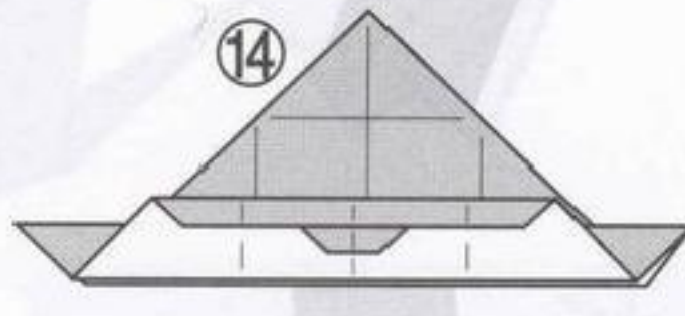
フチをついている
折り筋で折る

⑬

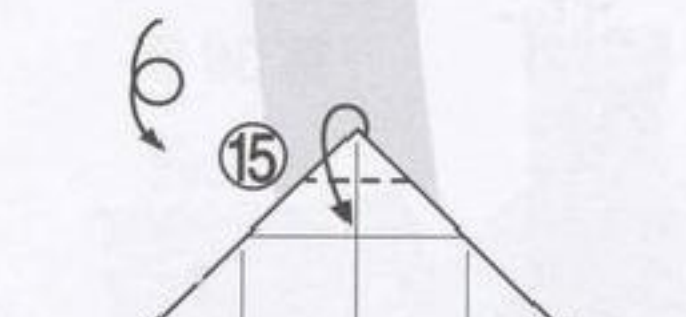


フチをフチのところで折る
ずれないように注意する

⑭

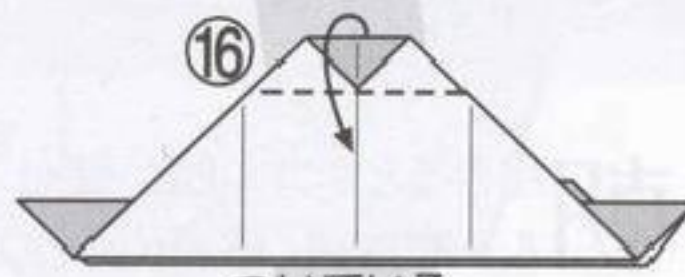


⑮



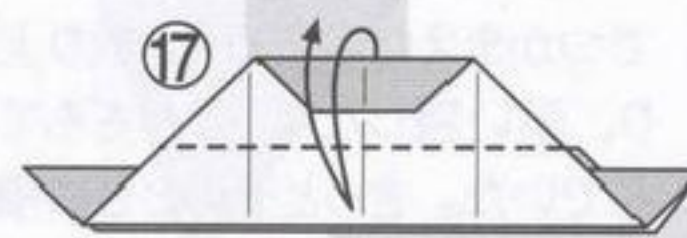
カドを折り筋に合わせて折る

⑯



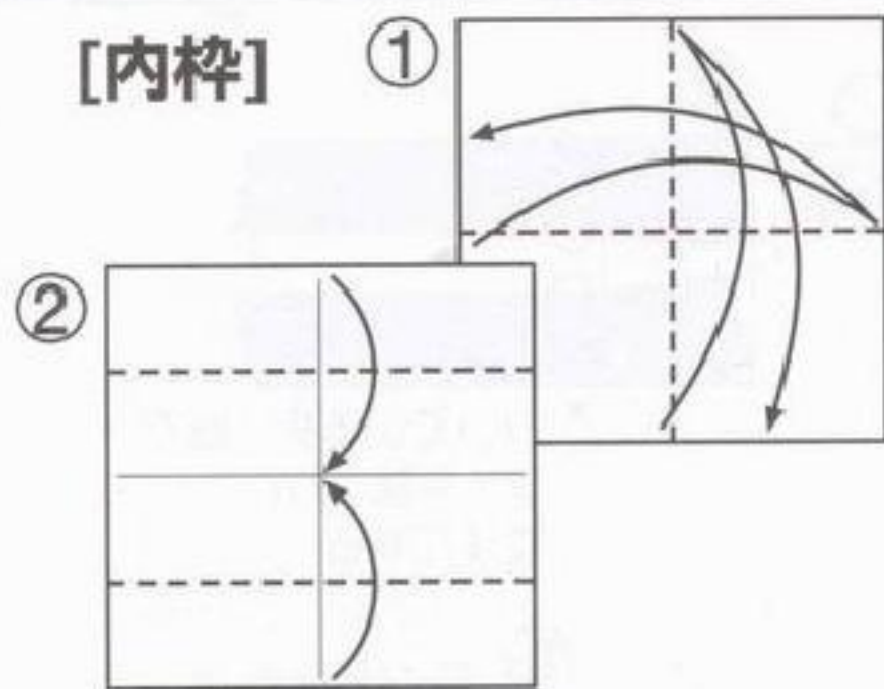
ついている
折り筋で折る

⑰

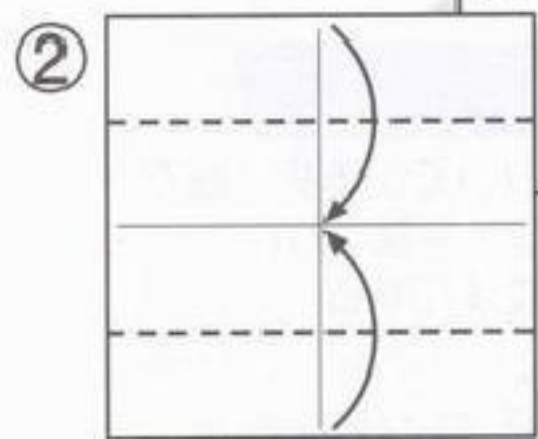


フチとフチを
合わせて折り筋をつける

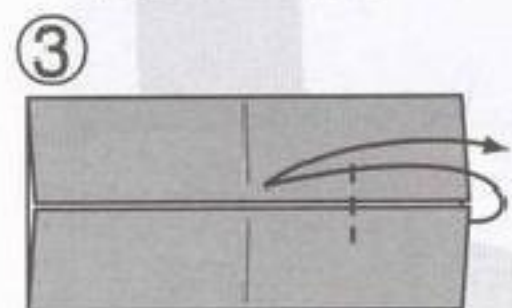
[内枠]



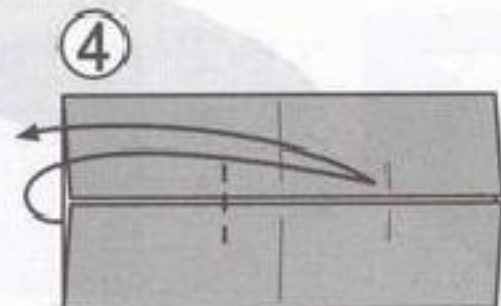
半分に
折り筋を
つける



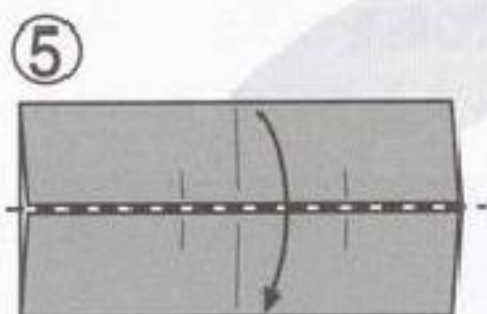
フチを折り筋に
合わせて折る



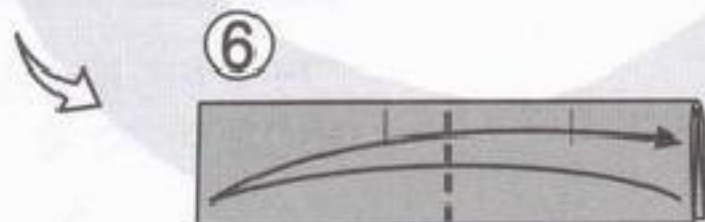
フチを折り筋に
合わせて印をつける



フチをつけた印に
合わせて印をつける



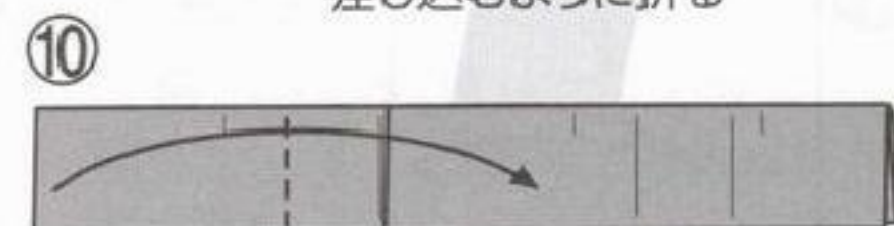
半分に折る



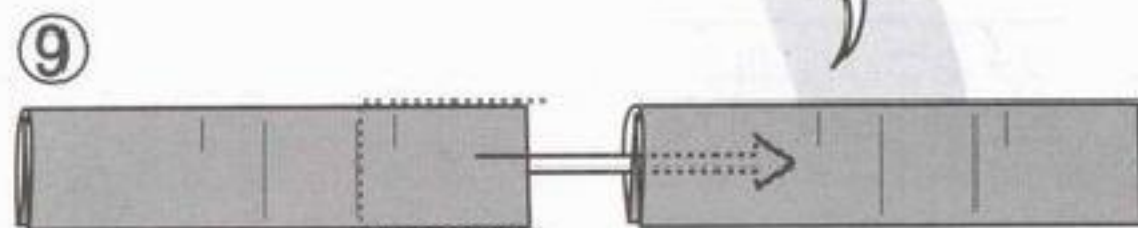
ついている折り筋で
半分に折り筋をつけなおす



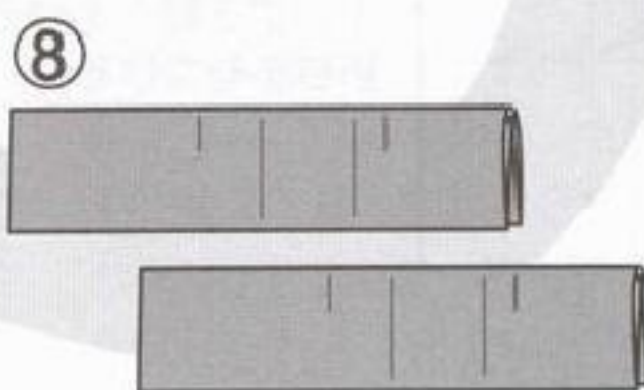
フチを印に合わせて
折り筋をつける



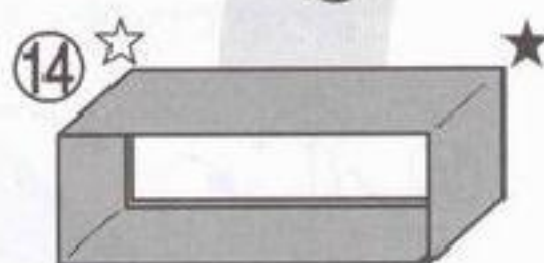
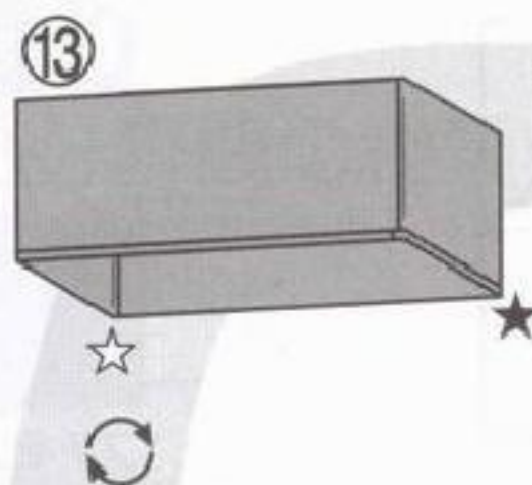
ついている折り筋で折る



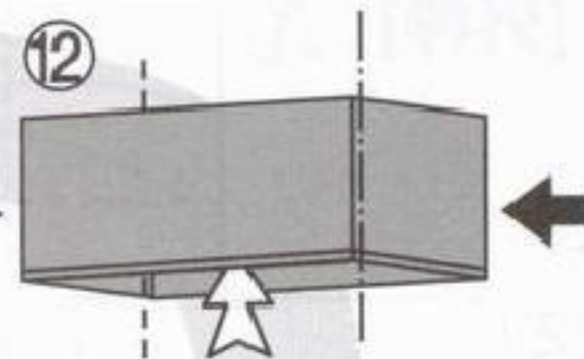
フチを折り筋のところまで
差し込む



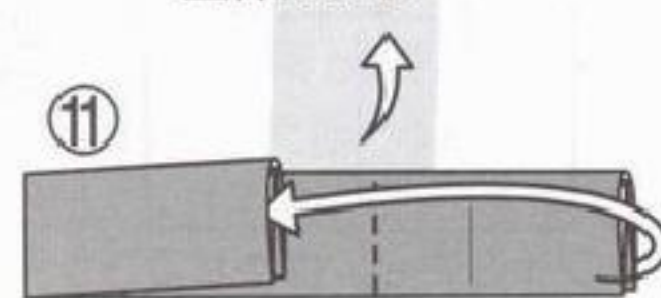
同じものを
2つ作る



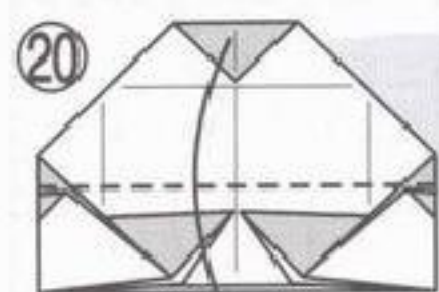
[内枠]できあがり
同じものを2つ作る



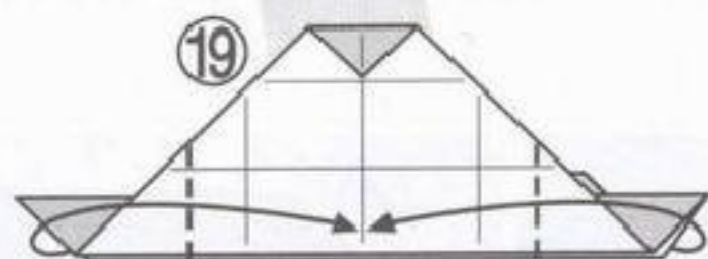
内側をひろげて
立体にする



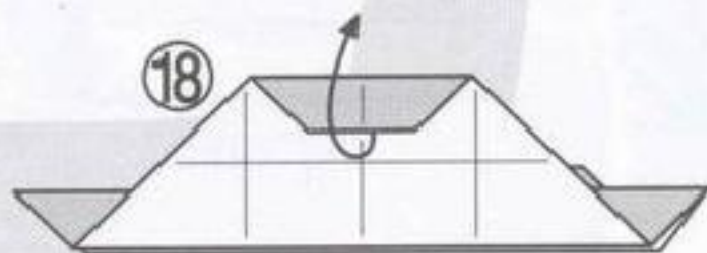
ついている折り筋で
フチを反対側のすき間に
差し込むように折る



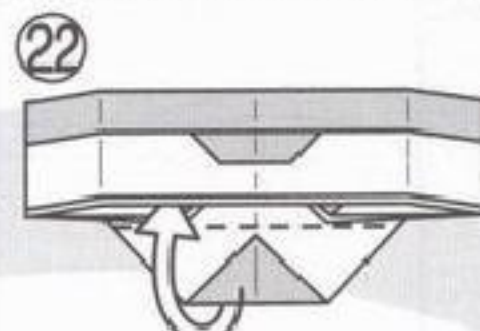
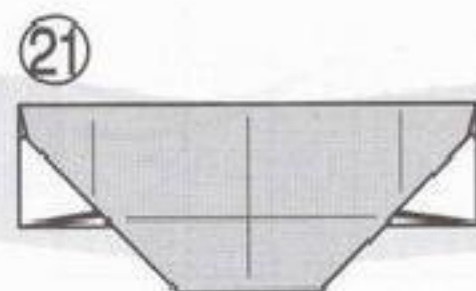
フチをついている
折り筋で折る



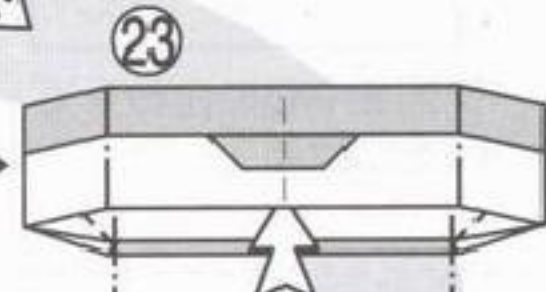
カドを中心に
合わせて折る



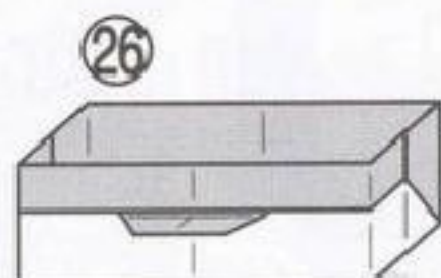
フチをひろげる



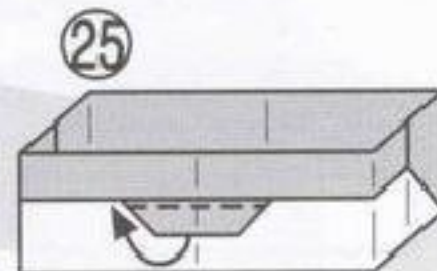
ついている折り筋で
上から2つめのヒダの
下に差し込むように折る



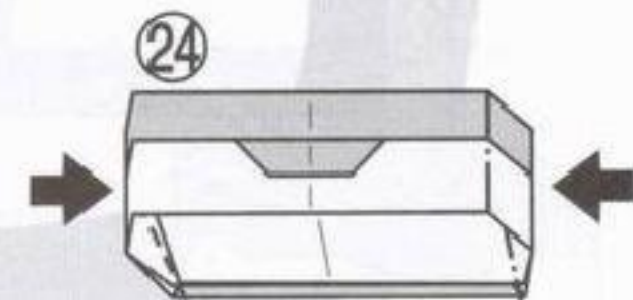
上から1つめのヒダの
すき間をひろげて
立体にする



[引き出し]できあがり
同じものを2つ作る

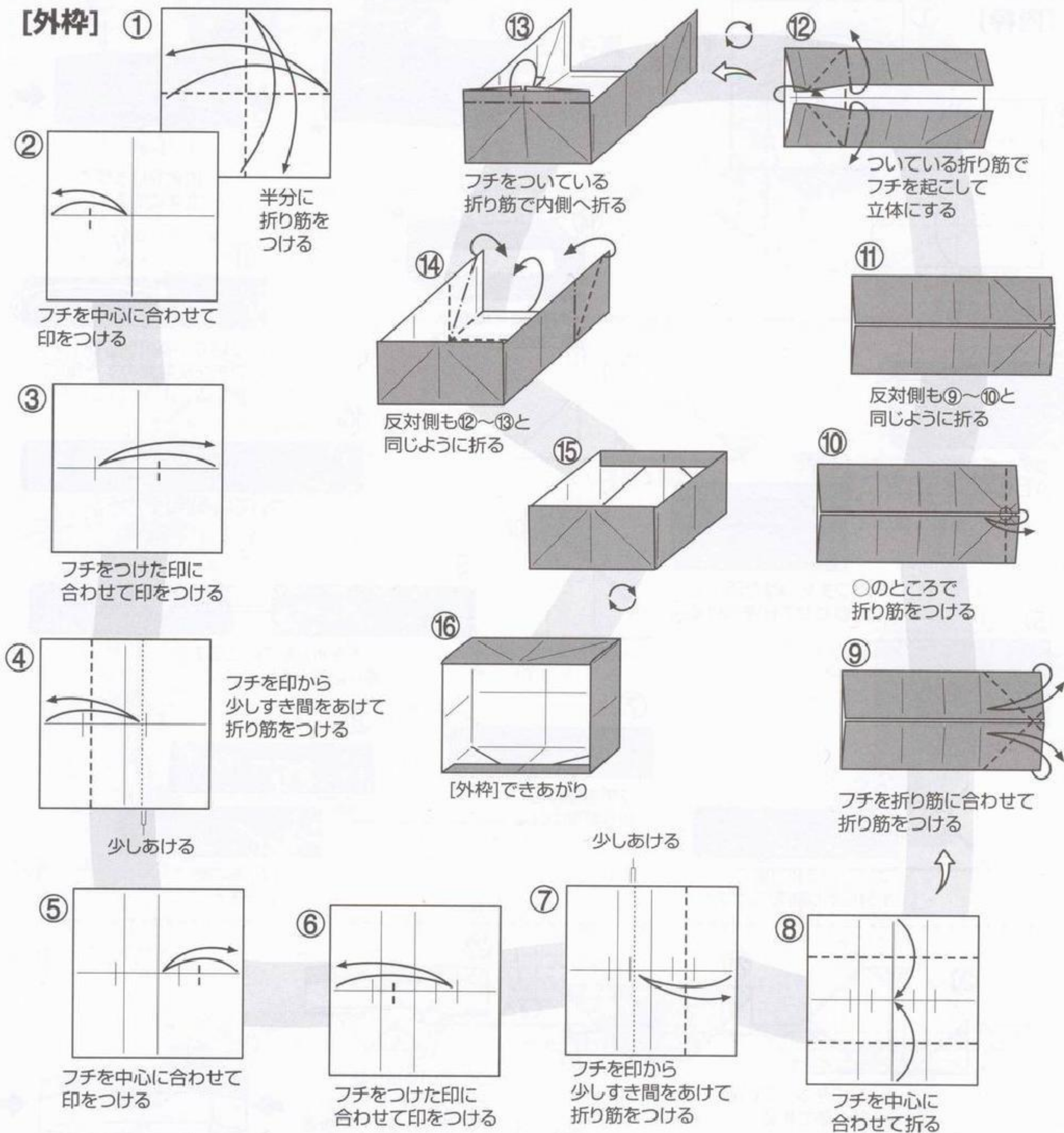


フチのところで起こす

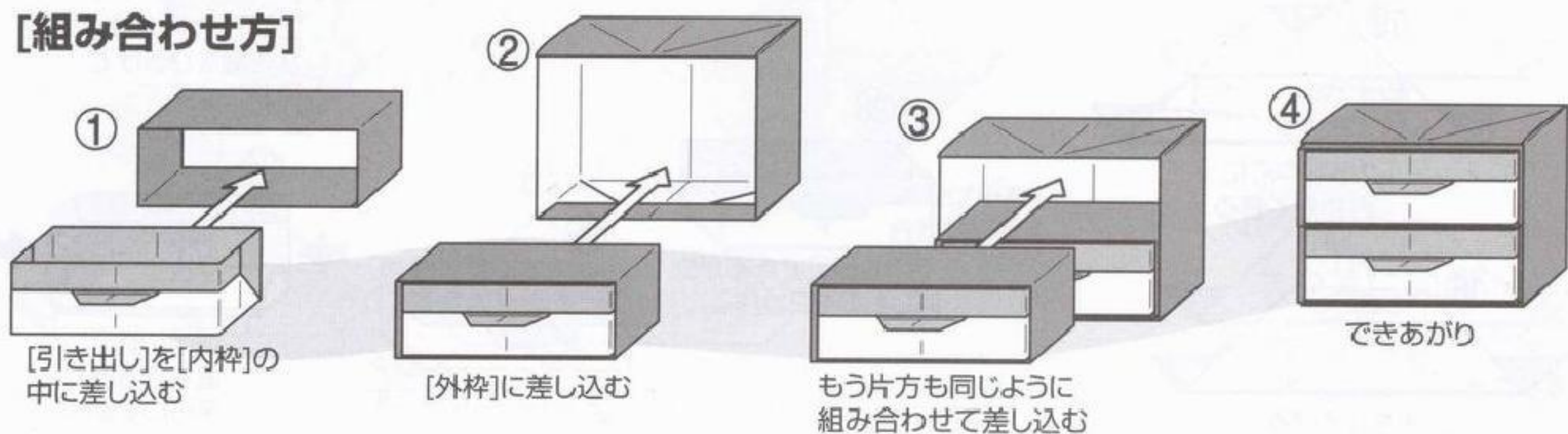


途中の図
底をひろげて
平らにする

[外枠]



[組み合わせ方]





影織り

伝統工芸の誕生と分野間の相乗作用

Shadowfolds: Birth of a Traditional Craft,
Synergy of Disciplines

クリス・パルマー Chris Palmer

翻訳: 羽鳥公士郎 Translator: Hatori Koshiro

伝統工芸とは何でしょうか。伝統工芸が人気を保ち、歴史の中で受け継がれてきたのはなぜでしょうか。伝統工芸は、いつ、どのようにして生まれるのでしょうか。誰が作るのでしょうか。

それらの答えの一部を、これから述べる話の中に見出すことができます。新旧の分野の相乗作用によって、古くて新しい折りの技法が生み出された物語です。この技法を導いた3つの要素、タイル、紙、布をそれぞれ検討することから始めましょう。

タイル

第1の要素であるタイルは、主題となる形です。タイルの輪郭線を表現する方法は数多くあり、使う素材によっても異なります。たとえば、異なる色の釉薬を使った陶器片を並べたり、木や漆喰に溝を彫ったりというものがあります。平面上のものを折って表現する場合、線は折り皺として表すことができます。

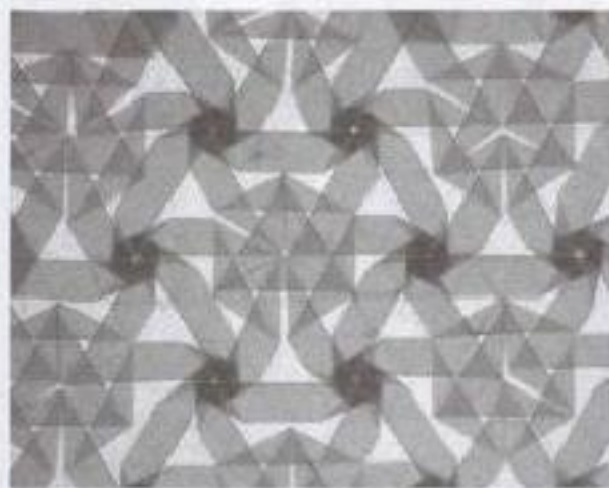
1960年代、藤本修三先生が、1枚の紙から切らずに折り皺を使ってタイルを表現する技法を編み出し、平織りと名付けました。これはユニット折り紙とともに、藤本さんの革新的な業績です。

タイル+紙→平織り

平面を折るという手法をとって、タイルの辺を折り皺にしたとき、タイルの頂点に扱いにくい構造が現れます。



漆喰に彫った溝



藤本さんの紙による平織り作品。タイルの頂点はねじり折りになっている

藤本さんは、この部分をねじり折りにしました。

私はこのような作品を、1991年にピーター・エンゲルさんとロバート・ラングさんから教えてもらいました。それまで、私はスペインに渡って、グラナダのアルハンブラで中世ムーア様式のタイルを研究していました。

帰国した私は、模写して研究したタイルを折り紙で表現する方法を探していました。私は当初、布施知子さんの平面的なキルト作品を参考にいろいろ試していました。エンゲルさんとラングさんにそれらの作品を見せたとき、両者とも、それを1枚の紙から折ったかどうかと言って、藤本さんの作品に言及しました。

その後すぐ、ポール・ジャクソンさんの本で、藤本さんの作品の写真を見ることができました。写真を頼りに自分で折って、藤本さんの技法を研究し、それを私が調査してきたタイルに適用して、新しい作品の創作を始めました。

この時期の、藤本さんの技法による作品では、友人であり共同制作者でもあるジェレミー・シェーファーさんに、大いに助けてもらいました。シェーファーさんとは2週間に1度会い、作品を見せ合ったり、直面した問題について議論したりしました。

1994年6月にOrigamiUSAのコンベンションに初めて参加したとき、布施知子さん、川崎敏和さん、前川淳さんから、11月に日本で開かれる折り紙

の科学国際会議に講演者として招待されました。訪日した際、うれしいことに、藤本さんのお宅を訪れ、先生の作品を見せてもらったり、私の作品を見てもらったりすることができました。

紙

藤本さんの技法による紙の皺を使った表現には、長所もあれば短所もあります。

平織り作品を作るときは、初めにあらかじめ必要な折り目をつけたり、山折りや谷折りの線を書いたりしてから、折り筋にそって徐々に紙を折ってまとめてゆきます。パターンは通常、格子状の多数の直線に基づき、それによって最終的なパターンが調和のとれたものになります。

このようなパターンを折るための素材として、紙にはいくつかの長所があります。1つには、折られた紙は比較的堅く、それぞれの平面が曲がりにくいので、2次元または3次元の複雑な形を保つことができます。また、それと関連して、折る位置を変えたり折り目を加えたりして、さまざまな変形を試すことができます。

藤本さんが初めにあれだけたくさんの平織り作品を生み出し、私を含め多くの人がこの分野で作品を作り続けることができるのも、このような紙の性質があってこそです。

しかし、タイルの輪郭線を皺で表現するための素材としては、紙には

短所もいくつかあります。中でももっとも大きな短所は、折り目のついた紙から最終的な作品を完成させるために、非常に高度な技術を必要とするということです。この主な理由は、折る過程で紙が大きくよじれることと、紙に柔軟性がないため破れやすいことです。

また、紙には耐久性がなく、水や



平織り。パターンを作るための格子状の折り目が見える

影織り

伝統工芸の誕生と分野間の相乗作用

Shadowfolds:

Birth of a Traditional Craft, Synergy of Disciplines

クリス・パルマー

Chris Palmer



紙のように堅い絹。有効な誤り

汚れによるダメージを受けやすいため、作品の応用範囲が、ほかの素材に比べると限定されてしまいます。さらに、紙は大きなサイズで作業することが難しく、そのため作品のサイズも限られてしまいます。

■ タイリング→紙→布 ■

紙のこのような短所や制限に不満を持った私は、1994～95年頃、紙で作るものと同じパターンが布でも作れないかと探求を始めました。

すぐに分かったことは、布に構造を与えることが難しいので、布を操作することで直接形を見つけるのが難しいということです。布を襷に折ることには長い伝統があるにもかかわらず、このようなパターンが(後で述べる例外を除いて)布では発達しなかったことも、このことから説明できるでしょう。

一方、紙の短所の多くが、布の優れた性質によって解消されます。もっとも重要なことは、以下で説明する「正しい技法」を使うことで、大きな作品を折るときでも、たいした技術が必要ないということです。

また、布には柔軟性があるので、折っている途中で面がよじれても、破れる心配はありません。さらに、布には耐久性があり、衣服やカーテン、ランプシェードなど、さまざまな用途に使用できます。



マリアーノ・フォルトゥーニ



三宅一生

■ 布折りの伝統と現代 ■

では、布で平織りを作るための「正しい技法」とは、どんな技法なのでしょう。それを説明する前に、伝統的な布折りの技法と、私が最初に試した、平織りを布で折るための「間違った技法」を紹介したいと思います。

古代ギリシャのチュニックや古代ローマのトーガと呼ばれる衣服で、布が襷に折られることがあり、布折りはファッションの世界で長い伝統があります。現代では、プリーツマシンを使って、マリアーノ・フォルトゥーニや三宅一生がすばらしいオートクチュールを生み出しています。また、日本の伝統的な絞り染めでも、特に棒巻き絞りと呼ばれる技法で、布を襷に折ることがあります。

今から百年ほど前にフランスで始まった技法では、襷を複数の方向に折ることができます。その技法では、2枚の厚紙をあらかじめ平織りにして型を作り、その厚紙のあいだに布をはさんで布と紙と一緒に折って、熱を加えて襷を固定します。

この技法の長所は、大量の布を素早く折ることができるということです。が、残念ながらこれは非常に高い技術を要します。フランスとイギリスの特殊な服飾メーカーが作っており、素人には簡単にできません。もう1つの短所は、多くの平織りパターンが可能であるものの、作ることのできないパターンもあるということです。



絹による棒巻き絞り、1997年

私が布で平織りを作ろうと思ったとき、最初に考えたのは、布にのりを塗って紙のようにしてから折るということでした。折った後、襷の根元に沿って手で縫い、形を固定しました。これには、キルトと同じぐらいの時間がかかります。

でき上がった結果には満足できましたが、紙と同じ短所が残っています。高度な技術が必要で、多くの人が簡単にできるというものではありません。布を紙のように堅くするというのは、平織りを布で折るための方法として、有効ではあるが間違った方法でした。

しばらくして私はある発見をしました。布を縫った後に外から力を加えて形を崩した場合、のりがなくなって布が柔らかくなっているとしても、布は自然にもとの形に戻ります。

■ 「正しい」技法 ■

布を折って藤本さんのような平織り作品を作るには、折ってから縫うのではなく、襷を作るのに必要な点をはじめに縫いつけて、その後で折るとよいのです。タイルの頂点での複雑な折りも、それぞれの襷を必要な方向に倒して、上から軽く押さえるだけで、自然に形作られます。

布を折るためには紙のように堅くしなければならないという誤った観念はあまりに強固なので、この方法でうまくゆくということは、実際に自分の手で体験してみないと信じられないかもしれません。



フランスの布折りの技法による例



最初に縫って(右上)後で折る(左下)

この方法は、平織りのような複雑な形を作るには難しい操作が必要だという先入観に反するものです。布による平織りは、初歩的な裁縫の技術があれば作れるので、平織りを作るのもっとも優れた方法だと言うこともできるでしょう。

この技法を見つけてすぐに、実はこれは古くからあるもので、スモッキングと呼ばれているということを知りました。平織りを作るためのもっともよい技法として私が見つけた技法は、ヨーロッパで200年ほど前から伝えられていた技法と同じでした。

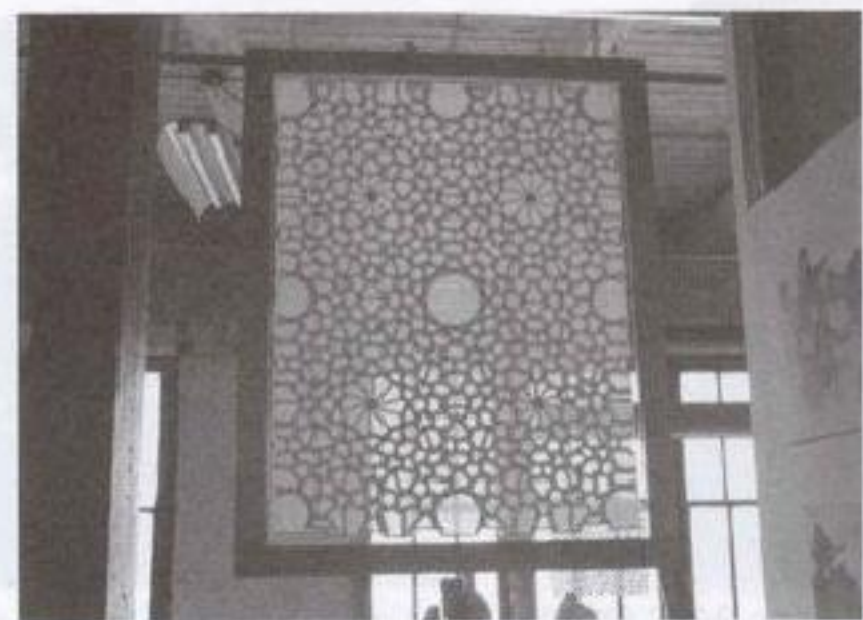
伝統的には、この技法で作られるものの大半はアコーディオンプリーツで、タイリングの線を表すような伝統的なパターンは、単純なものがいくつかあるだけです。その中でもっともよく



カナディアンスモッキング。正方形の平織り

知られているのは、カナディアンスモッキングと呼ばれるもので、折り紙で言えば正方形のねじり折りです。

今や、藤本さんをはじめとする多くの人により紙を使った平織りパターンが豊富に生み出されており、そしてそれを布で折るための正しい技法が明らかになったので、スモッキングというあまり知られていない伝統に、数えきれないほどたくさんの新しいパターンを加えることができるようになった



間仕切り、1997年

○ Chris K. Palmer (クリス・パルマー) = 紙や布を使った幾何学的な作品を専門とするアーティストとして活動している。最近まで、コロラド大学ボルダー校で建築デザインを教えていた。

2009年に山口さんと藤本先生のお宅を訪れたときの写真



わけです。

私がこの技法を発見したのは1995年でした。それ以来、布で平織りを作り、ランプシェードや部屋の間仕切り、ファッション、ベッドカバーなど、さまざまな作品に応用しています。

まとめ

さまざまな要素が本当にうまく混じり合って、このような作品を作ることができるようになりました。平織りという新しい折り紙の技法、スモッキングという伝統的な裁縫の技法、そして中世のタイリング。これは、日本、ヨーロッパ、西アジアの文化の混交でもあります。

要素が組み合わさることで、1つだけのときよりもすばらしいものが生まれる。まさに相乗作用です。このようにして、伝統は生き続け、発展し、ある意味で生まれ変わるのだと思います。

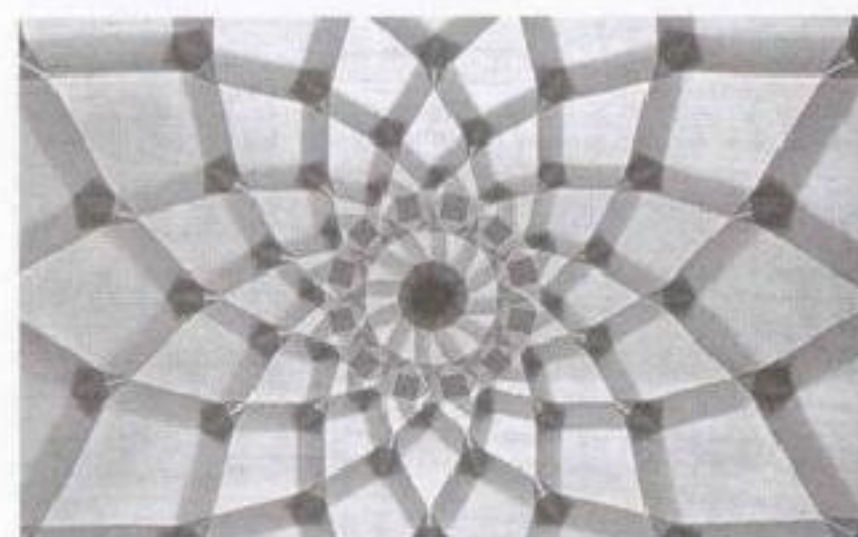
このように話すと、この異分野の混合が論理的で必然であったように思われるかもしれませんが、しかし、問題が解決されるまでは、多くの錯誤があり、先入観を乗り越える必要があったのです。ほかの伝統工芸でも、そのようなことがかつてあったということがあまりに明らかなので、それが忘れられているのでしょう。

日本を訪れ藤本さんに会うことを可能にしてくれた、布施さん、川崎さん、

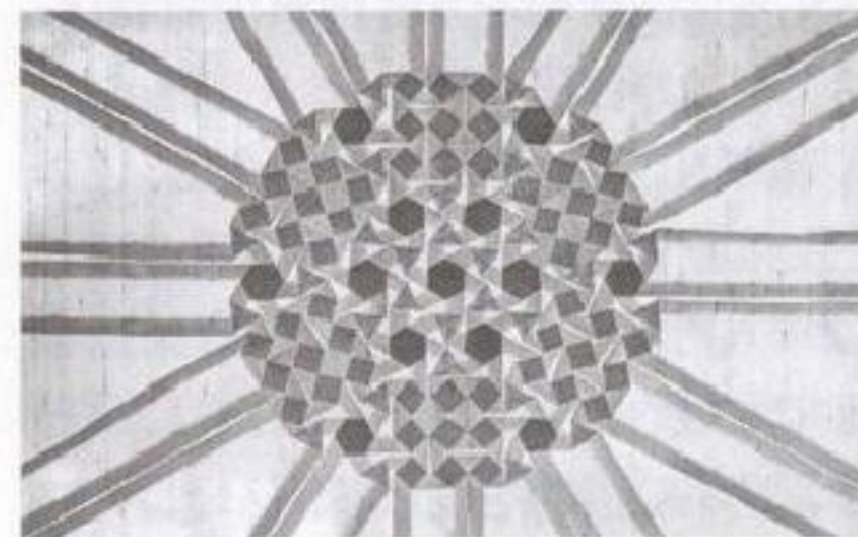
前川さんに心から感謝します。また、藤本さんの遊びに満ちた幾何学の探求から多くを学んだことを誇りに思い、これからも藤本さんの足跡をたどりたいと思います。そして、この文化交流の実現を非常な寛大さで支援して下さった山口真さんにも感謝します。

今後、私の経験から得たものを、日本折紙学会のみなさんはもちろん、折り紙の分野を越えて裁縫の世界にも伝えてゆきたいと思っています。

布で折った平織り作品をもっと見たいという方は、www.shadowfold.com にぜひいらしてください。



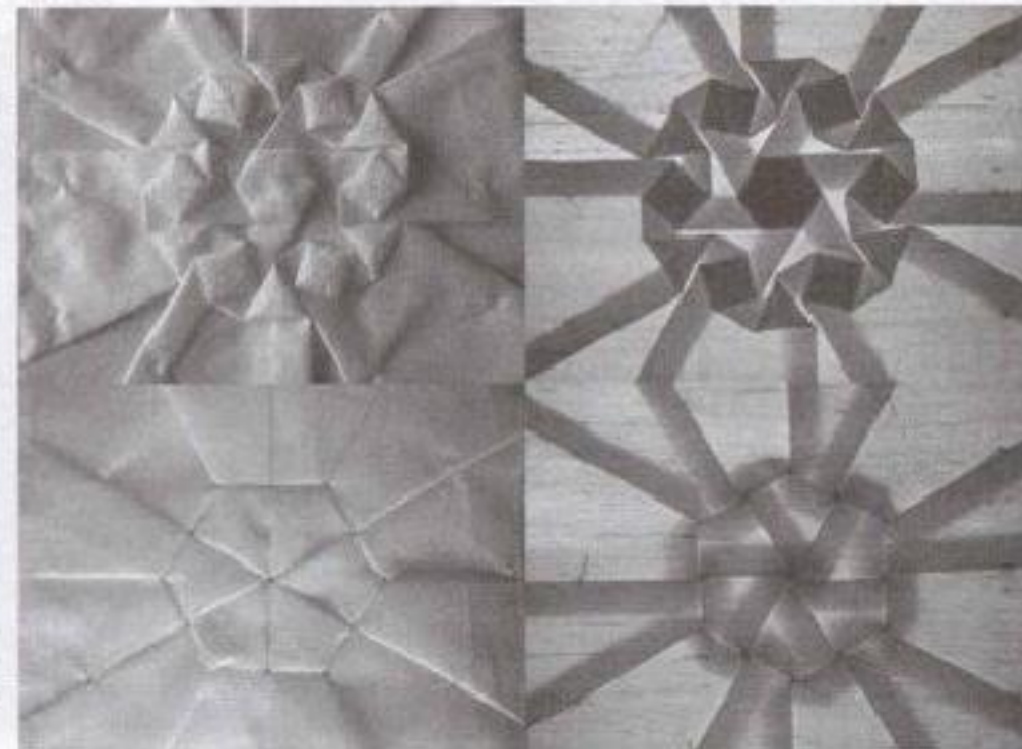
「12-Fold Progression」絹による平織り、1997年



「Watering Fujimoto's Garden」絹による平織り、1997年



オートクチュール。デビッド・ロドリゲスとの共作、1998年



表(光なし)、表(光と影)、裏(光なし)、裏(光と影)

第2回 佐野康博 私を育ててくれた人

Sano Yasuhiro: The Man Who Made Me Who I Am

前号で紹介した阿部恒さんは、いわば私の折り紙界での恩師である。今回紹介する故・佐野康博さんは、いろいろな意味で私の人生の師と仰ぐ方だった。

日本折紙協会(以下NOA)は、様々な意味で「大きなところ」であった。特に私にとっては、40年間の折り紙人生の中で、外すことのできないところである。言ってしまうと、並の生き方をしてこなかった私を修正し、育ててくれたところと表現しても過言ではないだろう。その中でも特に、佐野さんには長い間公私にわたってお世話になり続けた。残念ながら5年前に他界されてしまったが、今でも感謝の気持ちは変わらない。

佐野さんはNOAの設立以降からそのまとめ役として活躍され、その統率力とカリスマ性で皆を引っ張り、現在の形まで育て上げた。その頃佐野さんと共に活動をする理事の方々は、今の私よりも若かった。

私がNOAの事務局にいた頃、佐野さんは副会長であった(その時の会長は平凡社社長の故・下中邦彦氏)。前回でも触れたが、当時のNOAは、(株)サンリオの援助を受け、事務局はその社内に置かれていた。サンリオの方からはNOA事務局員として社員が出向

してきていた。このような環境ができたきっかけは、長野耕平氏、下中邦彦氏の力に依るところが大きい。

佐野さんは折り紙の世界にありがちな考えの小さいところがなく、決断力があり、常にスケールの大きさを漂わせ、何気ない動作の中にも力を感じさせていた。その後をついていく私に戸惑いは無かった。当然、NOAの運営には大きな影響力を持っていた。

また佐野さんは、NOAだけでなく他にもいくつかの役職を兼任されていた。中でもJKC(ジャパンケネルクラブ)理事をされていた頃は、そちらの方も忙しく、なかなかNOAの事務局や理事会にも顔を出せないでいた。しかしある時期からJKCとは距離を置くようになり、その分NOAに力を注ぐようになった。事務局にも顔を出すことが多くなって、私を安心させてくれた。

NOAが本格的に動き出したのは、やはりサンリオの中に移ってからだと思う。それほどサンリオの影響は大きかった。良い言葉ではないが、できたばかりのNOAは寄せ集めの所帯で、

組織として成長していくには、大なり小なり問題も多かった。決断を下せるリーダーを必要とし、そこで力を発揮されたのが、佐野さんであった。

ある時、私たち家族が佐野さんを食事に招待したのだが、その招待した佐野さんに奢られてしまった。どうしても払わせてほしいといった私に、佐野さんは「君が少しでも大きくなったら、次の若い人にね。」とおっしゃった。次世代の大切さを暗に指導されていると感じた。それは私も同じ考えなので納得してその場は佐野さんに従わせていただいた。このことは、数十年経って若者が集まり、お互いに刺激し合って成長していく日本折紙学会(以下JOAS)の活動の中にも生きている。

また、佐野さんはせっかちな私をよく諭されたものだった。事を急いで何かしようと進言すると、「マコちゃん。ほ いっぱ歩一歩だよ。」と。今でもこの言葉は私の中に大切にしまってあり、何かにつけ自分を戒める時に使っている。

他にもJOASに活かしている、佐野さんの言葉がある。それは、JOASの前身の折紙探偵団ができた頃、これを参加する者のボランティアで運営してい



'91年、『秘傳千羽鶴折形』出版記念パーティーで下中邦彦氏に記念本を贈呈する佐野さん



同じパーティーで折紙探偵団が表彰され、探偵団初代代表の木村良寿氏に賞状を佐野さん



'94年、佐野さんはおりがみはうす移転オープンパーティーにもかけつけて、お祝いしてくれた

○やまぐち真(ヤマグチ・マコト)
=1944年東京生まれ。NOA事務局を
経て、おりがみはうすを設立。海外交
流を積極的に行うと共に若手育成に
努力。NOA理事、JOAS事務局長兼顧
問。趣味は競馬。



く事を話したときだ。「マコちゃん。ボ
ランティア程パワーのあるものはない
よ。」とおっしゃった。確かに、専従の
職員もないJOASが、20年間活動を
続け、今でも成長しつづけることがで
きているのは、無償による皆の協力に
よるものに他ならない。

私がフリーで仕事をするように
なった頃、JKCの発行する『家庭
犬』という雑誌に佐野さんの犬の折り
紙が連載されることになり、その犬の
折り図を描く仕事を、佐野さんは私に
紹介してくれた。数年間続いたこの連
載で描き貯めた犬の折り図は、何年も
前から『佐野康博作品集 犬の折り紙』
として編集し、おりがみはうすで出版
することを考え続けている。これが実
現できれば、佐野さんも草葉の陰から
見て喜んでくれるに違いないと思っ
ているのだが、目の前の仕事をこなす事
で作業が遅れているのが、今現在も
気がかりでならない。

佐野さんにはお世話になりっぱなし
であった。だから佐野さんの折り紙人
生の一端を紹介する、紀伊國屋による
ビデオの製作をプロデュースする事
ができたことは、私にとって喜びの大
きい思い出の一つである。

NOAがいろいろな事情でサンリオ
から出ることになり、次は平凡社

のお世話になった。当時の平凡社の
敷地内にある日本家屋へ事務局を移
した。それからしばらくして、完全な独
立が実現し、現在のマンションに事務
局を置くことになる。この件でも佐野
さんの力は大きかった。銀行との取引な
どは、殆どが佐野さんの力によるもの
であったと思う。

佐野さんの訃報は、あまりに突然
であった。忘れもしない2003年
の12月24日。その月の最初に、フラン
スを中心とした、折り紙愛好家による
ツアーで来日した方々を招いて、NOA
とJOASで昼食会を開いたのだが、そ
の時に出席していただいたのが、直接
お会いした最後となってしまった。

お宅に駆けつけ、佐野さんのお顔を
見たときには、寂しく、涙した。

葬儀の日、ご家族から1枚のハガキ
をいただいた。亡くなる当日に書いて
いたという未投函のハガキは、私と西
川誠司氏に宛てた昼食会に対する礼
状であった。

佐野さんは生前、後継者として次
男の佐野友さんをNOAの専務
理事に就任させていた。その当時は
「世襲だ」という言葉が飛び交った。
私もそう思ったものだ。だが時間が経
つにつれ、その考えは間違いだったと



若手を気遣ってくれていた佐野さんは、お願いすると
いつでも気持ちよく駆けつけてくれた。初期の頃の折
紙探偵団コンベンションで故・吉野一生氏(左)、故・
高濱利恵氏(右)と手前は佐野さんに名前を付けて
頂いた私の娘の圭

気づかされた。友さんは世間をしっか
りと見てきた経験を生かし、就任から
着々と今までのNOAにはなかったセ
ンスを発揮している。それはNOAが現
在もしっかりと発展を続けている事で
証明されている。

もうかなり長い間、NOAの理事を拝
命している。発言権があまりない
理事だが、それでも佐野さんに恩返し
ができたかと縁の下の努力はしている
つもりだ。佐野さんが亡くなられて大
分経ってから、ある方から、生前に「山
口は入れるな」と言っていたと伺った。
それは多分「常任理事へ入れるな」と
いう意味だと思う。一見厳しい言葉の
ようだが、私には最高の褒め言葉だ
と思っている。



JKCの『家庭犬』には
佐野さんの犬の折り紙が
4年近く連載された



'92年のNOAのシンポジウムで佐野さんを挟んで、招待者のロバート・ラング氏
(右)、ジョン・モントロール氏(左)、左端には木下一郎氏の顔も見える

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

西川誠司 Nishikawa Seiji

14冊目 『おりがみ』 河合豊彰著

“Origami” by Kawai Toyoaki

<はじめに>

今回取り上げるのは河合豊彰著『おりがみ』(1970 保育社 カラーブックス)です。存在感のある朱の和紙で折られた「般若面」が表紙を飾る本書(写真1)ですが、40歳以上の愛好家なら、いわゆる創作折り紙に目覚めるきっかけの一つが本書だと言う方も多いのではないのでしょうか。筆者もまさにそんなひとりです。著者の河合豊彰氏(1932-2007)は、演劇の演出や舞台装置作りの傍ら次第に創作折り紙に傾倒し、本書を著すこの年には大阪万博で折り紙の「はと」を機械仕掛けで羽ばたかせてみせます。1960年代の終わり頃には折り紙動物を動かす展示が河合氏の特徴の一つになっていたようで、本書でも「はと」の仕掛けは見開きカラーで紹介されています(写真2)。このことは2009年1月9日付日本経済新聞文化欄への敦子夫人の寄稿文にも舞台装置の経験を生かした河合氏の面目躍如たるエピソードとして記されています。



写真2 大阪万博で展示された「はと」

<創作折り紙への誘い>

さて、保育社のホームページによれば、同社の人気出版物「カラーブックスシリーズ」は1962年の『ヒマラヤ』をNo.1として、現在909のアイテムがあるといえます。『おりがみ』は1970年初版の同シリーズNo.198です。900を超える同シリーズの中にあって本書は、先のホームページ上でも列車シリーズと並んでトップページにレイアウトされる代表アイテムです。本書は71全作品がカラー写真として掲載される“カラーブックス”に相応しい構成となっていて、そのうち63作品の折り方が示されています。43作品はモノクロ写真による図解となっています(写真3)。写真による図解は、立体的な形がそのまま表せる利点がある一方、紙の稜線を判別しにくい、山谷線が記載しにくいなど意外に分かりにくいものです。まして、本書はどんな作品もたった10工程程度で手順が示してあるに過ぎません。現代の折り図は再現性を重視し、一図一工程で図解することが主流になってきていますから、単に折り方を知りたい向きには不親切と受け止められるかもしれません。しかし、本書は鶴のモノクロ写真で構成された標題紙に副題として“創作への誘い”とあるように、『折紙探偵団』108号で小松英夫氏が紹介した桃谷好英氏



写真3 写真図解。河合氏は、この後『折り紙全書』(1974 主婦と生活社)では、更に写真図版を多用し、立体的な図解を試みている。一方で、『おりがみII』(1974 カラーブックス291 保育社)や『おりがみ入門』(1975 カラーブックス339 保育社)では、写真図解は行っていない

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/>にアクセスしてください。

の著書『折り紙入門』(1971 西東社)と同様、創作折り紙というジャンルを啓蒙しようという意欲が全体を貫いています。そういう目で眺めてみると美しいカラー写真で最終的な造形イメージを示しながら、飛躍した図と図の間を彷徨わせることによって、創作的体験を読者に提供していると考えられなくも有りません。そういう試行錯誤を楽しめた読者にとって、本書はまさに良質の創作指南書となっています。

そういう仕掛けの一方で、本書は、動物、鳥、花、面などが華やかなカラーページを中心とした前半96ページに続き、後半部は論述を中心に“作品例の折り方”、“基礎折りについて”、“日本人と折り紙”、“折り紙の歴史”、“創作折り紙のために”、“教育折り紙”の項立てで約50ページの折り紙論が展開されます。歴史の記述などは、近年の検証によって修正すべき箇所も見られますが、和紙や教育での折り紙の効用をも網羅的に述べながら、戦後～1960年代末までの国内外の創作折り紙の潮流をダイナミックに簡潔に記述しています。

<造形への強い意識>

少し、個別の作品についてふれてみましょう。収載作品は、「ぞう」、「きりん」、「文鳥」、「たちづる」、「かめ」といった生き物から花器に生けた花々、表紙を飾る「般若面」や「能装束」(写真4)などの日本的な題材や同じ面でも中国の「京劇



写真4 「能装束」能楽師の足取りが見事に象徴化されている



写真5 「京劇面」
独特の隈取りの雰
囲気が面白くデザ
イン化されている。
本書以降はこの手
の趣向はあまり発
表されない



写真6 「赤と黒」
現代感覚からすれば
構造は至ってシンプ
ルだが、写真図解の
見難さも相まって、
実は筆者も中々折
り方が解らなかった
作品。右下「二つの
顔」は折り図掲載さ
れていない作品

○西川誠司(にしかわ・
せいじ)=JOAS評議
員代表1963年6月13
日生まれ。本書に出
会ったのは8才のころ。



面」(写真5)や「赤と黒」(写真6)といっ
た抽象的なものまで、テーマの幅は極
めて多様です。これらの作品の根底を
流れるのは、自然を写し取る際立った
描写力で世界の創作折り紙という芸術
ジャンルを牽引した吉澤章氏の芸術性
とは異なり、人の造る造形美といったも
ののように思います。例えば、生物であ
るはずの「馬」(写真7)や「はねているこ
うま」(写真8)などは非常に強い意志を
持って紙の表裏のコントラストでデザ
イン化されています。また、「面」という題材
も、生物的な顔を写すのではなく、まさ
に能面のように心の内面を象徴、様式
化した造形美を目指しているように感
じられます。造形ということについて本
書内で河合氏自身は以下のように述べ
ています。「創作をこころみる場合、複雑
な折り線による造形も結構ですが、なる
べく折るプロセスを少なくして、単純な
線で、対象の真実に、より一層接近させ
えた作品ほど、創作価値は高いのです。
作家を志望する人は、特にこのきびし
い制約を自分に課して、造形的な美を
極限まで追求するようにしてほしいもの
です。」(p-144)。

<技術的なこと>

折りの何種類かのパターンを本書
では「基礎折り」と呼んでいます。
「基礎折り」を展開させて数多くの作品
が折れるというのは、当時の標準的な

共通の技術的基盤ですが、本書では現
在一般的に用いられることの多い、伝承
作品名に紐づいた呼称を用いず、あく
まで本書内で取り上げられている作品
に関連した名称を用いています。鶴の
基本形はそのまま「つるの基礎」ですが、
例えば風船基本形は、収載作品から「帽
子の基礎」あるいは魚の基本形は「らく
だの基礎」という具合です。もっともこの
ことは本書内でも非常に意識されてお
り、河合氏自身以下のように述べていま
す。「折り紙の古い伝統を持つ日本では、
いろいろな考え方があり、基本型の種
類も、その名称もまちまちです。本書で
は、これまでに、つるの基礎だとか、帽子
の基礎というように呼んできましたが、こ
れらにもまた別の名称が与えられてい
ることもあります。」(p-120)。更に、「みな
さんも折って行く途中で、また新しい基
礎折りというものを発見することができる
かも知れません。折り紙にはそんな可
能性が秘められているようです。」(p-
121)あるいは、「ただ平面の一枚の紙の
中にも、無限の折り線がかくされていま
す。その限りない折り線の中から、テー
マを形づくるために必要な折り線を選
び出し、作品を折り上げていくのです。」
(p-144)と、既存の基礎折りの体系付
けでは表現しきれない創作折り紙の技
術的可能性に言及しています。また、2
-3枚の紙を用いる「複合体」や「ハサミ」

の効用については以下のように積極的
に述べています。「かまきりの細い四本
の足と振り上げた鎌とを思い浮かべて
ください。それに加えて三角の顔と後
半身の羽とを考えると、一枚の紙では
とてもムリなことがおわかりでしょう。
一中略一このようなときに、複合体で作品
を折ることを考えます。一中略一このよ
うに動物には、前半身と後半身とを分
けて二枚の紙で折るとおもしろい形の
できるものがあります。」(p-146)。更に、
「ハサミを使わないという制約を設け
ることによって、創意工夫の楽しみが倍
になります。けれども、ハサミを全然使っ
てはいけなさと決めてしまうのも窮屈
な考え方になります。一、二カ所の切り
込みを入れることによって、思ってもみ
なかったすばらしい造形がうまれると
いう場合にかぎり、ハサミを使ってもよ
いことにしています。」(p-145)。設計理
論が発展した現代の視点からは、技術
的革新前夜の典型的折り紙観と見え
るかもしれませんが、しかしながら、折り紙
がなぜ面白いのかを突き詰め考え、造
形としての面白さや美しさを基準にと
れば、現代でもなお十二分に通じる課
題を提供していると言えるでしょう。

<おわりに>

本書は、折り紙造形の可能性を強
く信じて、創作折り紙の行く末を
見極めようと極めて意欲的に書かれ
ており、前半部のカラーページと後半
部の記述を併せ、大人のための折り紙
の本としての高い完成度を得ていると
言えると思います。河合豊彰氏の創作
は、1980年代以降は面～仏像へと特
化してゆきます。このような造形テー
マへの収斂の原点に本書で展開された
折り紙造形への考察があります。



◀写真7 「馬」
表裏のコントラ
ストを巧みに使っ
て、馬の自然を
写すというより折
り紙の幾何学造
形面を鮮明にし
ている

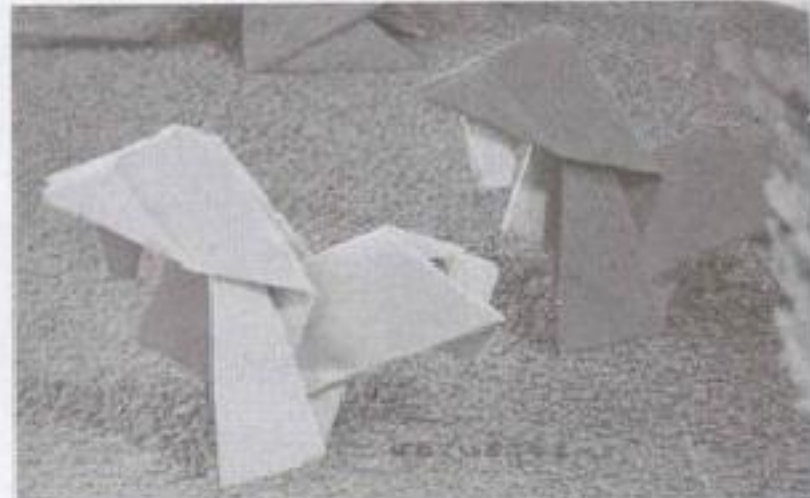


写真8 「はねているこうま」は、更に置物のよう
に抽象化されている

折線雑考

A Long Excursus on Crease Lines

目黒俊幸 Meguro Toshiyuki

第4回

君が瞳はつぶらにて

How Cute Eyes You have

今回は「若い女性の顔」の折り方を書いていきたい。

前回まで折紙技法の中で面を扱う方法について記してきたが、それはそれでおいといて、今回は「若い女性の顔」である。前回までの話に出てきた面配置法とかを応用するのかというと、特にそんなわけではない。

「若い女性の顔」を折るためになにより必要なものは、「おれは若い女性の顔が折りたいんだ、若い女性の顔が折りたいんだ、折りたいんだよう」という魂の叫びである（だけどリアルで叫んじゃだめだよ）。

若い女性の顔というものは、男性にとって極めて重要な形である。当然、折り紙でも折ってみたいと思うわけだが、これが結構折れない。

若い女性の顔自体が特別に複雑な形態をしているわけではないが、それでも折りにくいということは、若い女性の顔を見る側の人間の認識基準が厳しいのだ……と思います、多分。

そういう事情はあるものの若い女性の顔を折るのが本当に難しいのかというと、そんなこともない。ちょっとしたコツを覚えれば、だいたいアヤメを折るくらいの難度だと思う。今回は、まず実際に折ったものを紹介し、あわせて必要なコツを書いていきたい。

写真1は女性の顔が再現性を持って折れるようになった最初の作例。髪

の毛はティッシュペーパーを丸めている。実はこの作例にたどり着く10年くらい前から「若い女性の顔」を折りたいと思っては挫折を繰り返してきた。そういう意味でこの顔が折れたときは相当うれしかった。このときは「若い女性の顔」を折るためのポイントがわからずに試行錯誤を繰り返していたのだが、とりあえず、余計なシワを出さないようにしようとは思っていた。今振り返って見れば、たまたま目が大きく折れたので女性度を稼げたことと、余計なシワを出さないようにしたので鼻から下の部分でマイナスポイントが生じなかったことがうまく折れた原因だと思う。

写真2は写真1の作例の後で立体的でリアルな「若い女性の顔」を折りたいと思って取り組んだもの。この時は何

度も何度も「立体の若い女性の顔」を折ろうとしたのに、そのたびに「変なをぢさん」が現れるという絶望的な状況だったが、たまたま数打てば当たる方式で折れたものだ。おさげの少女の出現を期待しながら毎回おさげのをぢさんが現れるという虚脱感の中で諦めずにチャレンジを続けられたのは写真1の作例によって折り紙でも若い女性の顔は折れるという確信が持てていたからである。何を対象に創作をするときでも“折れるはず”という確信を持つということは極めて重要なだった。

写真3も立体的でリアルな「若い女性の顔」を模索していた頃の作例。これは写真うつりがよかったもので、実物を撮影している段階ではこの表情は期待していなかった。デジカメの写真を整理した時この表情を見つけて自分で驚いた。そういった偶然ではあるのだが、写真うつりのおかげだろうが何だろうが、狙っているテーマを追求する時は具体的なイメージが大事なので、この表情が撮れたということは幸運だった。

写真4は「若い女性の顔」を折るコツがわかりかけてきた頃の作例。「若い女性の顔」をテーマとしているが、より若い女性の顔を追求するのも魅力的なチャレンジだ。だからと言って「おれは幼女の顔が折りたいんだよう」とリアルで叫んでは絶対にいけない。それはさておき、この作例は最初に折り上がった時は成人男性的な雰囲気顔の顔だったのだが、表情を微調整していく



写真1



写真2



写真3

目黒俊幸（めぐろ・としゆき）＝
1965年生まれ。24才から本格的に
折紙を始める。代表作は円領域分子
法、横分子蛇腹法、面配置法など。
近年のテーマは萌顔の折り方。



うちに目が大きくなって少女らしくなっ
た。「若い女性の顔」を折ろうとしたの
に、最初の折り上がり形が男性的にな
ることはよくある。そこから微調整を繰
り返して「若い女性の顔」にもっていく
わけだが、その際にも「若い女性の顔」
を折るためのコツを意識することが重
要である。

写真5はできるだけ簡単に立体的な
「若い女性の顔」を折ることを追求し
たもの。写真2,3,4の作例は本折りを
始める前に用紙に折り筋をつけるな
ど折り方が面倒だったが、写真5は用
紙に折り筋をつける必要もなく楽に
折れる。先ほど「若い女性の顔」を折
るのはアヤメを折るくらいの難度だと
書いたがそれはこの写真5の作例の
場合である。

さて、これまでに何度か「若い女性
の顔」を折るためのコツというも
のが出てきたが、それが具体的にど
んなものであるかを以下で記してみ
たい。

普通に考えれば「若い女性の顔」を

折るためには、いかに女性として魅力
的な目や鼻や口等を折り出すかが大
事なように思えるが、実は私の経験で
はそれは2番目に大事なことで、決し
て最優先事項ではない。

「若い女性の顔」を折るために最も
大事なことは、いかに目や鼻や口等の
各パーツの男性度を上げないように
するか、ということだ。

このことは、なぜ「若い女性の顔」は
折りにくいかを考えれば納得が行く。
過去に女性の顔を折ろうとしたことが
ある人なら身にしみて感じていると思
うが、「顔の折り紙では、1ヶ所のパー
ツでも男性度が高ければ他のパーツ
でいくら女性度を上げて、変なをぢ
さんの顔になってしまう」という非常に
困った事情がある。これを「顔の1ヶ所
でも変なをぢさんなら顔全体が変な
をぢさんの法則」と呼ぼう。この法則は
非常に強力で逃れ難いので、まずはこ
の法則が発動しないように各パーツ
の男性度を上げないように注意するこ
とが第一条件なのだ。

では各パーツの男性度を上
げないようにするには具体的に
どうすればよいか考えてみよう。

目や鼻や口等の各パーツに
はそれぞれの特性があって、男
性度の上がりやすさにも差があ
る。目は鼻や口に比べて男性度
が上がりにくいので比較的気楽
に折ってもかまわない。一方、鼻
や口は男性度が上がり易い部
位なので、ここは慎重に折る必

要がある。

要するに「若い女性の顔を折る」と
いうことは、結局「鼻から口にかけての
部位を男臭さを感じさせないで折る」
ということなのだ。それさえできれば、
後は適当に目を折って、輪郭を丸くし
て、髪型を女っぽくしたら、極めて当然
に「若い女性の顔」が折れる。読者の中
には「えっ、ぜんぜん女性らしくする工
夫をしていないけど、本当にそれで若
い女性の顔が折れるの?」と不思議に
思う人がいるかもしれない。しかし折れ
るのである。なぜかという、顔の造形
には髪型という強力な女性雰囲気付
与パーツがあるので、顔面自体は中性
的でありさえすれば髪型と合わせて女
性的な雰囲気を出せるからだ。

んな訳なので「若い女性の顔」を
折りたいと思った折紙創作者が
取り組まなくてはいけないことは結局、
「どんな折り方でもかまわないので鼻
から口にかけての部位を男臭さを感じ
させないで自然に折る方法を身につ
ける」ということにつきる。これを意識
することがコツなのである。今まで「若
い女性の顔」を折ろうとして失敗した
経験のある人は試しにこのコツをふま
えて創作に取り組んでみてほしい。逆
にこのコツを無視すると、目や髪型を
いくら女性的に折っても鼻や口の折り
方で「顔の1ヶ所でも変なをぢさんなら
顔全体が変なをぢさんの法則」が発動
し、目と髪型が少女漫画的な変なをぢ
さんが量産される悲劇が繰り返される
ことになる。ああっ、何て恐ろしい。



写真4



写真5

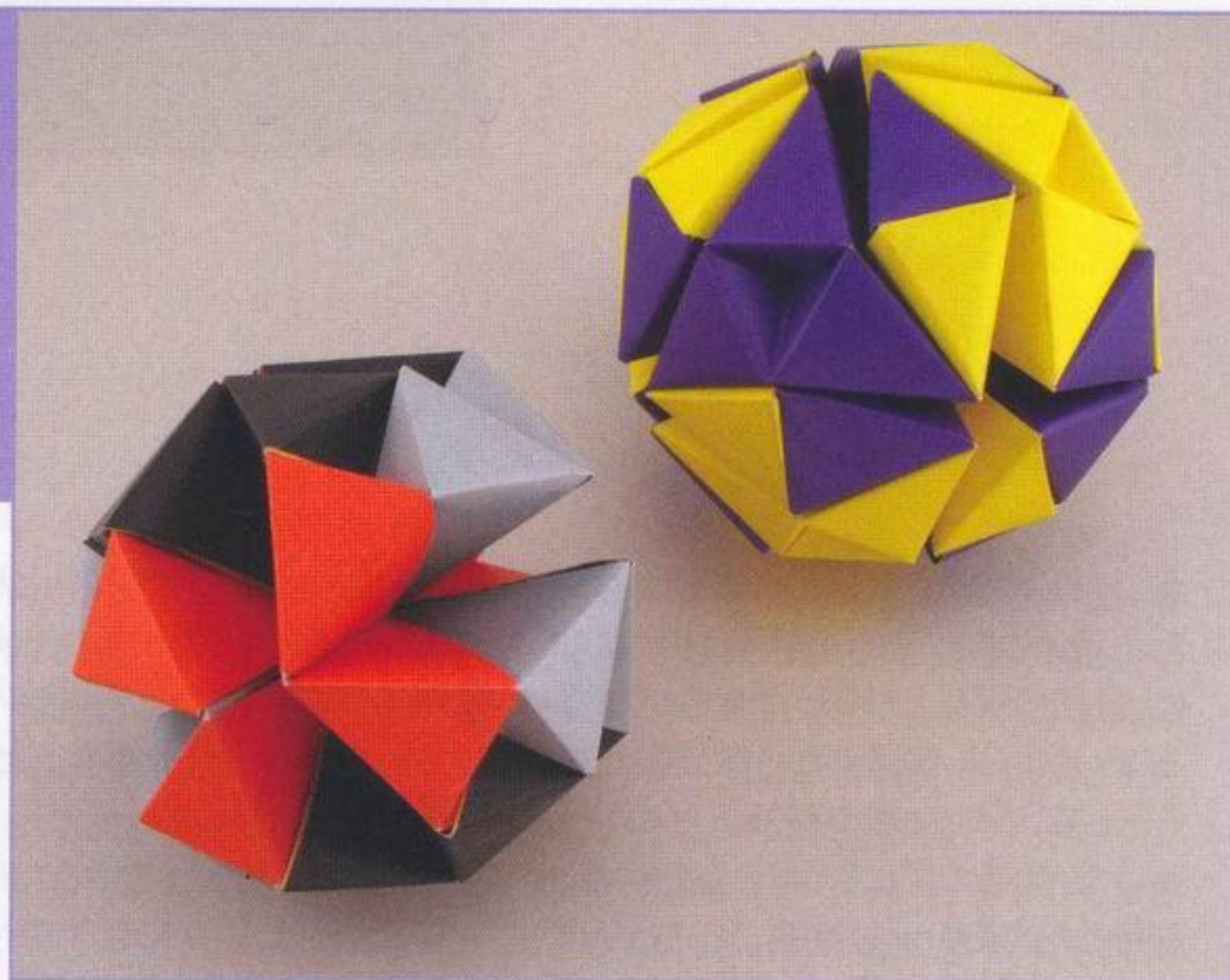
スタッフの準備作業も佳境に入り、いろいろな要素がコンベンションに収束してゆく雰囲気。
今年もいつもの東洋大学で、お会いできるのを楽しみにしております。

「クレバス12枚組」「クレバス24枚組」

作：田中将司(P.4)

CREVASSE (12 modules, 24 modules) :
Tanaka Masashi (P.4)

■パーツどうしはしっかりと噛み合っている。にもかかわらず完成後に、微妙に少しだけカタカタと不安定に動く。全体の張力バランスで、自然に球形として成立・完成する不思議なユニットです。



「ミニたんす」作：やまぐち真(P.8)

Mini-Chest: Yamaguchi Makoto (P.8)

■ドールハウスに欲しかった家具が満を持して登場。小さな取っ手がついていて、スムーズに引き出したり引っ込めたりできるようになっています。その中には実は、「山口シャツ」と「山口くつした」がギッチリ詰まっていたりして!?

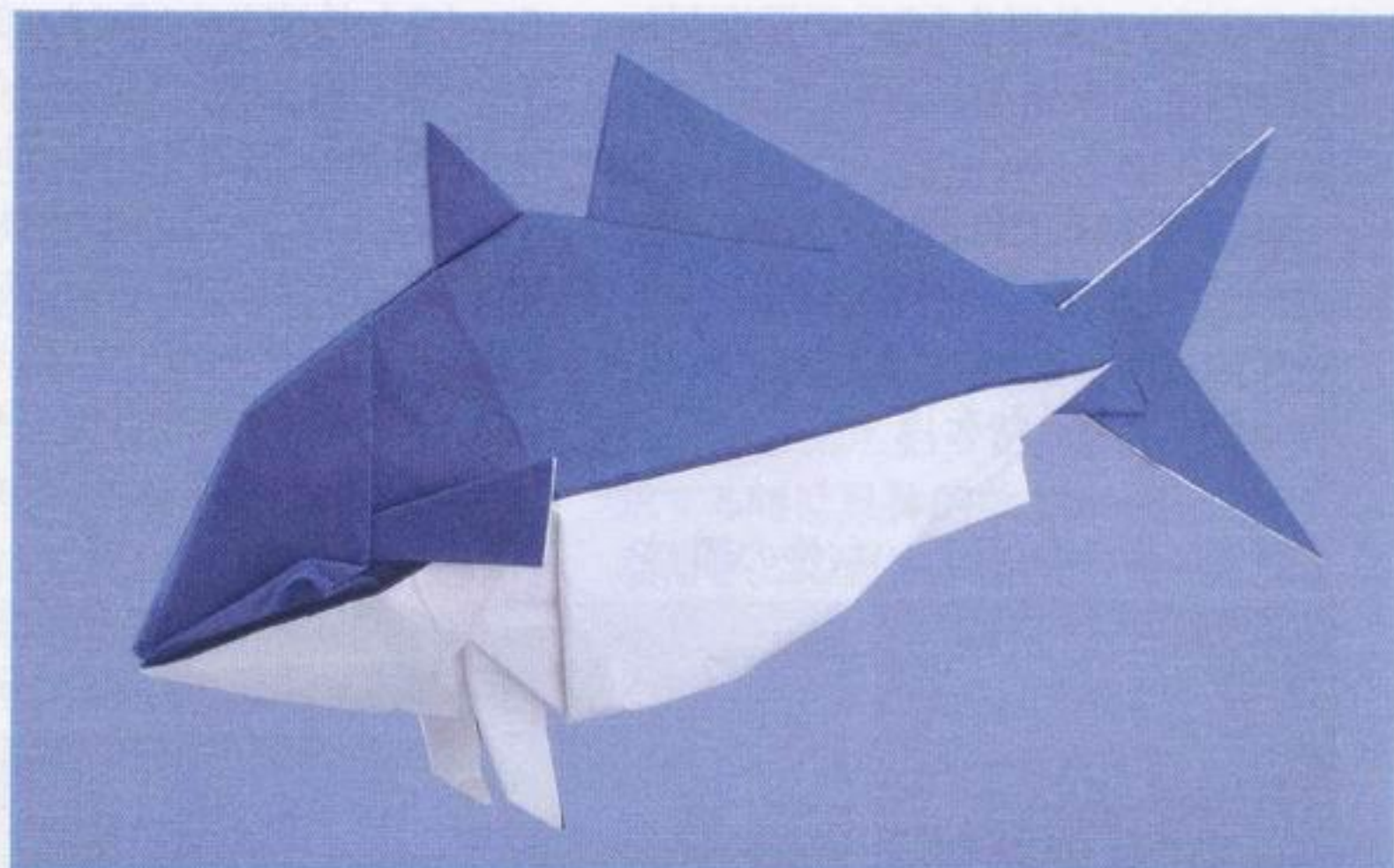


「ベタ」作：ロバート・J・ラング(P.22)

Siamese Fighting Fish :
Robert J. Lang (P.22)

作品制作：編集部 Folderd by the Editor

■華麗な鰭を大きくなびかせながら、優美で激しいアクションを繰り広げる魅力的な題材。大きく折り出された鰭の最終的な仕上げは、折り手それぞれに任されている部分が多いので、一匹一匹に最適な曲面構成を掘り下げてみましょう。



「ブリ(養殖)」作：勝田恭平(P.26)

Yellowtail (Farmed) : Katsuta Kyohei (P.26)

■3月に放送された「チャンピオンズ」では、折紙王・神谷氏のサポート役として巨大作品制作などに貢献した勝田氏。撮影中に生まれたこの作品は、地元でブリを養殖している漁師さんからの依頼によるもので、その後本物のブリ1匹と等価交換(?)されたとのこと。魚雷のような重量感を表現すべく、立体化にもすみずみまで気を遣ってみてください。ホイル紙を使って、テカテカにしてもよく似合います。

2009 OrigamiUSA コンベンション展示作品より Exhibits from the 2009 OrigamiUSA Convention

今年も山口氏を中心として、新世代も多く参加してNYに乗り込んだ探偵団メンバー。各国からの参加者がお互いに良い刺激を与え合う場となったようです。「Origami Design Challenge」には毎年新たに若いエネルギーが進出してきて、技術や表現力を磨く絶好の場となっています。



Won Park



Won Park



Hoang Trung Thanh



Joseph Wu



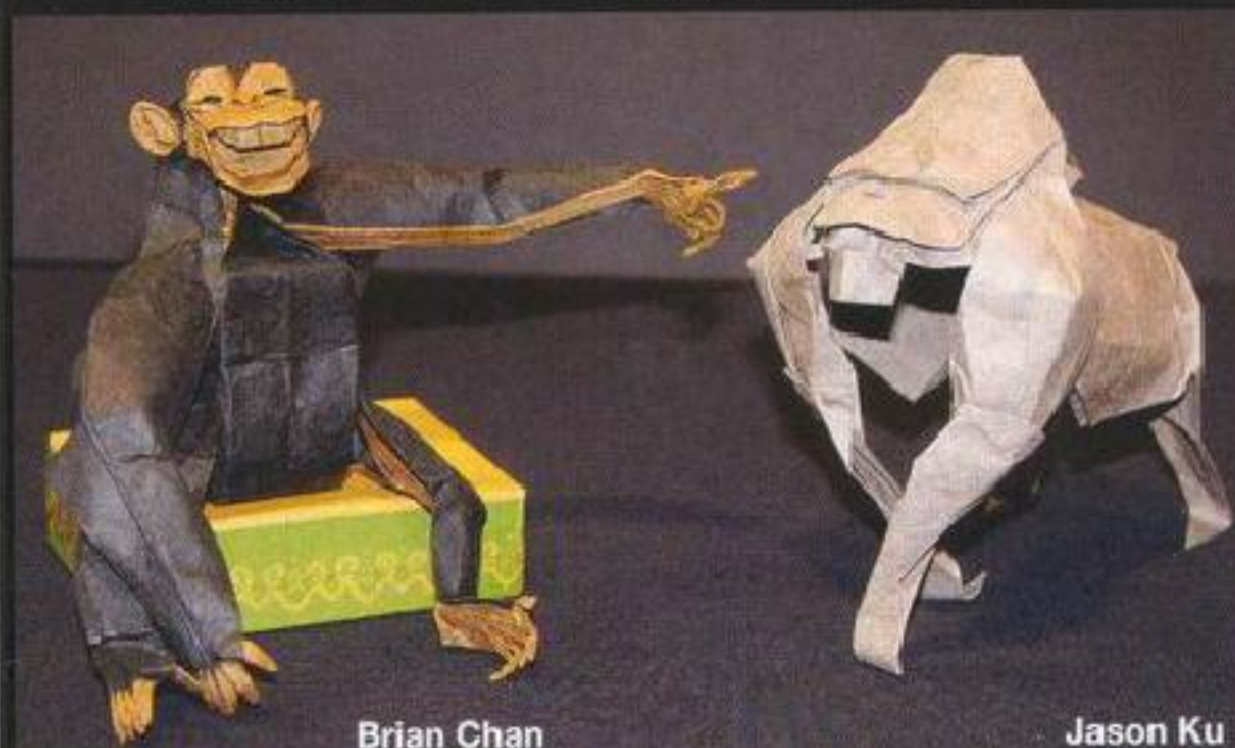
Robert J. Lang



Seth Friedman

Origami Design Challenge

Topic: one of the four nonhuman great apes



Brian Chan

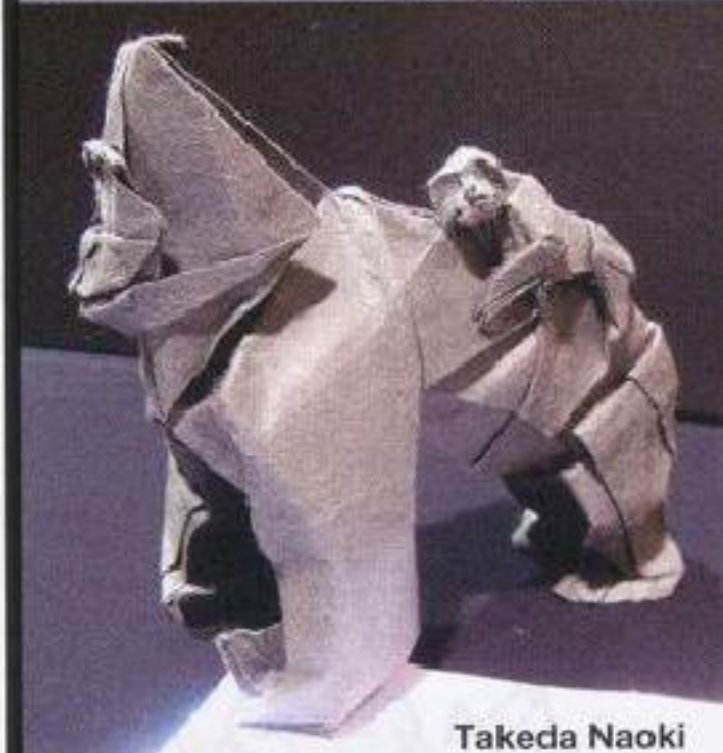
Jason Ku



Robert J. Lang



Seth Friedman



Takeda Naoki



Nguyen Tu Tuan



Kenny Baclawski



Jon Tucker

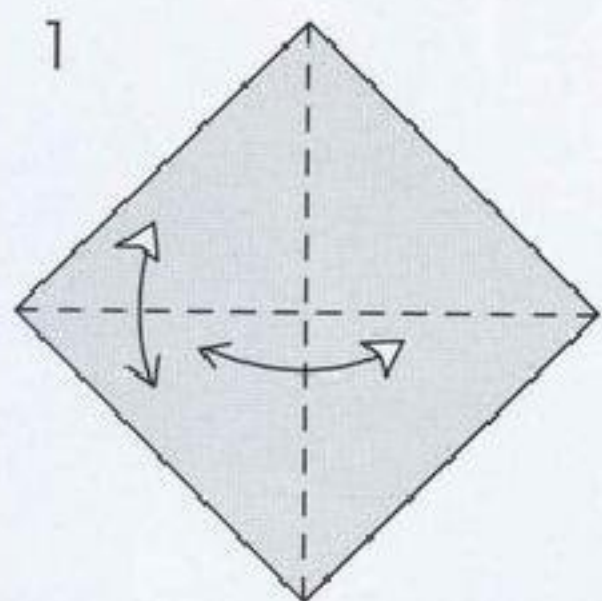
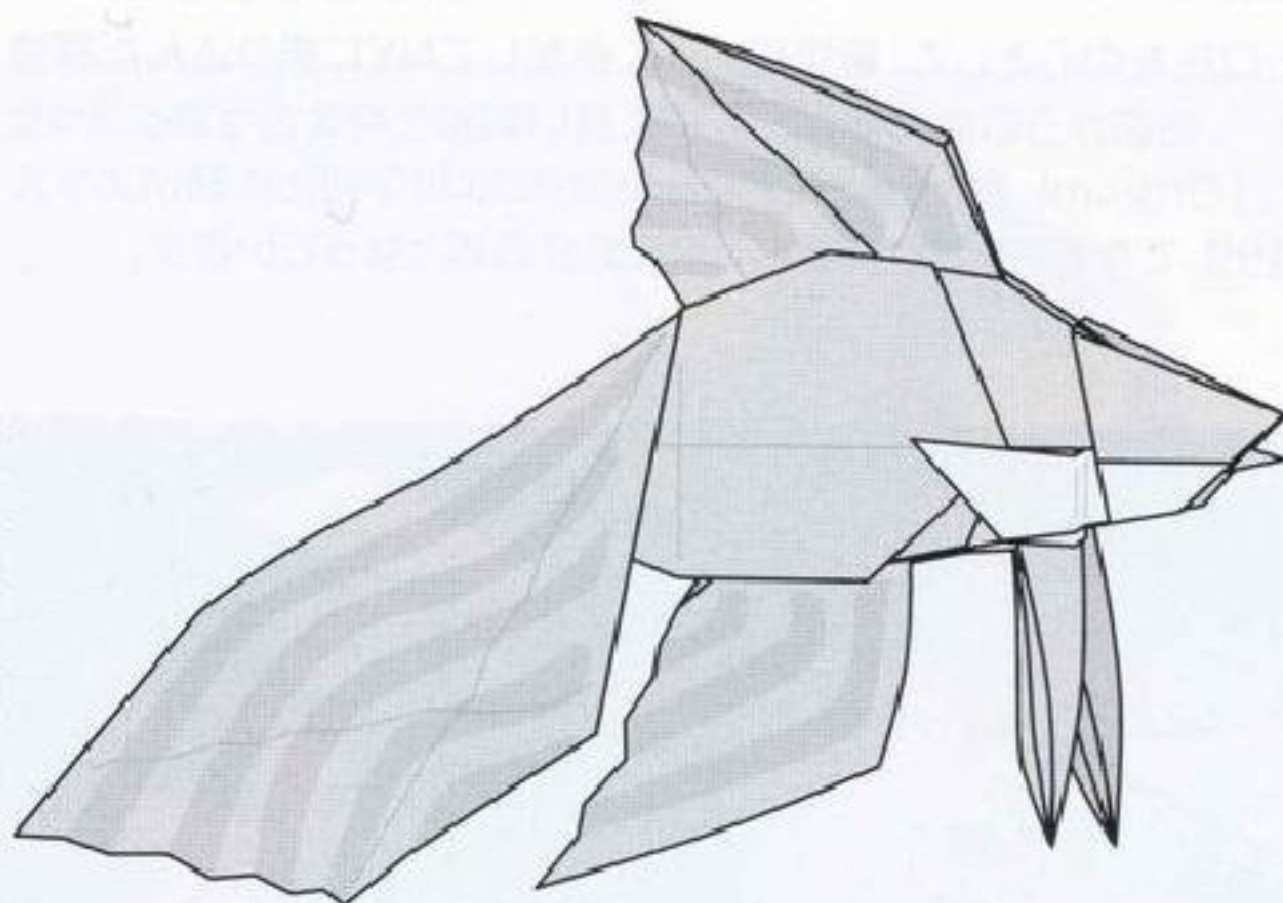
Siamese Fighting Fish ベタ

Robert J. Lang

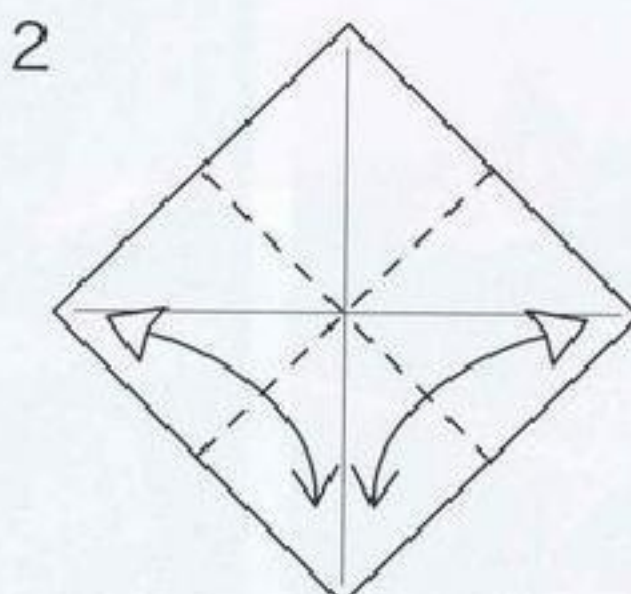
ロバート・J・ラング

The Siamese Fighting Fish (*Betta splendens*) is a popular aquarium fish because of its bright colors and often elaborate fins, which have been enhanced through selective breeding by enthusiasts. Males are very aggressive (as the name suggests) and readily attack one another; they will even attack their own reflection in a mirror.

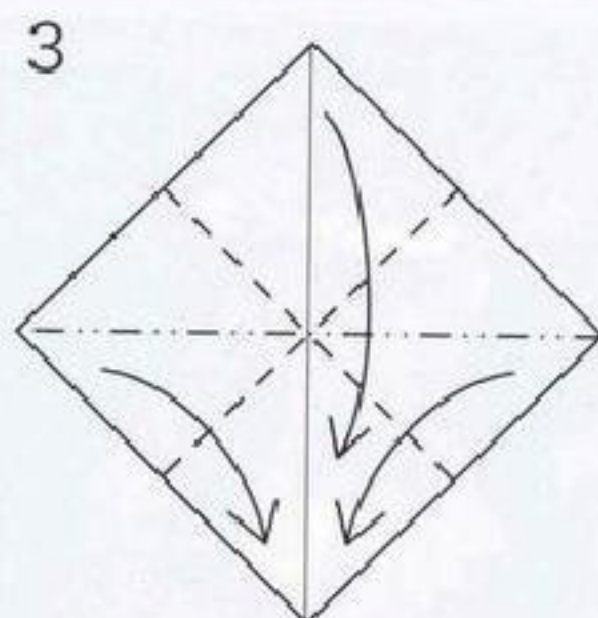
This figure can be folded from standard 10" origami paper, but it looks best if wet-folded so that the fin pleats can be gracefully curved in the final step.



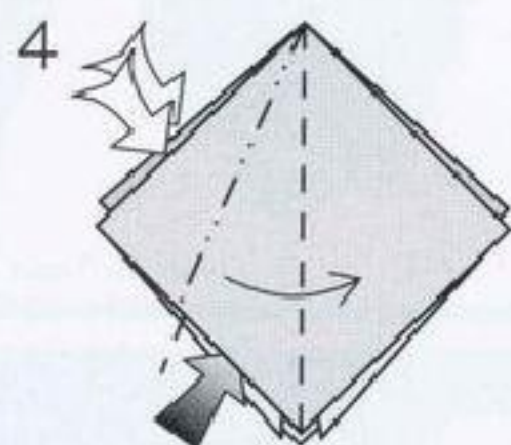
Colored side up. Fold and unfold along the diagonals. Turn over.



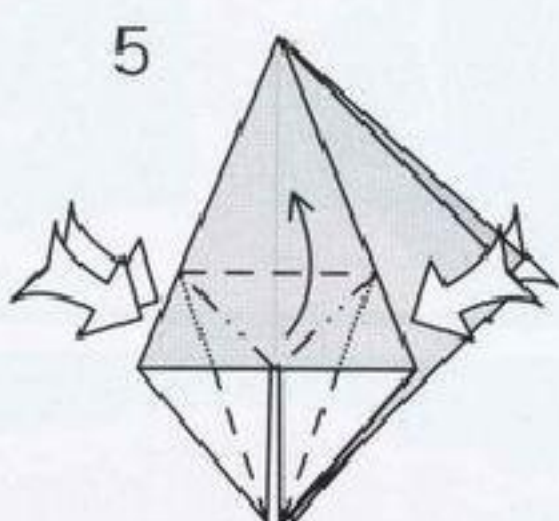
Fold and unfold.



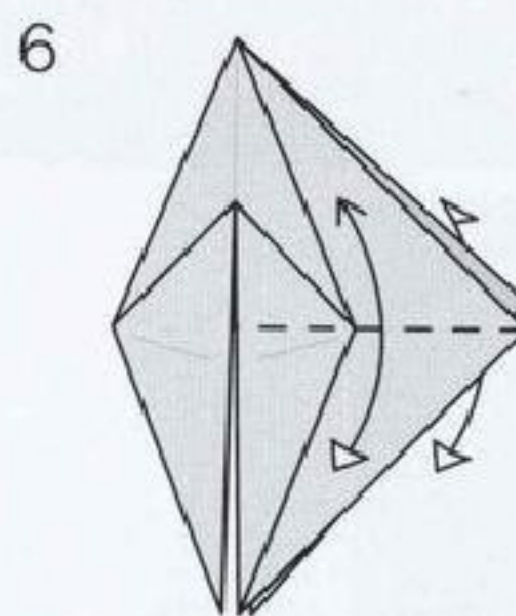
Fold a Preliminary Fold.



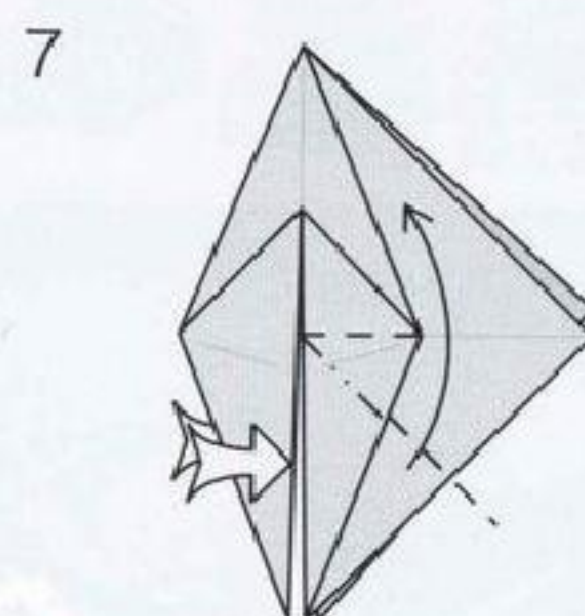
Squash-fold. Repeat behind.



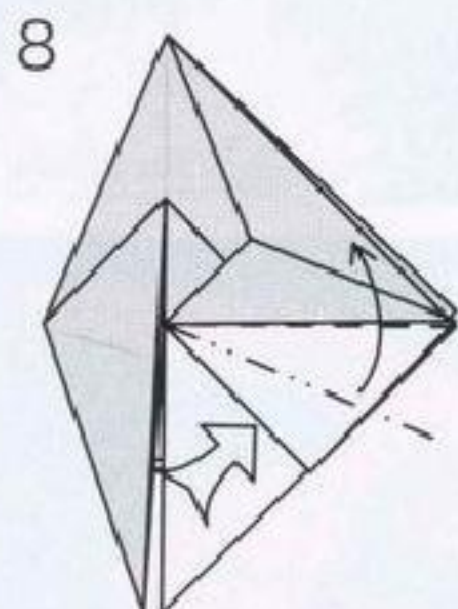
Petal-fold. Repeat behind.



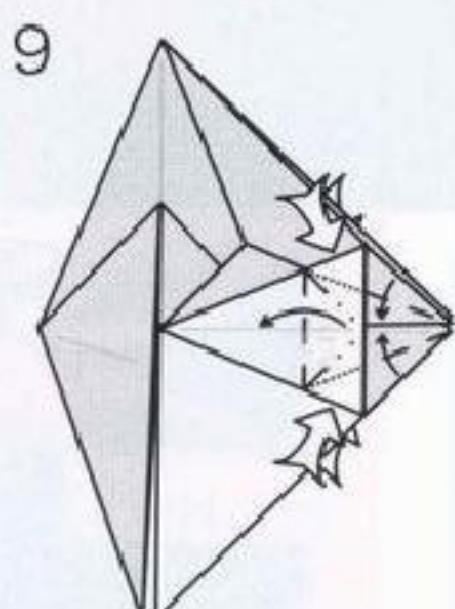
Fold and unfold. Repeat behind.



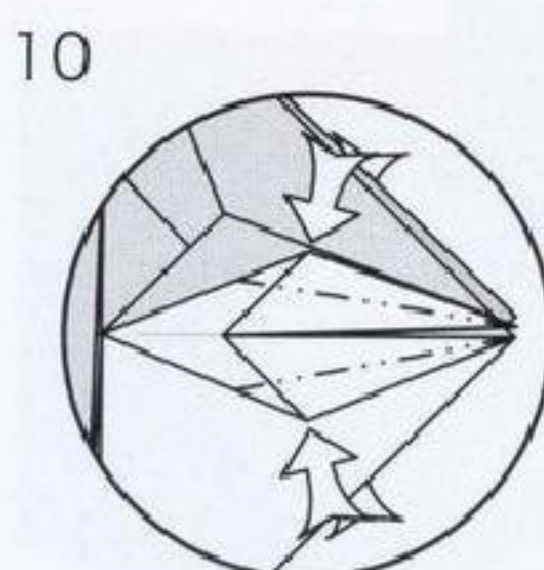
Squash-fold. Repeat behind.



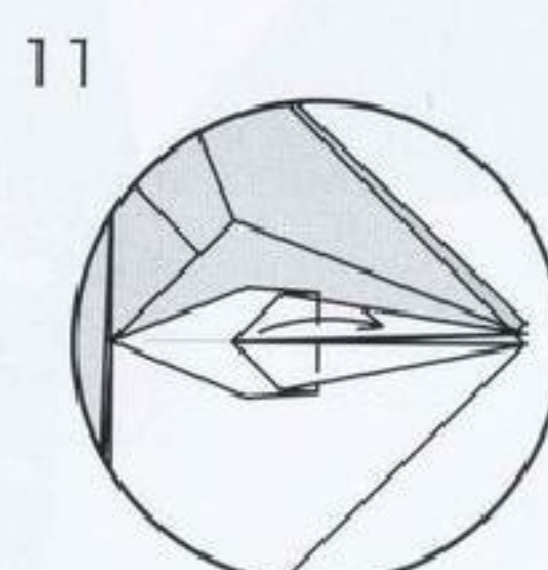
Squash-fold. Repeat behind.



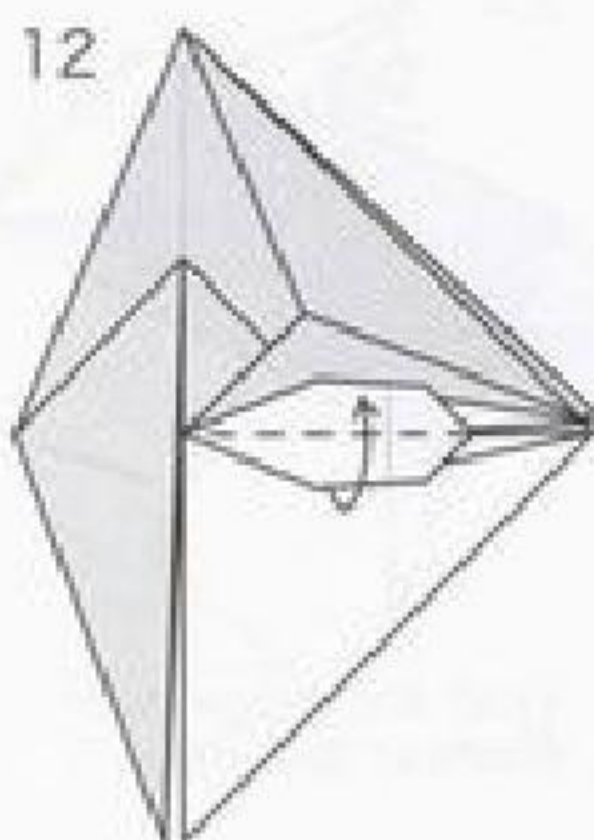
Petal-fold. Repeat behind.



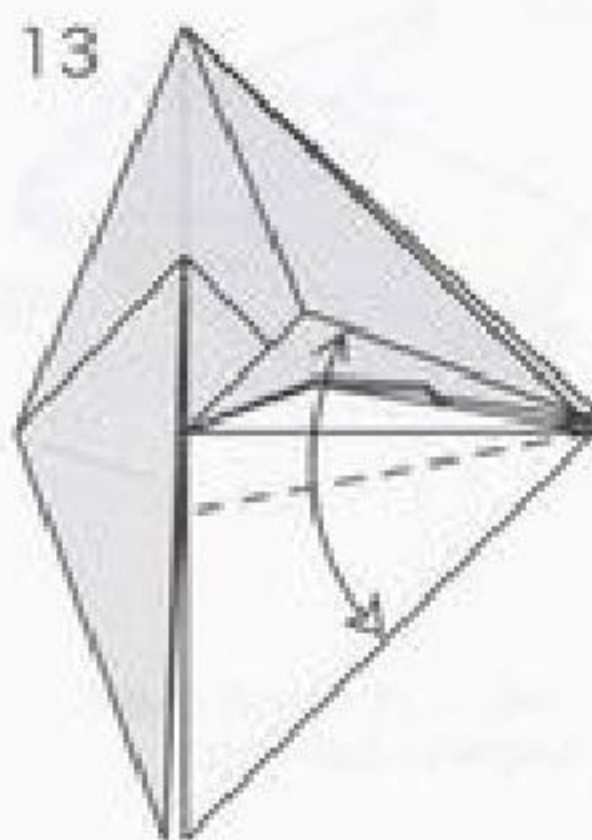
Open-sink. Repeat behind.



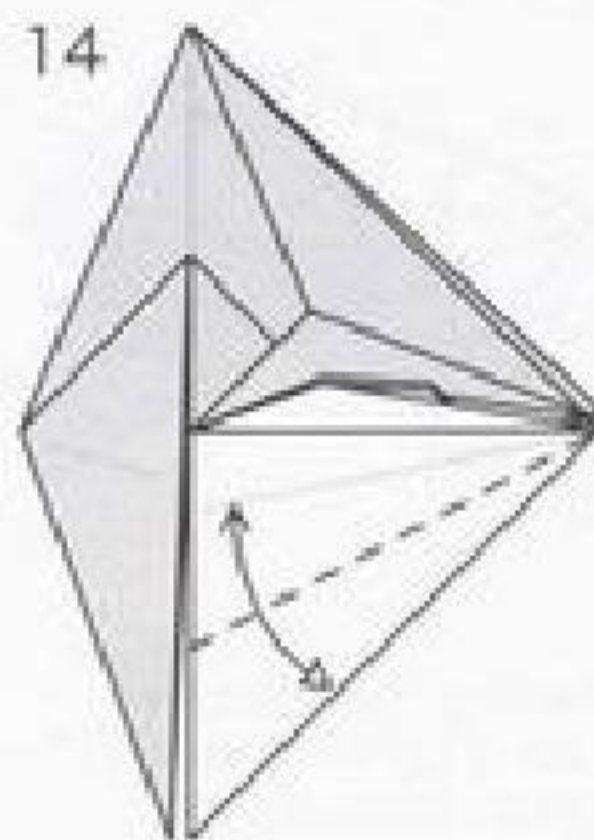
Fold the point to the right. Repeat behind.



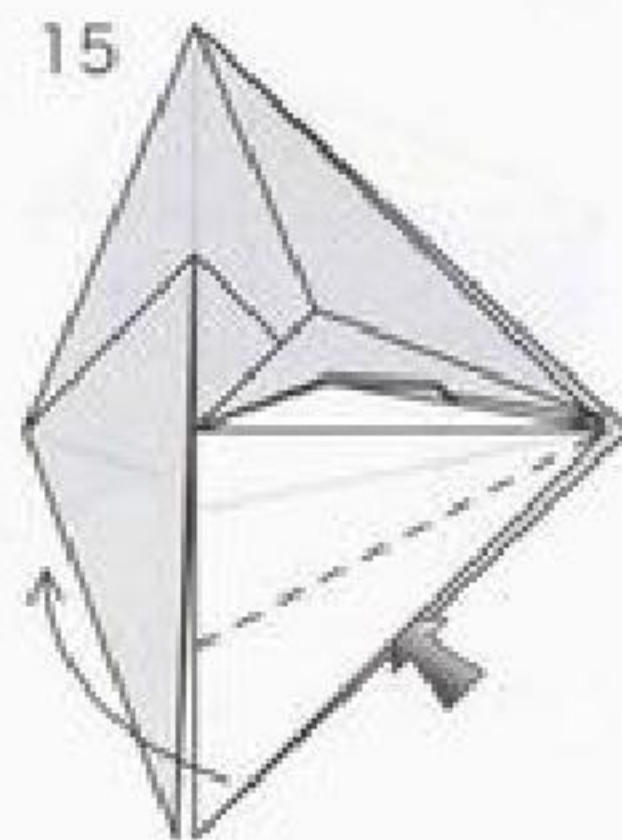
Fold the layers up only on the near side.



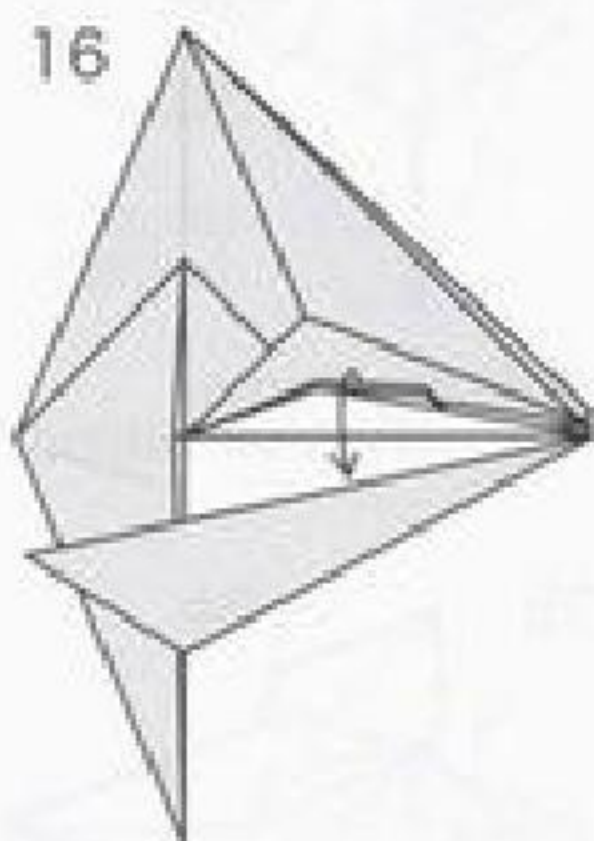
Fold and unfold.



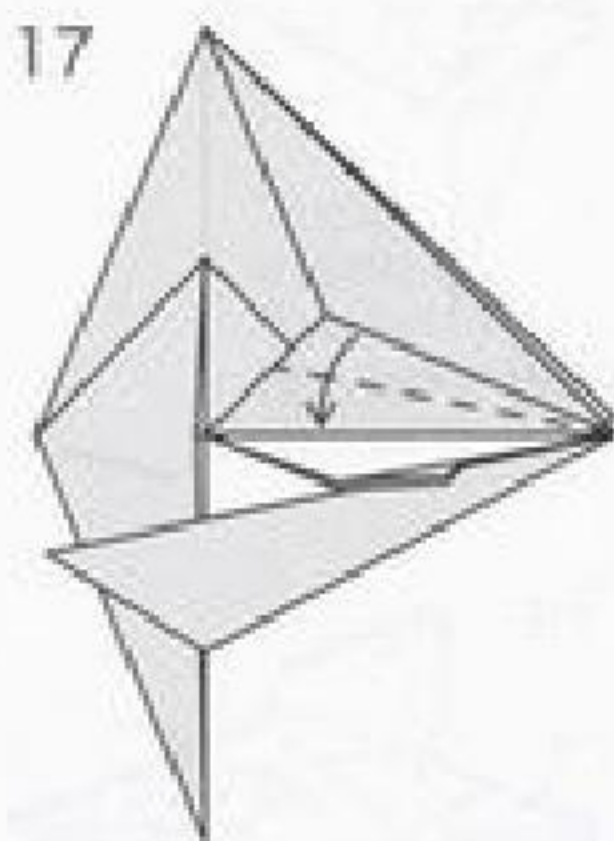
Fold and unfold.



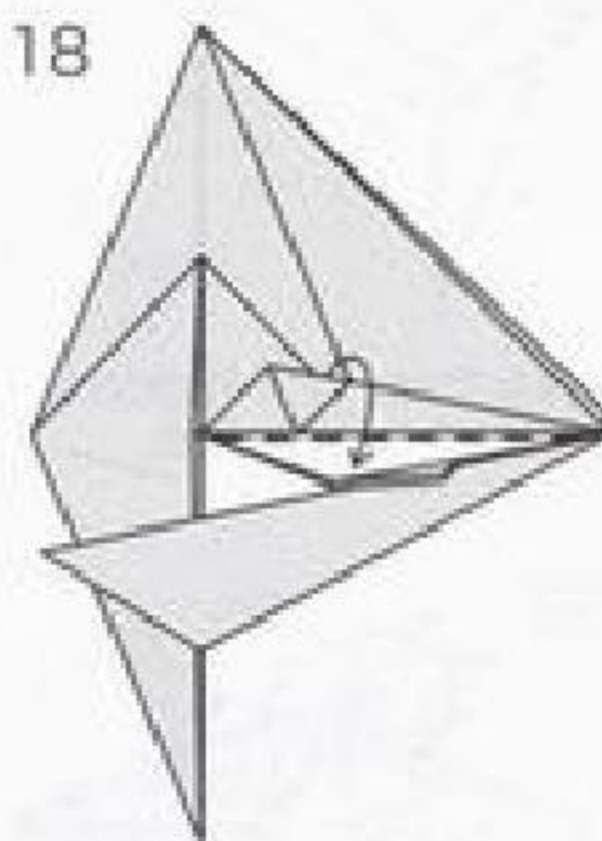
Reverse-fold on the existing crease.



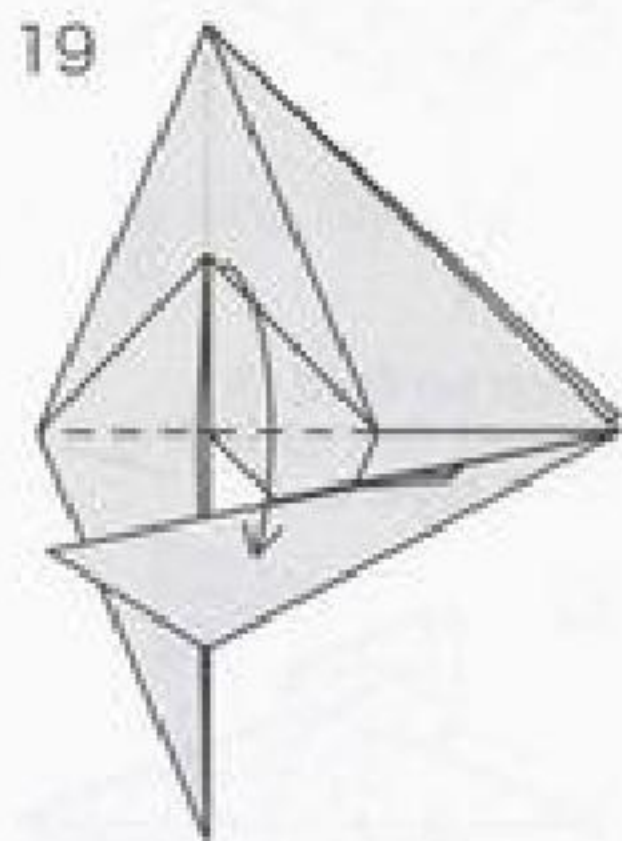
Fold all the white layers down. Repeat behind.



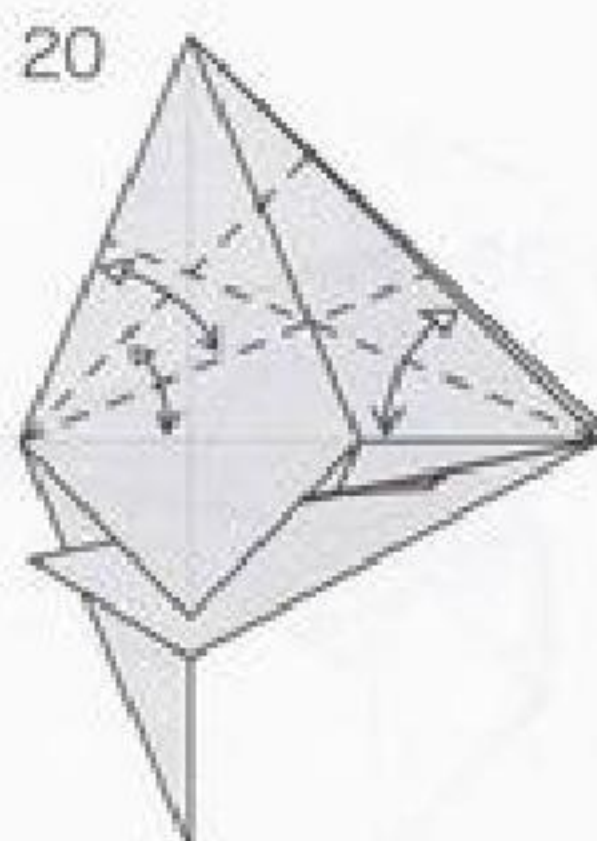
Fold the colored edge down. Repeat behind.



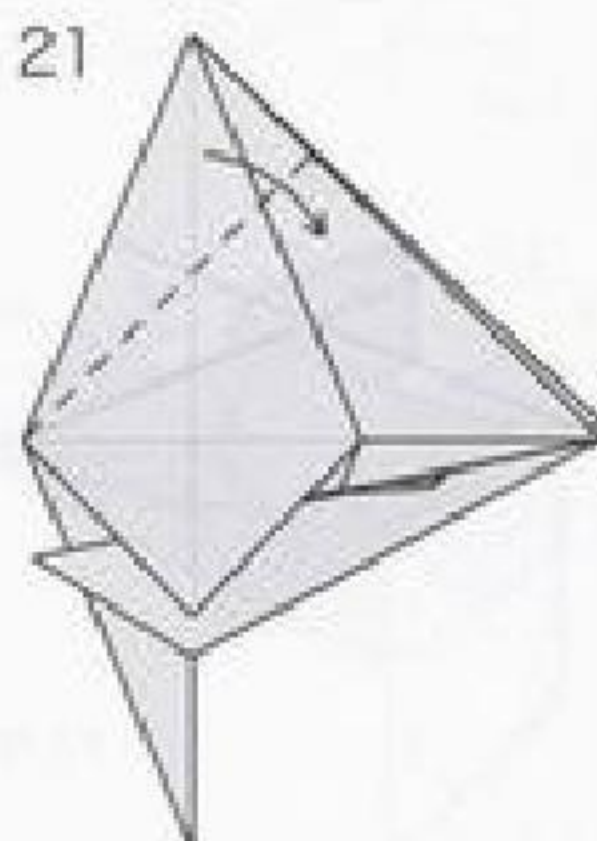
Fold the colored edge down. Repeat behind.



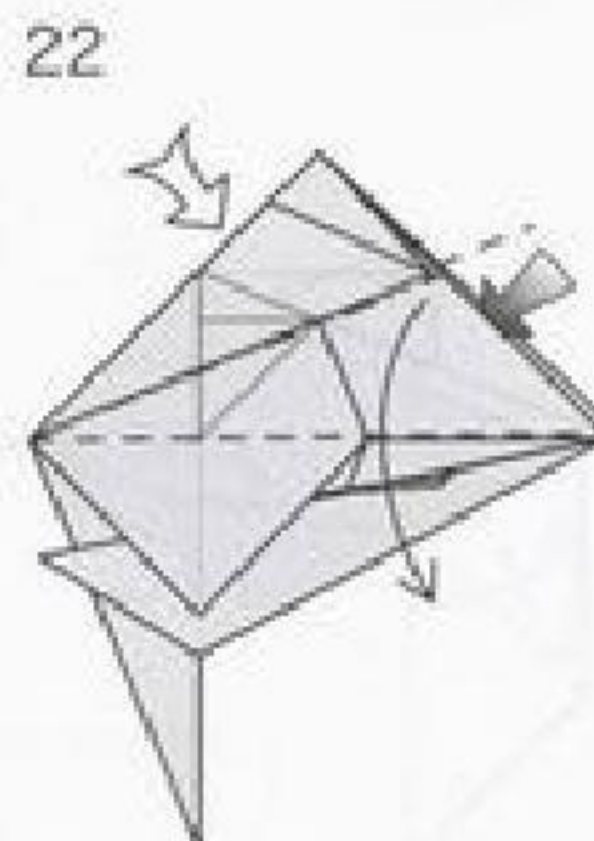
Fold the point down. Repeat behind.



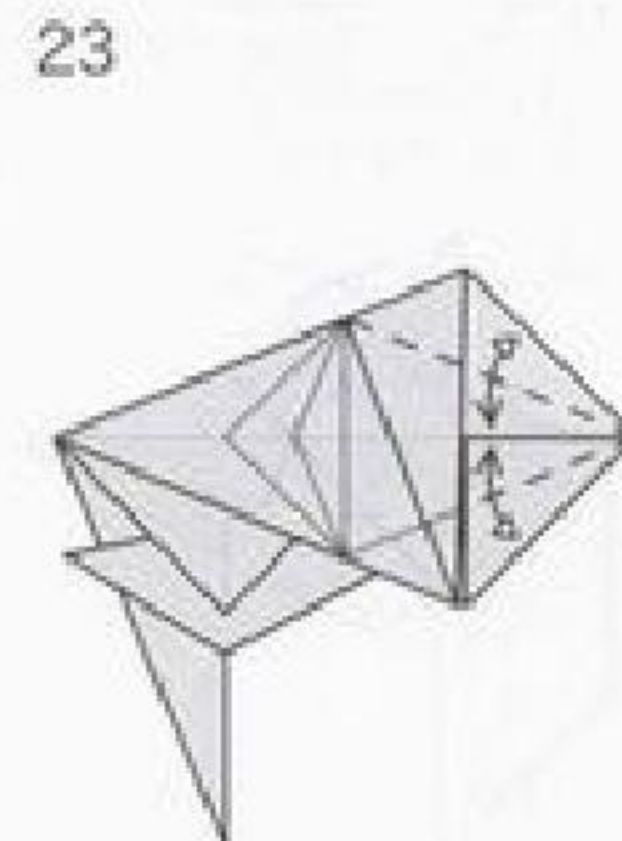
Fold and unfold through all layers, both directions.



Fold the top over to the right.

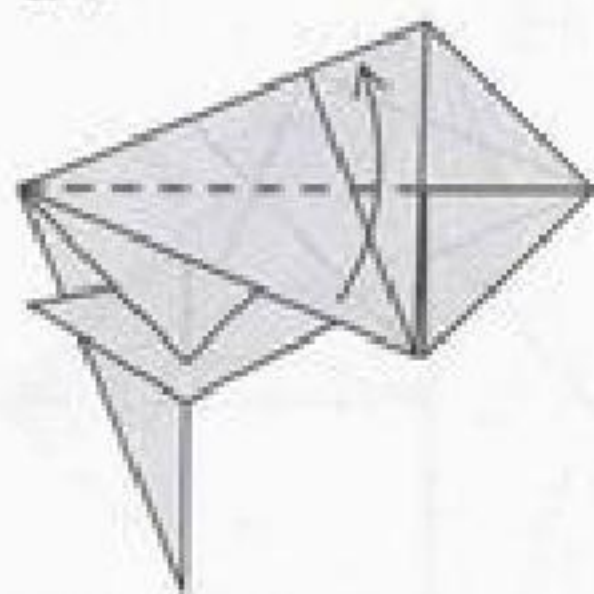


Squash-fold. A gusset forms in the inner layers.



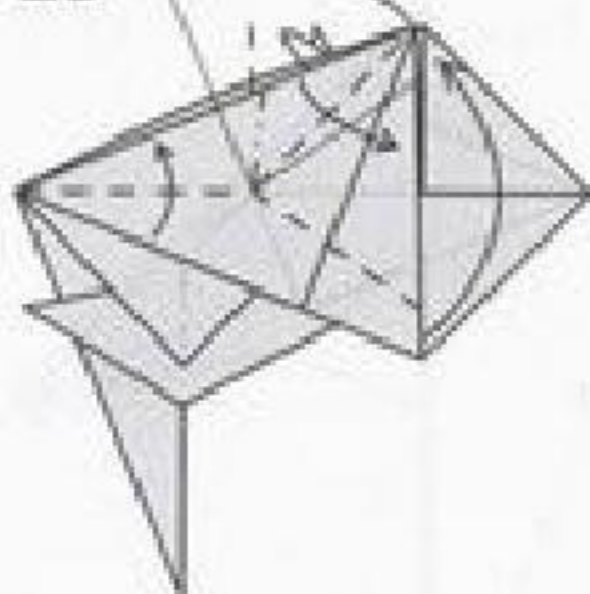
Fold and unfold. Xray lines show the hidden gusset.

24



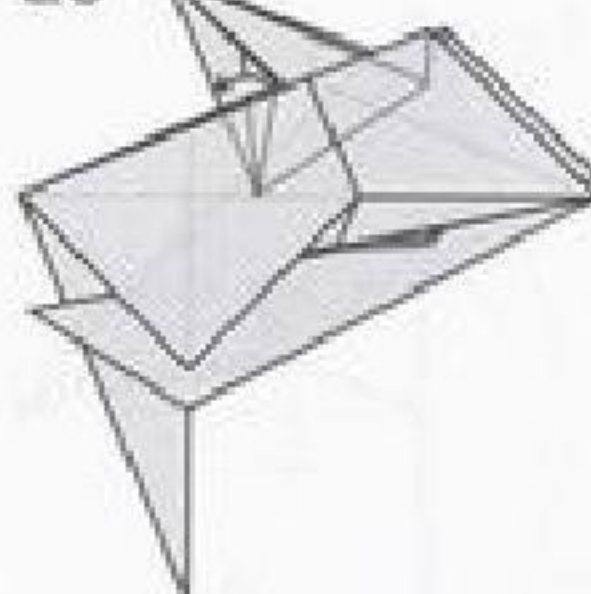
Fold the flap up.

25



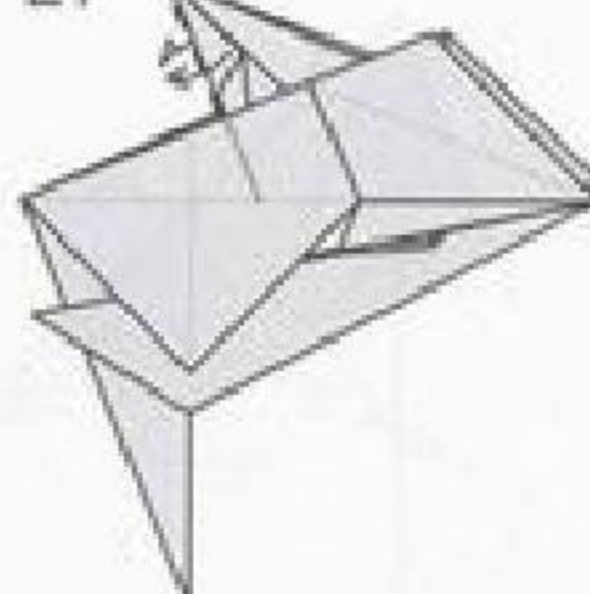
Swing the middle point up to the left and close up the layers.

26



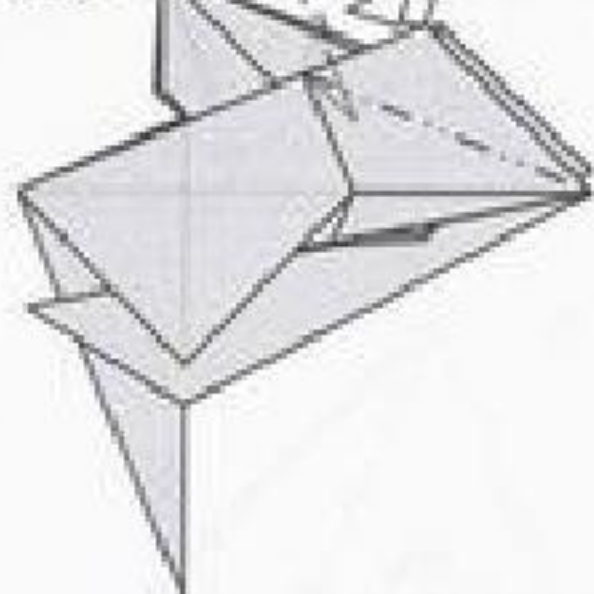
Fold the edge over. Repeat behind.

27



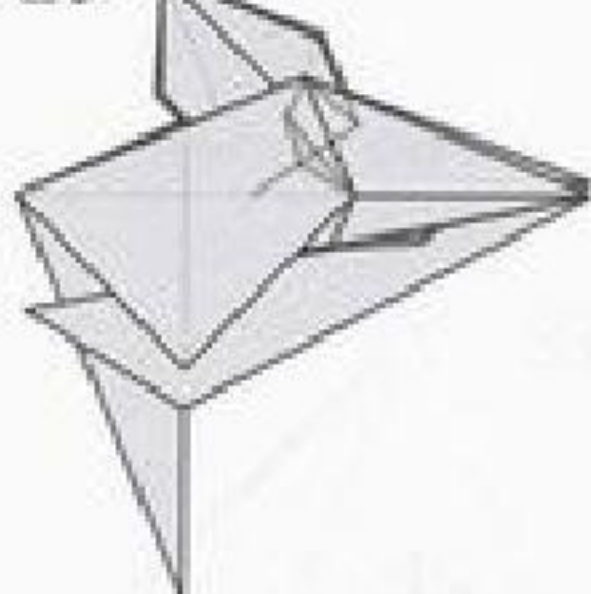
Fold the edge over. Repeat behind.

28



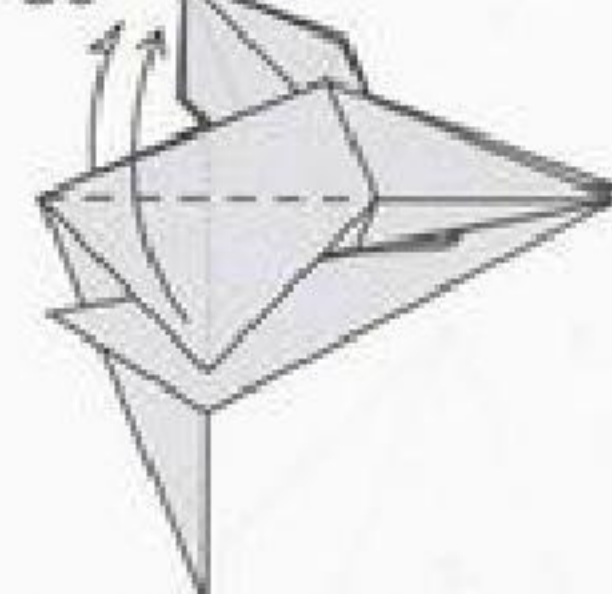
Reverse-fold. A gusset forms in the inner layers.

29



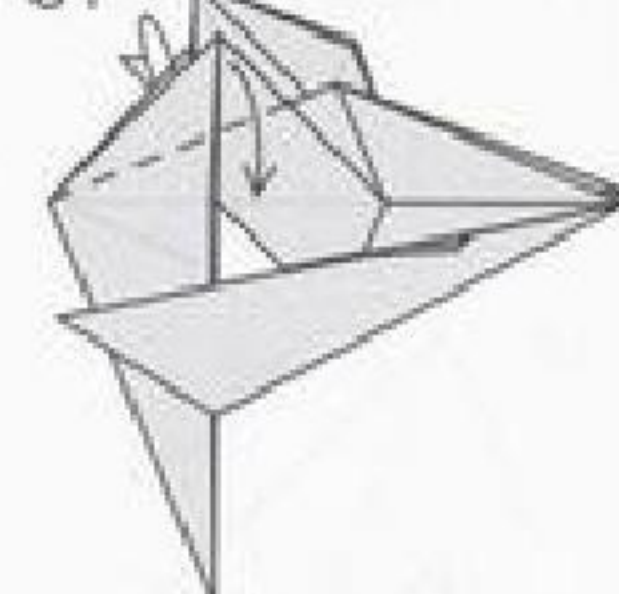
Like this. The hidden gusset is shaded.

30



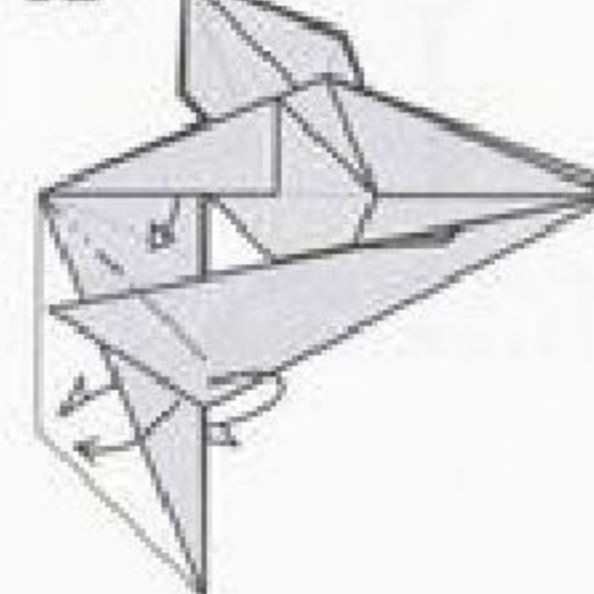
Fold a flap up. Repeat behind.

31



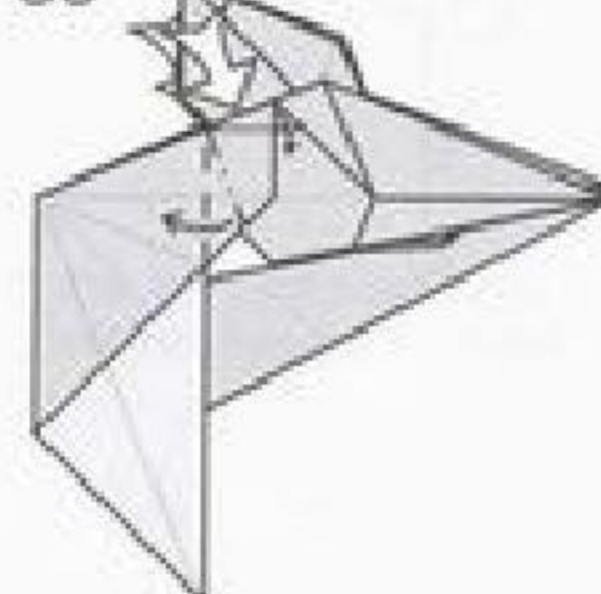
Fold the corner down. Repeat behind.

32



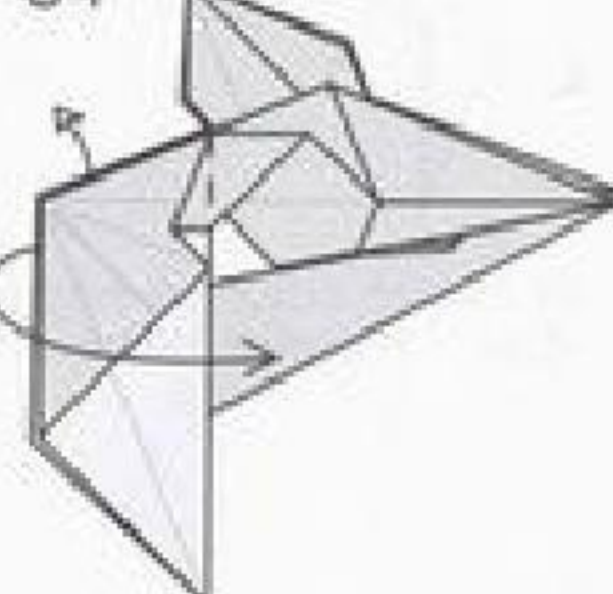
Pull out some loose paper. Repeat behind. Tuck the bottom flap underneath.

33



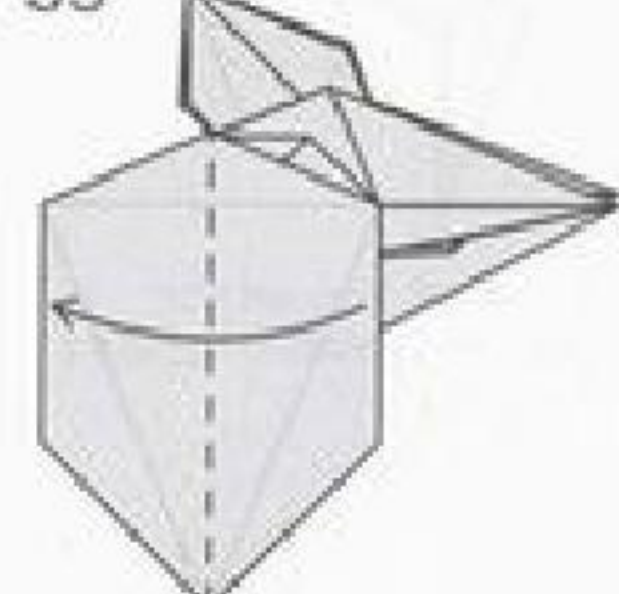
Swivel-fold. Repeat behind.

34



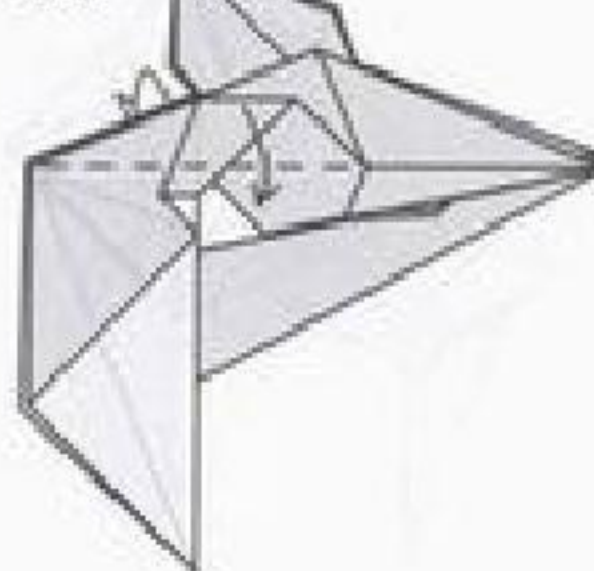
Release the trapped layers so that you can open the tail out flat.

35



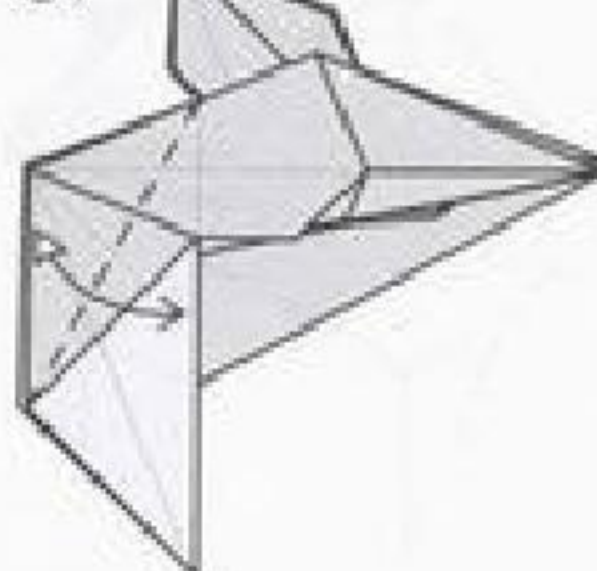
Close it back up.

36



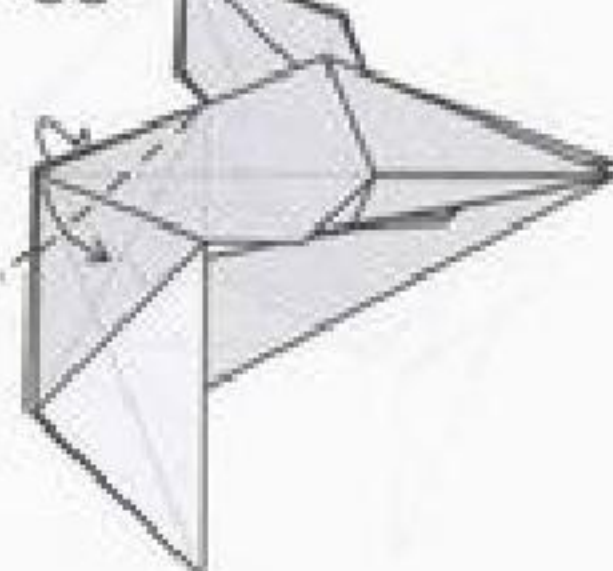
Fold a flap down. Repeat behind.

37



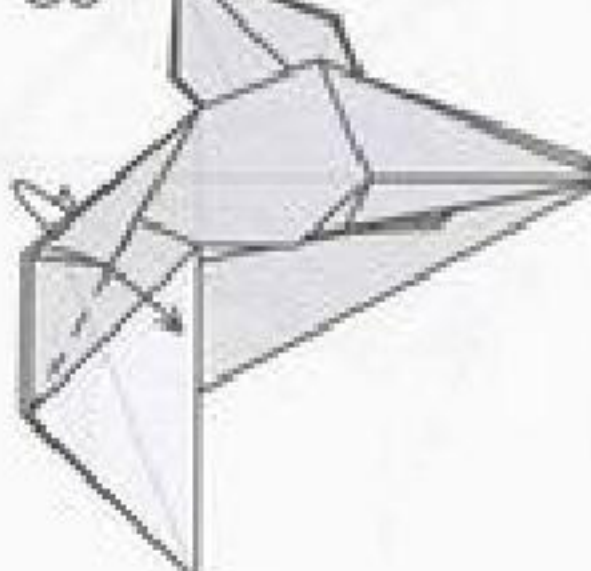
Fold and unfold. Repeat behind.

38



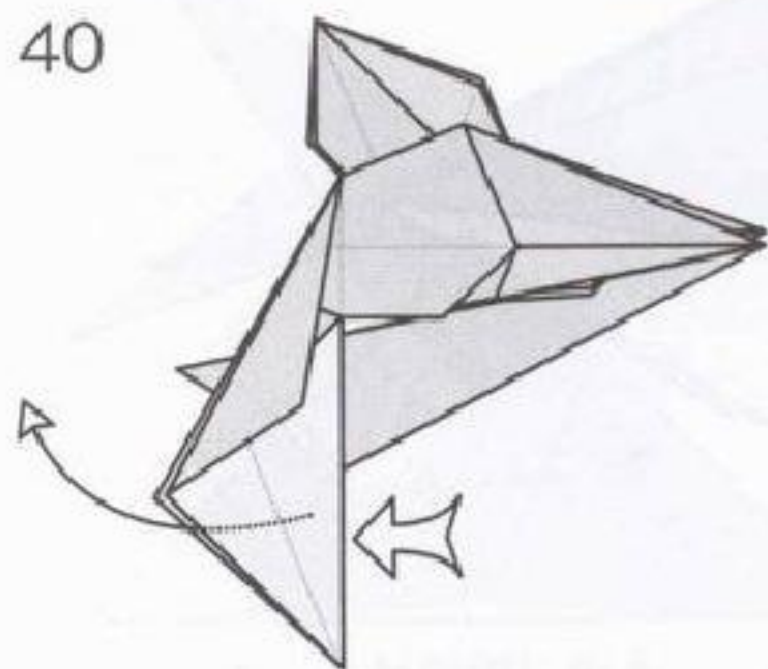
Fold to the crease you just made. Repeat behind.

39



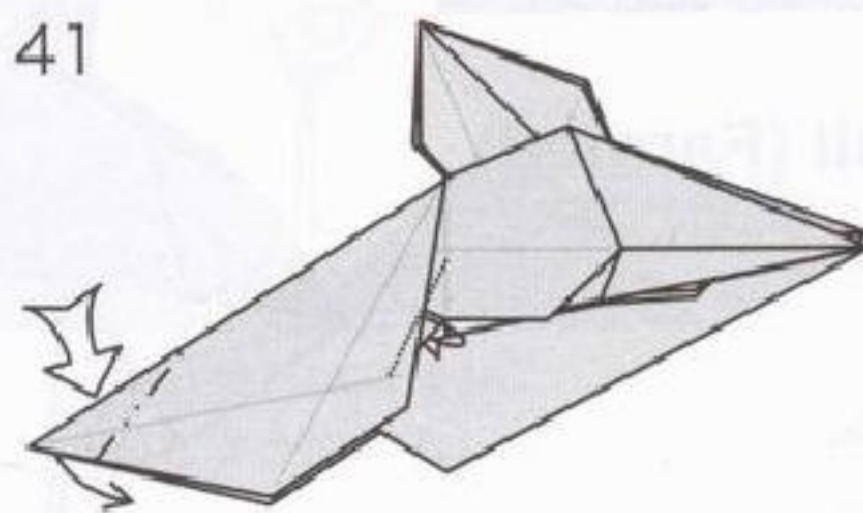
Fold on the existing crease. Repeat behind.

40



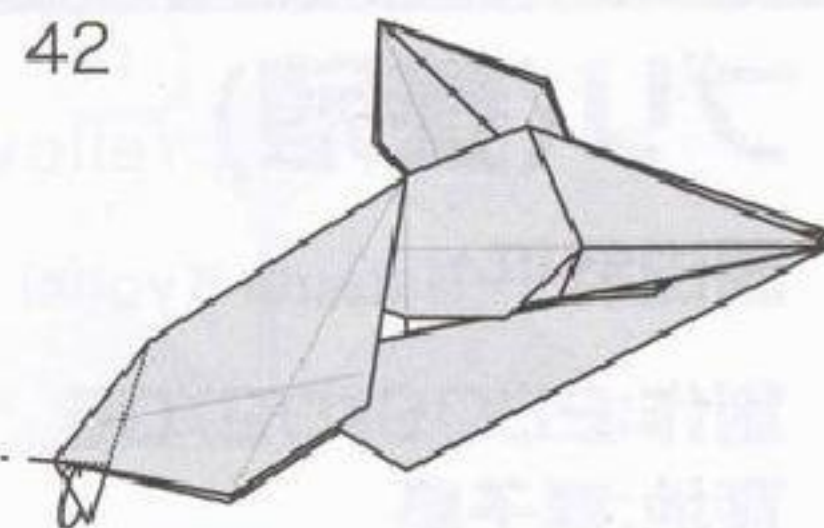
Unreverse-fold the flap.

41



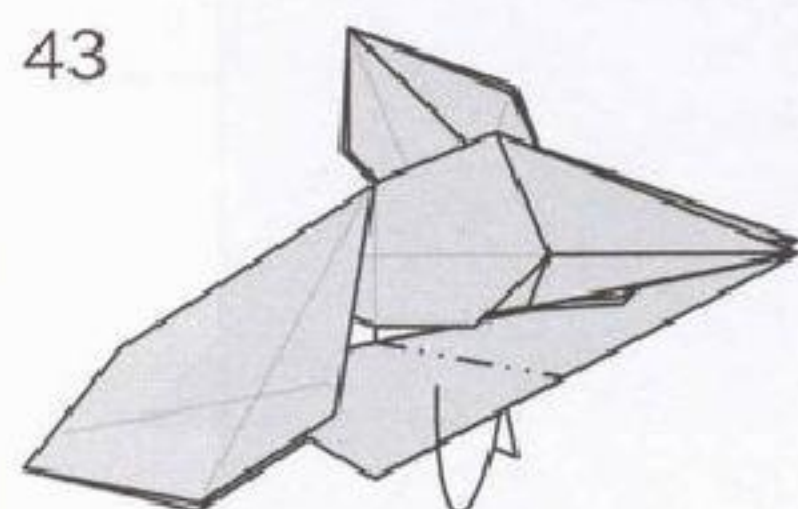
Reverse-fold the tip of the tail. Tuck two small corners out of sight.

42



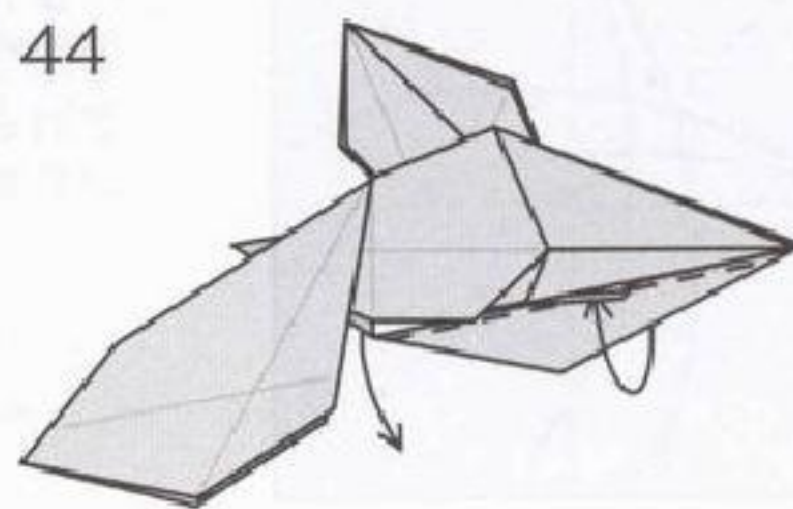
Tuck the tip of the tail inside.

43



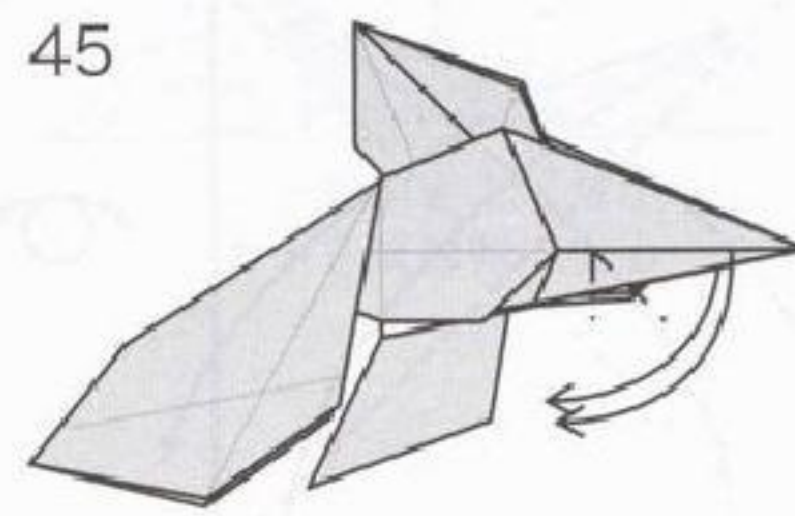
Mountain-fold the flap behind.

44



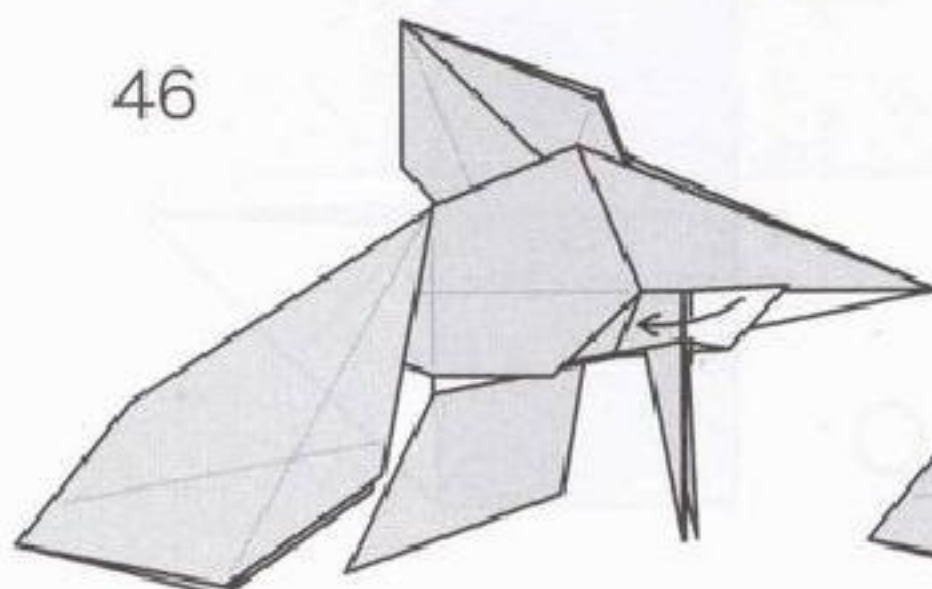
Tuck the triangle up inside the model, locking the two flaps together; the belly fin flips downward.

45



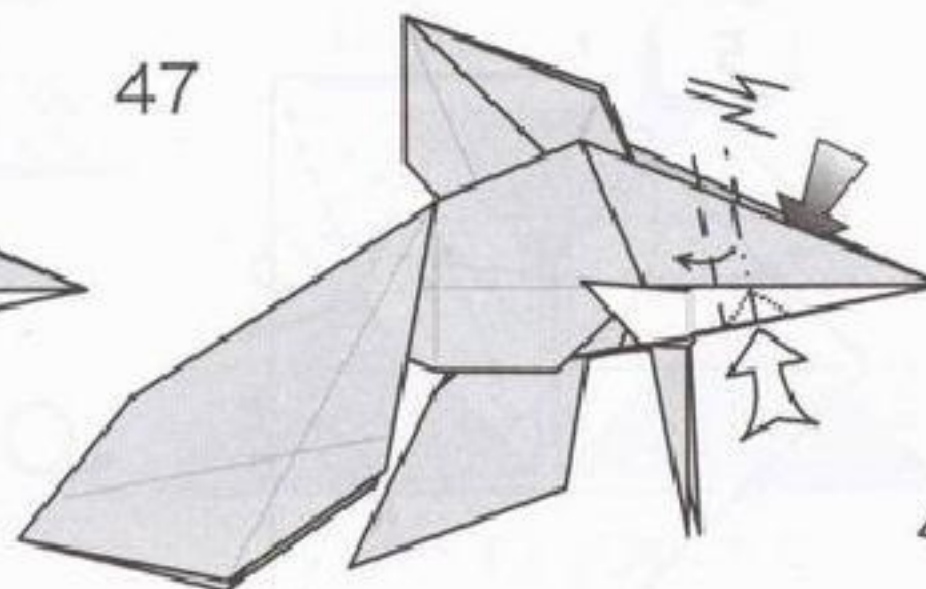
Crimp two long flaps downward.

46



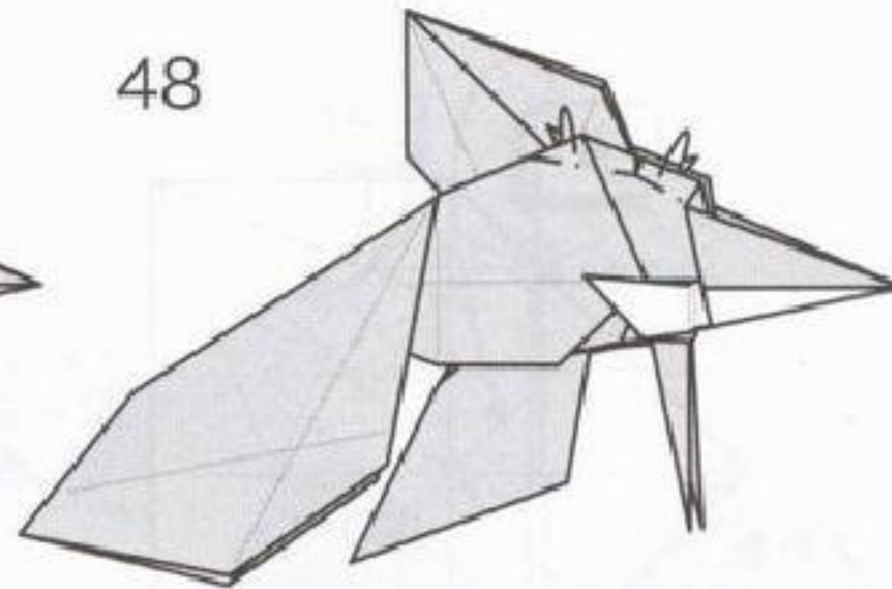
Fold the fin to the left. Repeat behind.

47



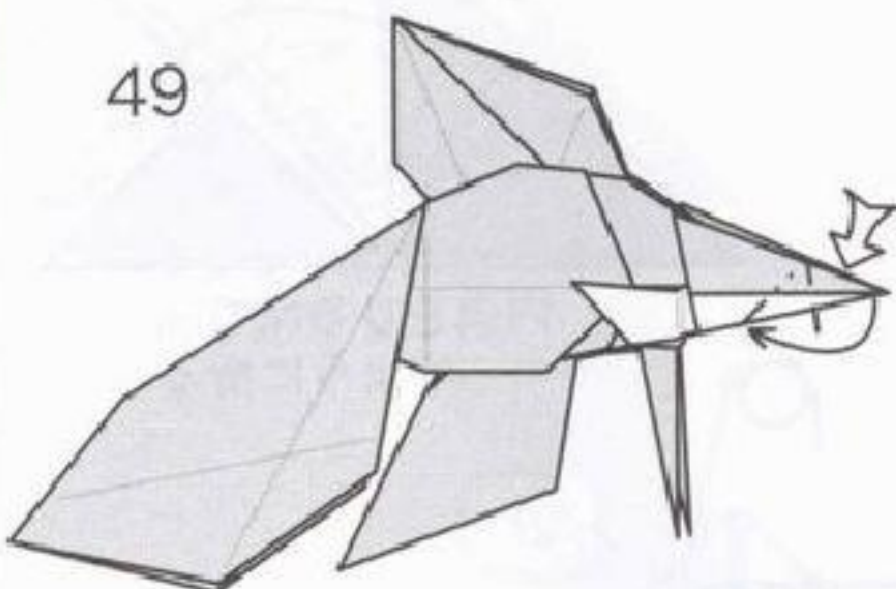
Crimp the head, making a dent in the inner bottom layers.

48



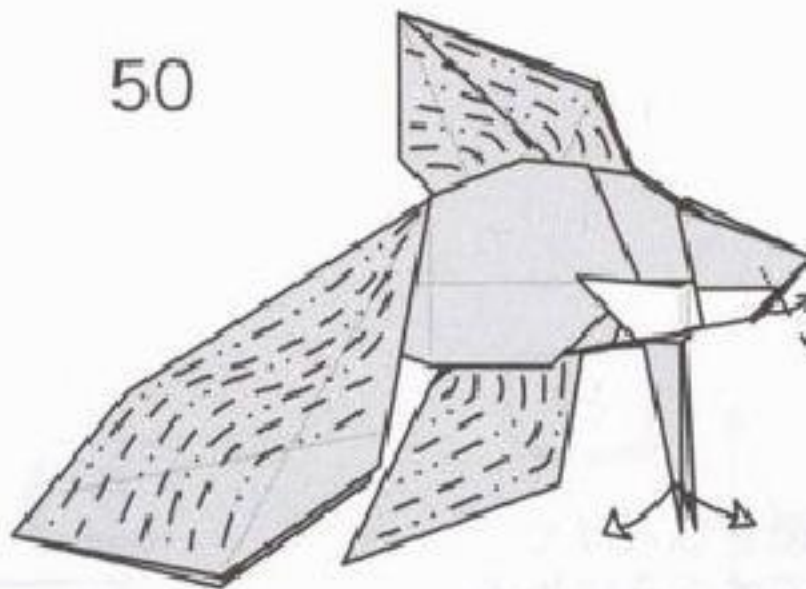
Mountain-fold the top edges of the body. Repeat behind.

49



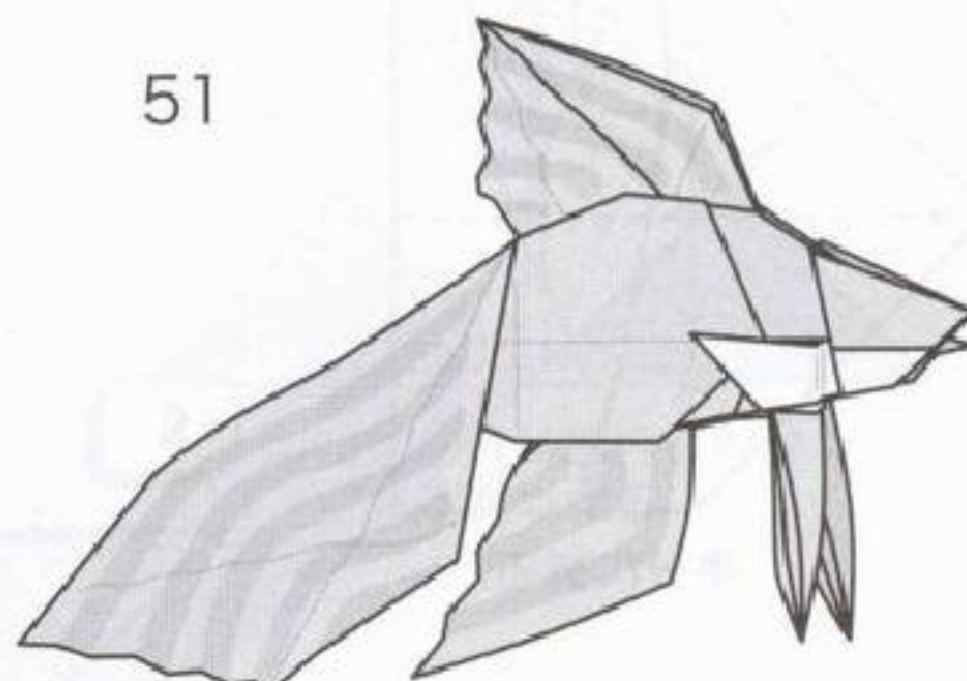
Crimp the tip of the head.

50



Pleat the large fins with curved folds. Spread the tips of the narrow points. Fold the lower jaw outward.

51



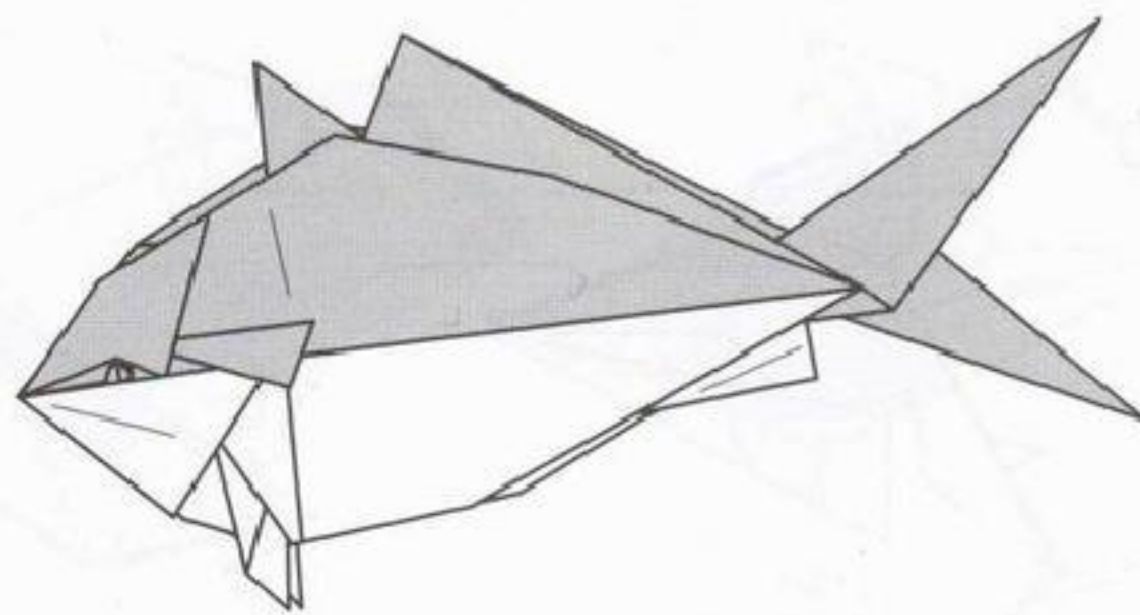
Siamese Fighting Fish

ブリ(養殖) Yellowtail (Farmed)

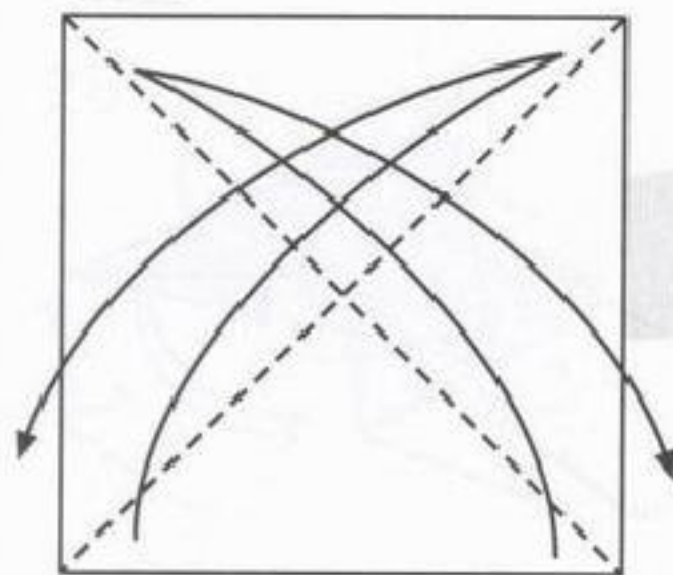
勝田恭平 Katsuta Kyohei

創作:2009/02/05

産地:獅子島

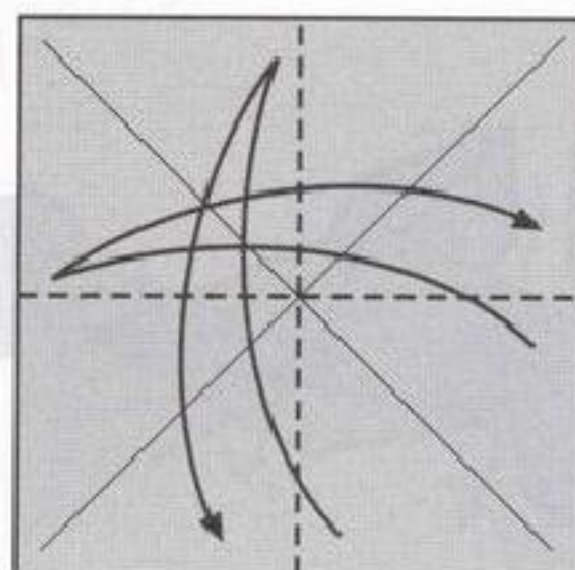


1



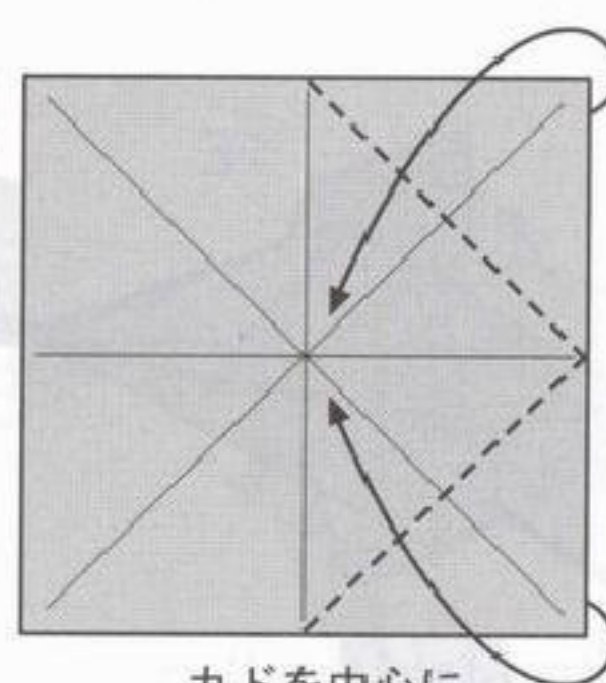
三角に折り筋をつける

2



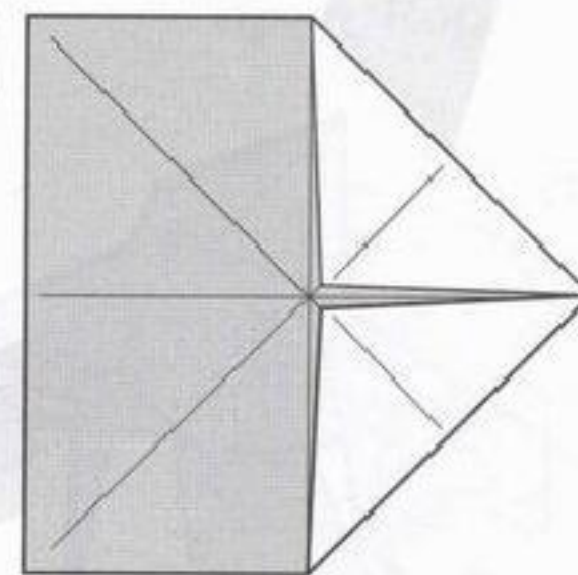
半分に折り筋をつける

3

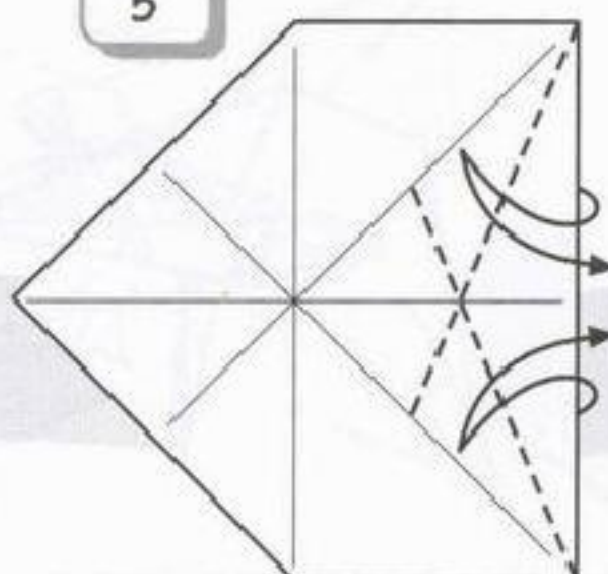


カドを中心に
あわせて折る

4

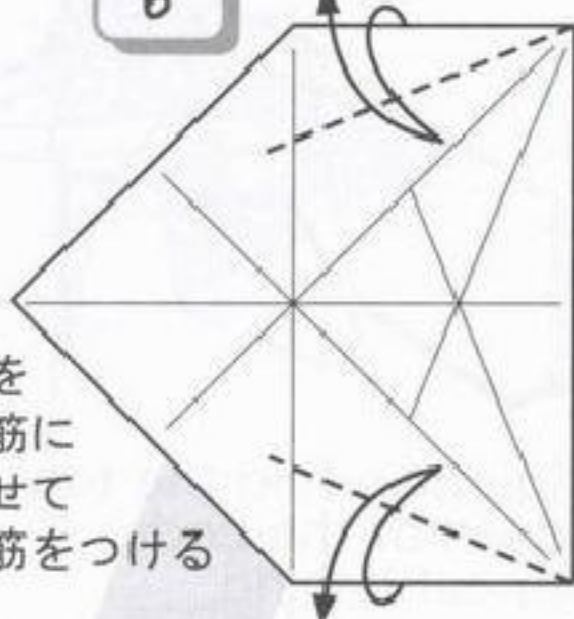


5



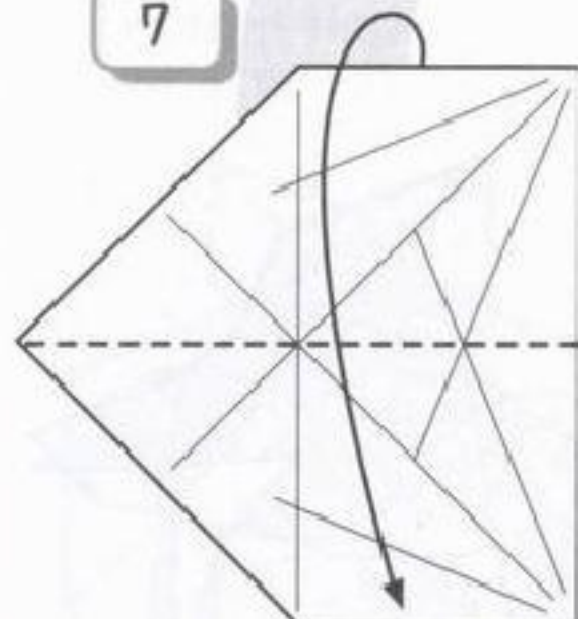
フチを折り筋にあわせて
折り筋をつける

6



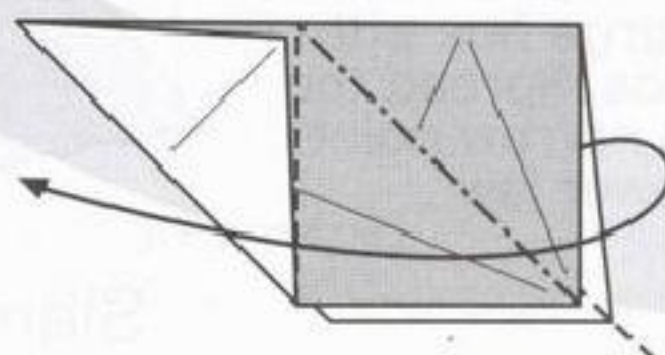
フチを
折り筋に
あわせて
折り筋をつける

7



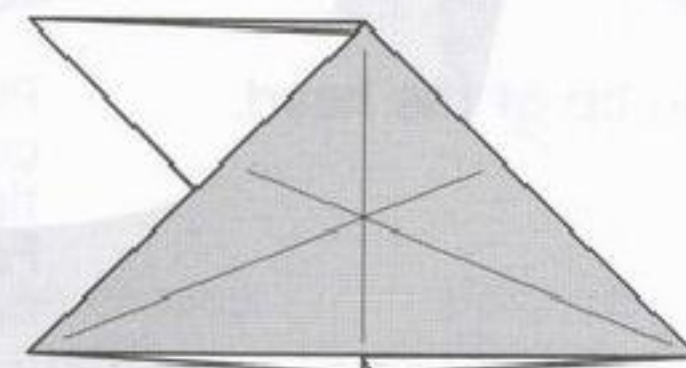
半分に折る

8

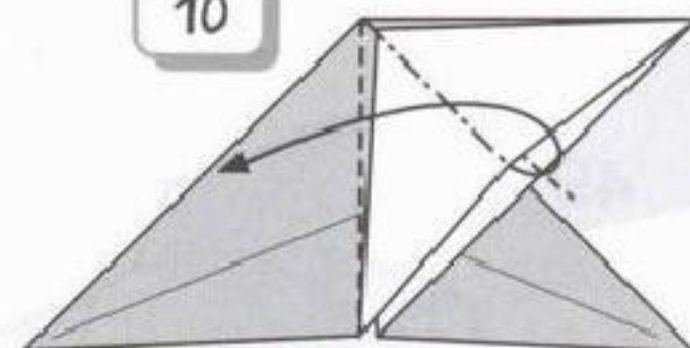


内側をひろげて
つぶすように折る

9

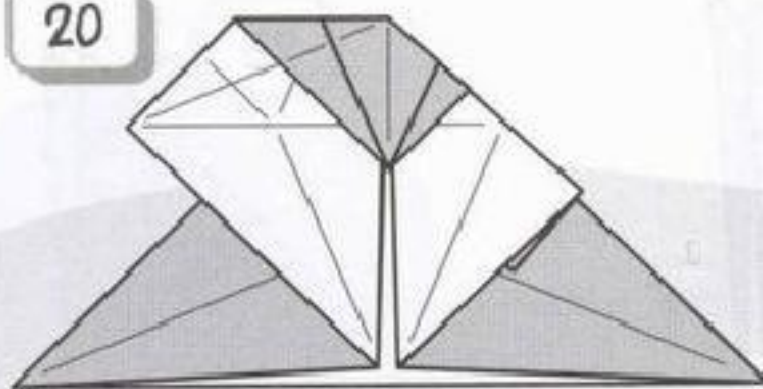


10



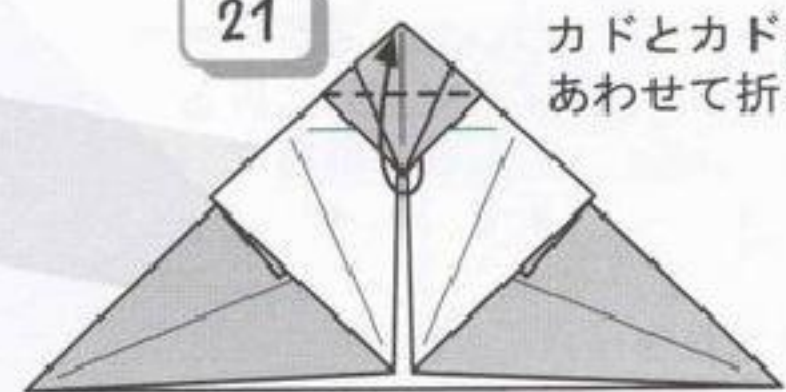
内側をひろげて
つぶすように折る

20



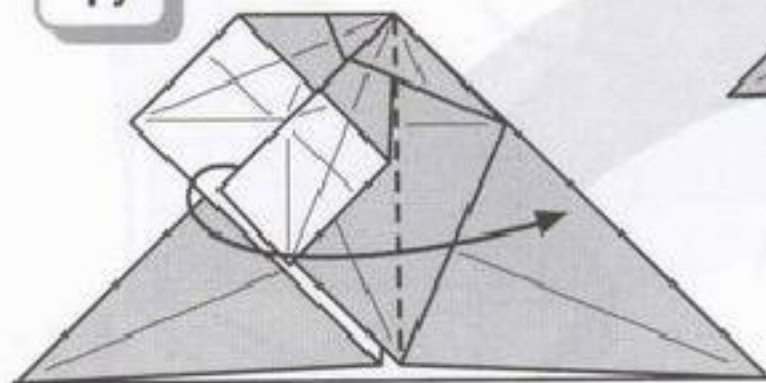
反対側も16~19と
同じように折る

21



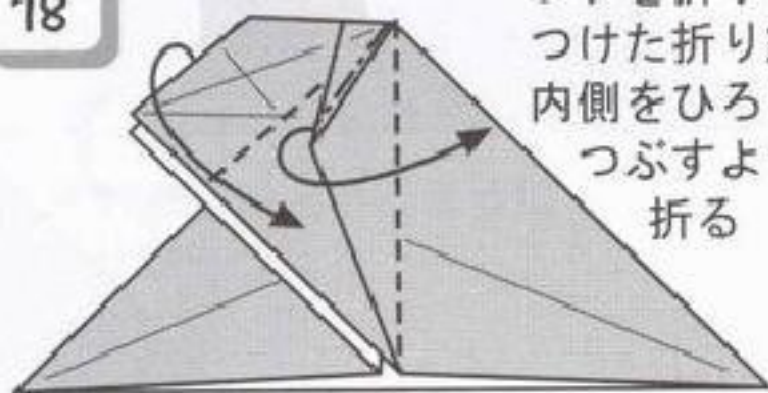
カドとカドを
あわせて折る

19



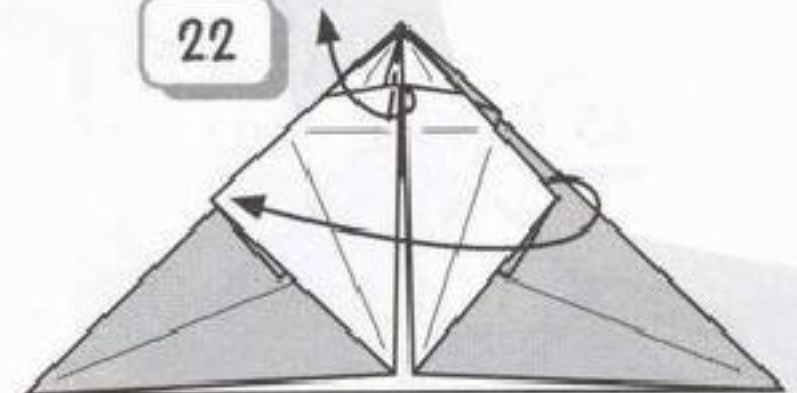
カドを反対側に折る

18



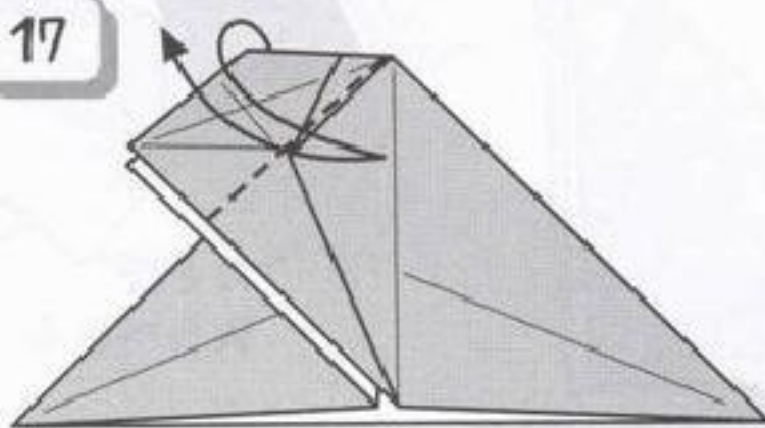
フチを折りながら
つけた折り筋で
内側をひろげて
つぶすように
折る

22



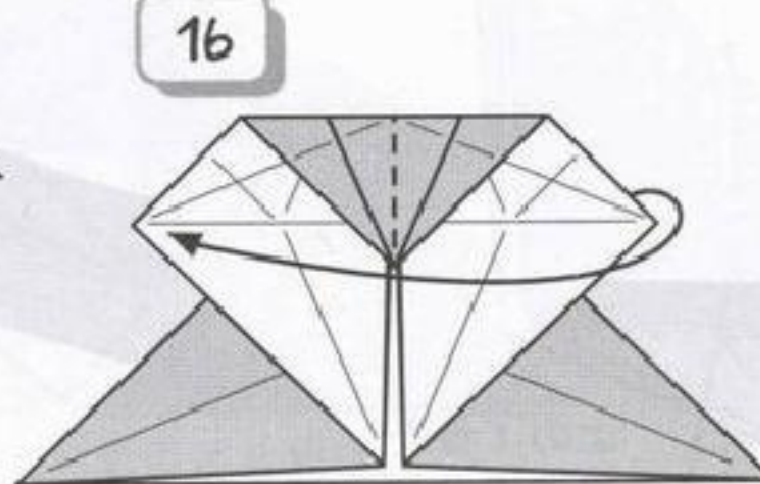
フチを引き上げながら
カドを反対側に折る

17



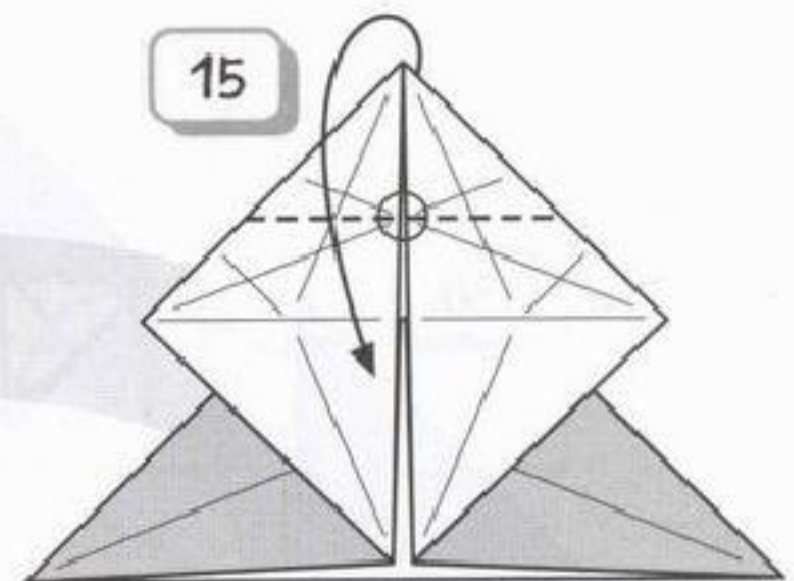
上の1枚のフチを
折り筋にあわせて
折り筋をつける

16



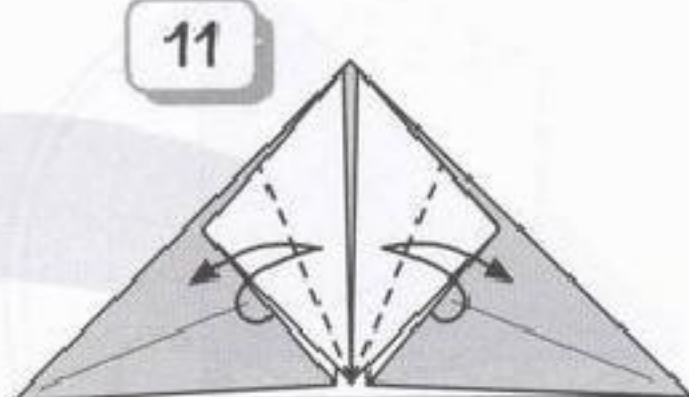
カドを反対側に折る

15



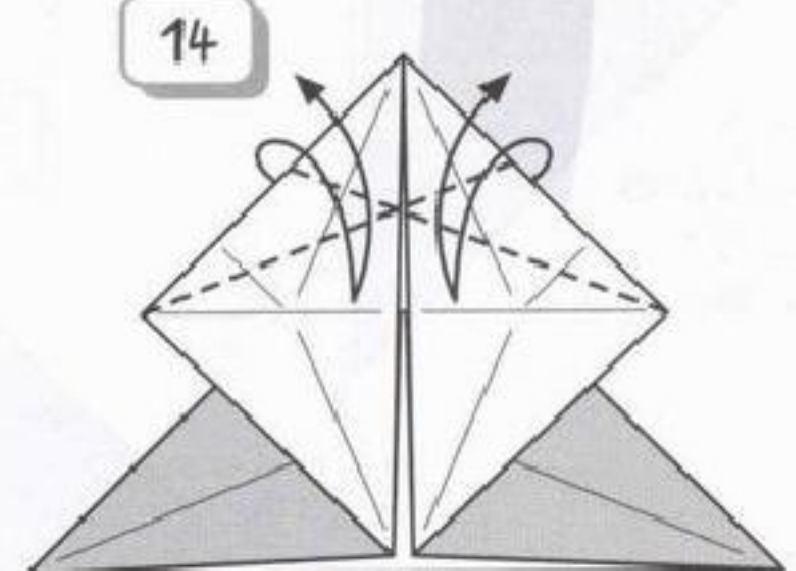
カドを○のところで
下に折る

11



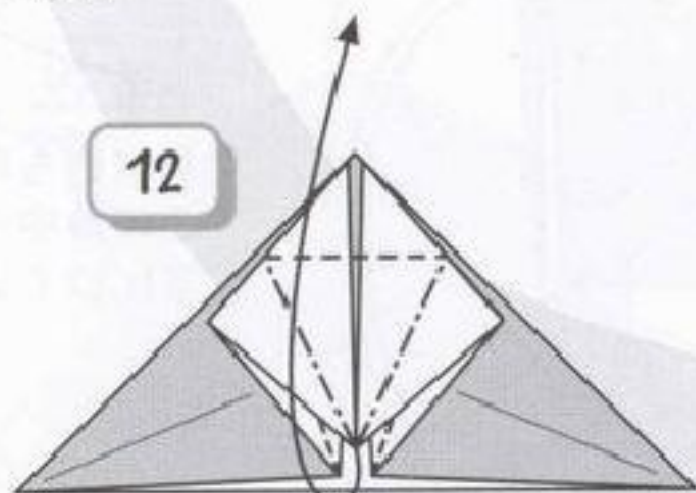
フチを中心にあわせて
折り筋をつける

14



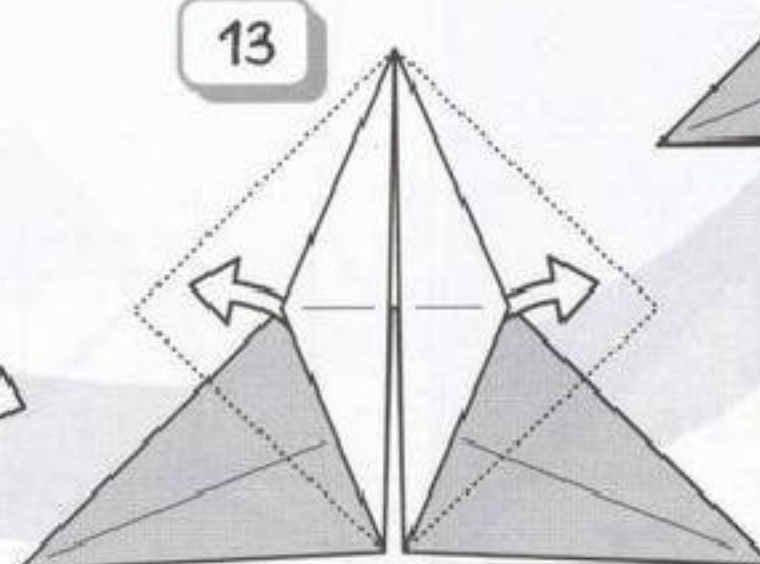
フチを折り筋にあわせて
折り筋をつける

12



内側をひろげて
つぶすように折る

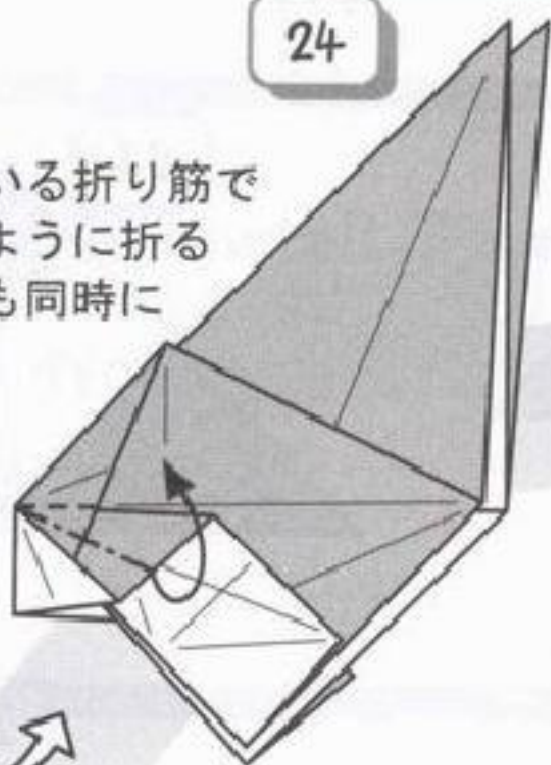
13



後ろから紙を引き出す

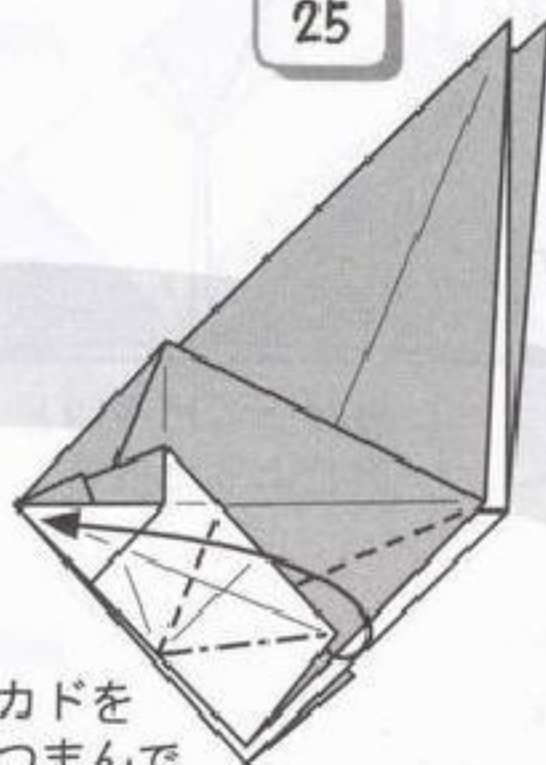
24

ついている折り筋で
ずらすように折る
反対側も同時に
折る



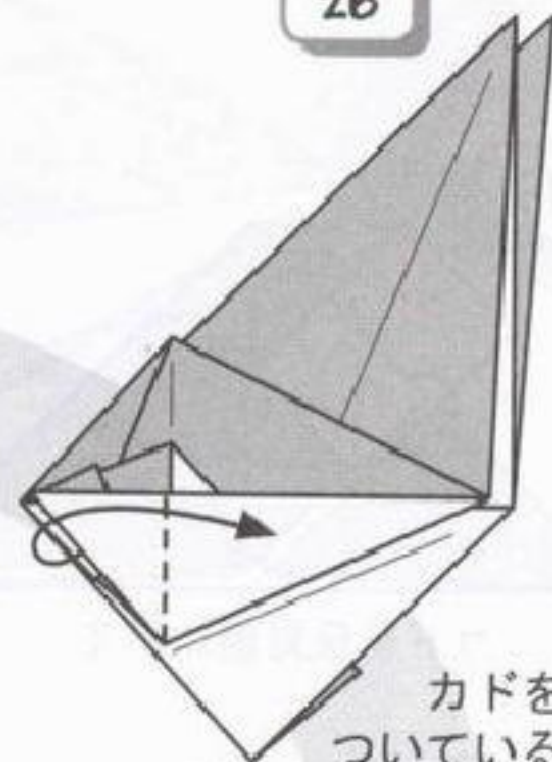
25

カドを
つまんで
カドにあわせる
ように折る



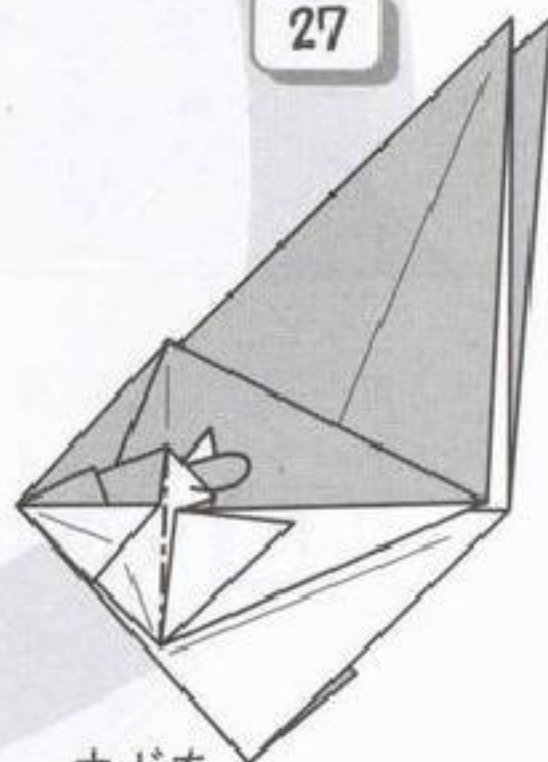
26

カドを
ついている
折り筋のところで折る



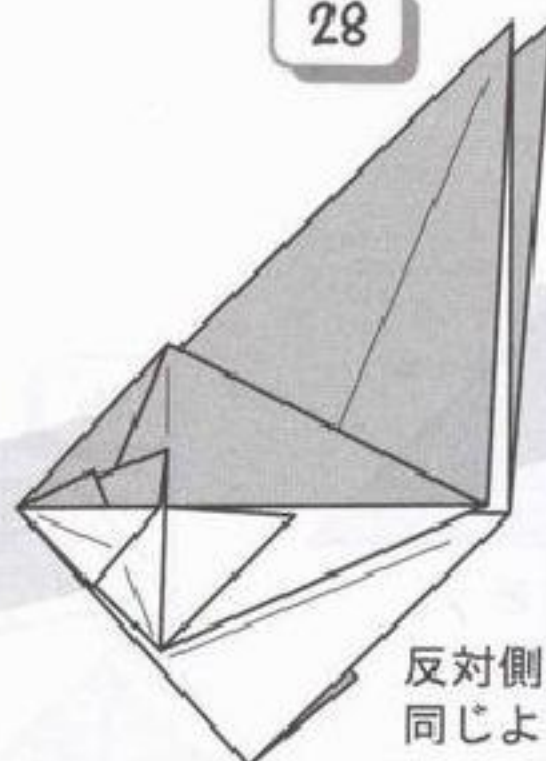
27

カドを
後ろへ折る



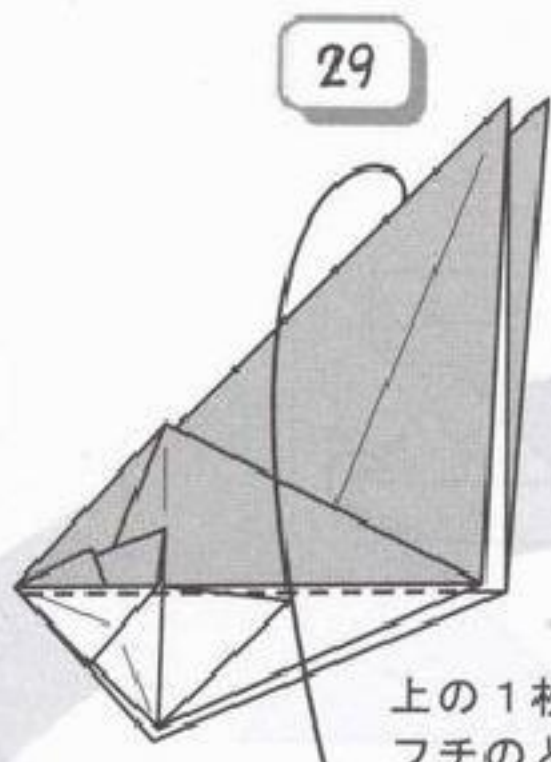
28

反対側も25~27と
同じように折る



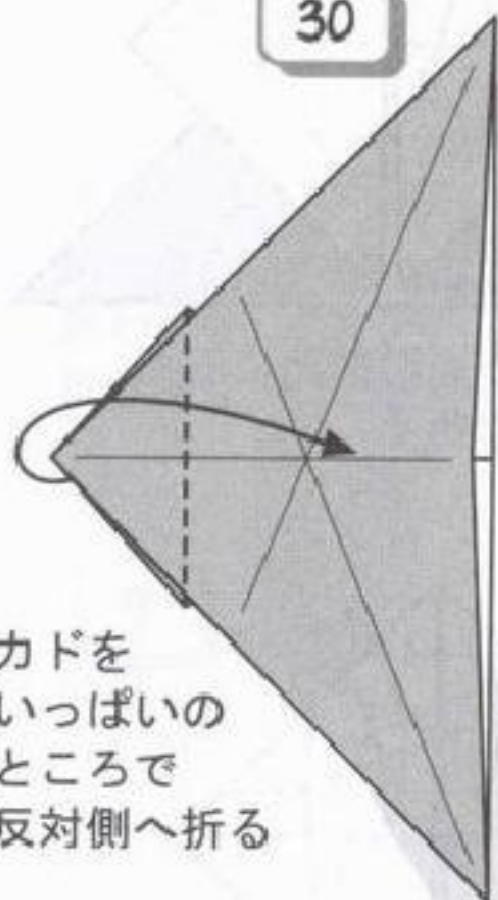
29

上の1枚を
フチのところで
折る



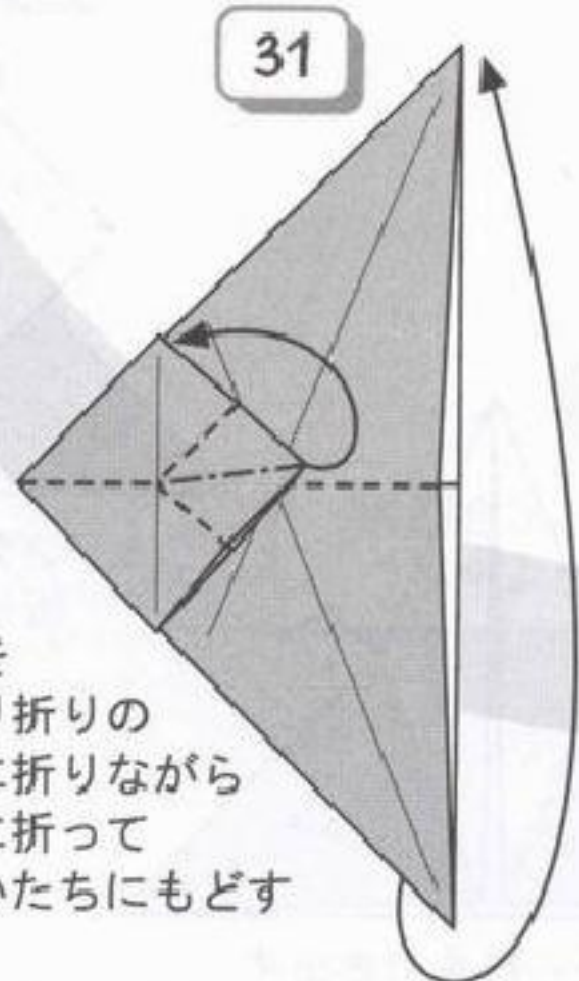
30

カドを
いっぱいの
ところで
反対側へ折る



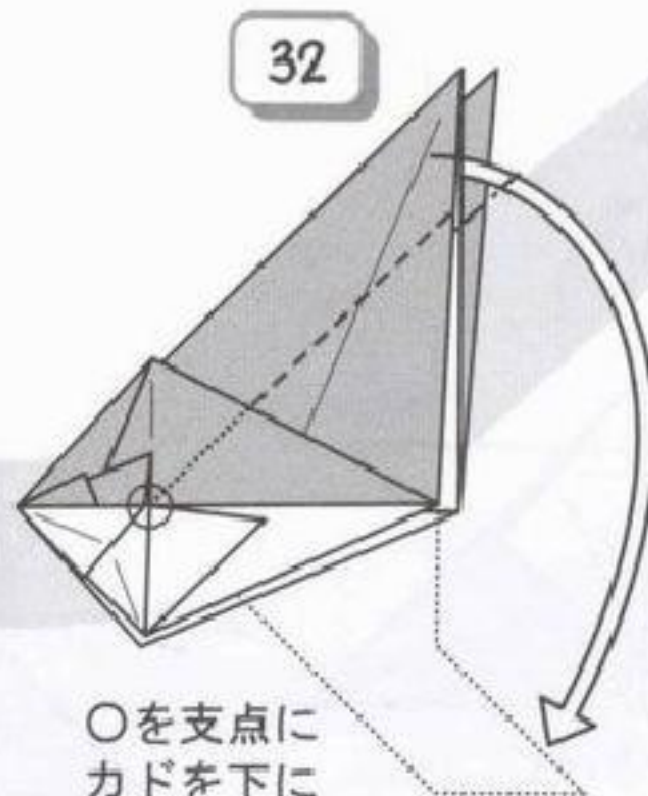
31

カドを
中割り折りの
ように折りながら
半分に折って
29のかたちにもどす



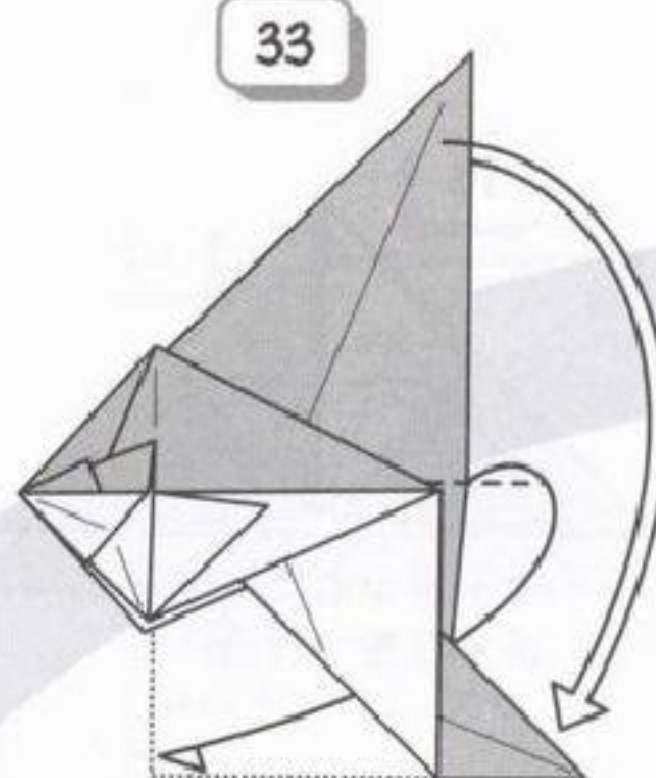
32

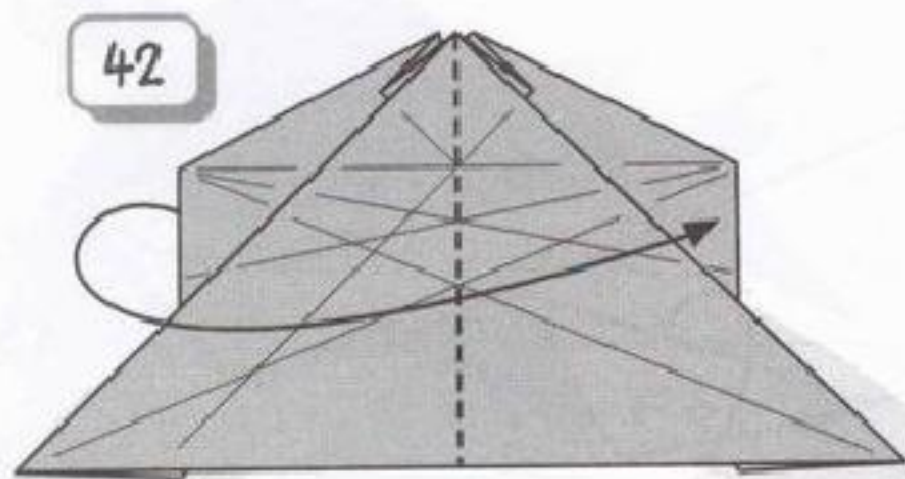
○を支点に
カドを下に
ずらすように折る



33

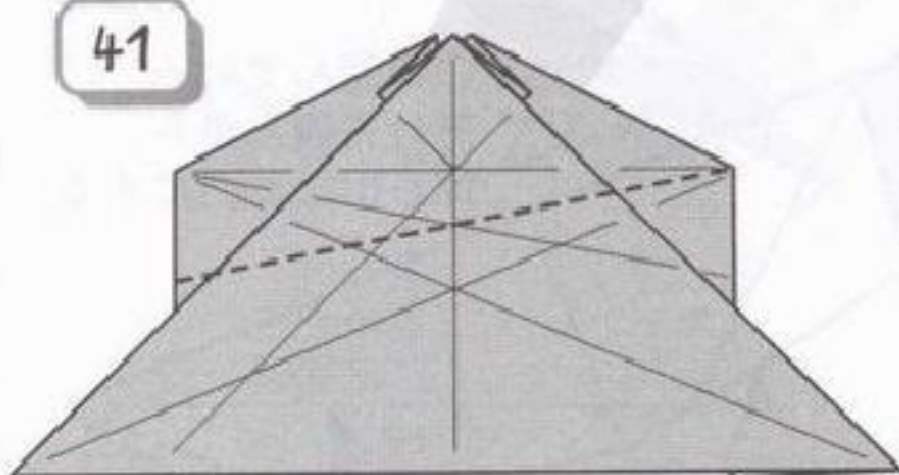
反対側も同じように折る
この時中心のカドが
下にいくようにする





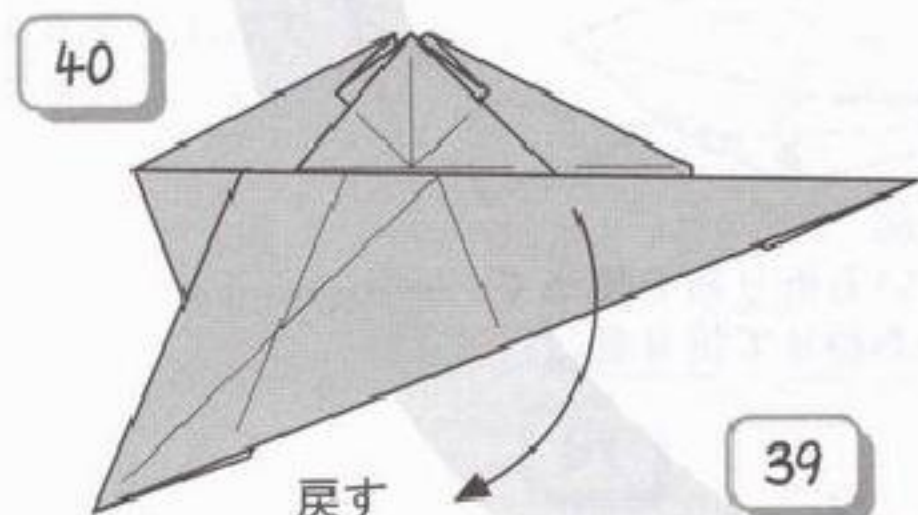
42

反対側に折る



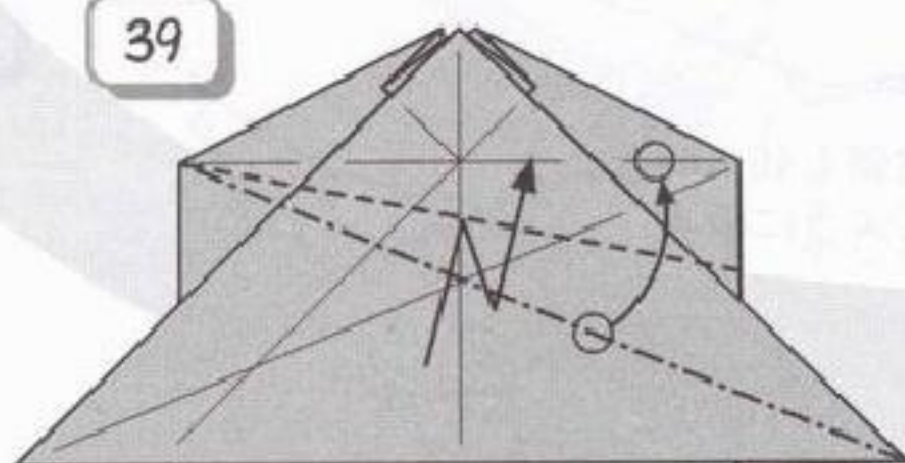
41

反対側も39と同じように
折り筋をつける



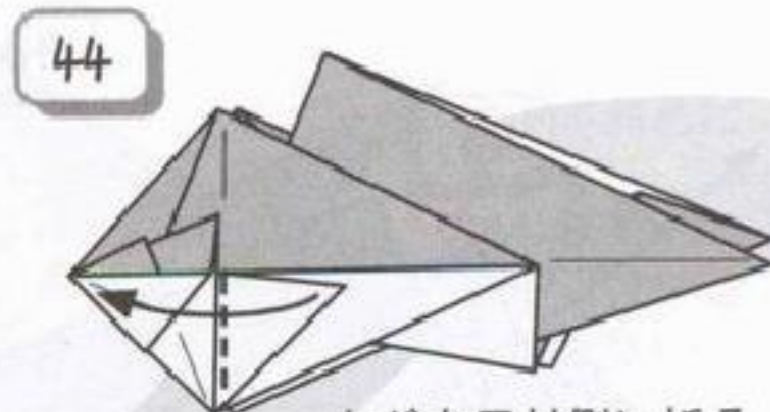
40

戻す



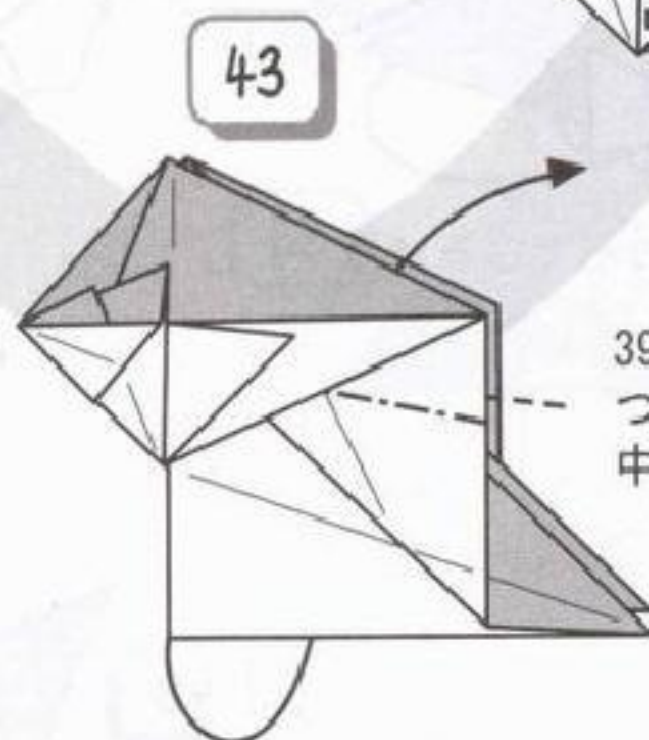
39

つけた折り筋を折り筋に
合わせて段折り



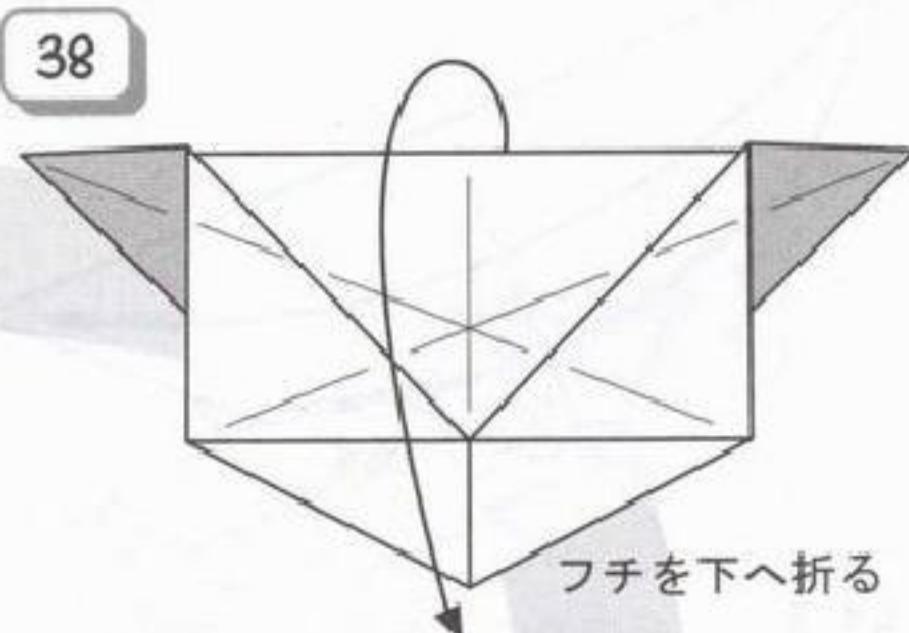
44

カドを反対側に折る



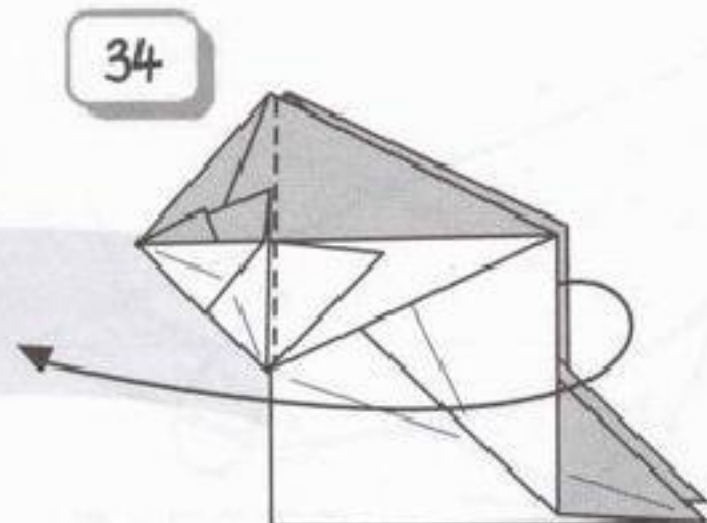
43

39・41で
つけた折り筋で
中割り折り



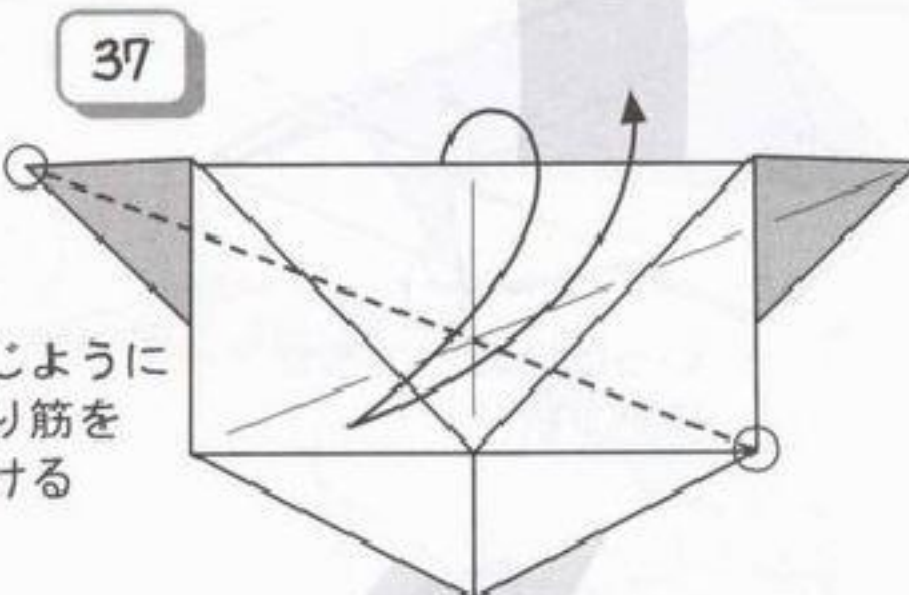
38

フチを下へ折る



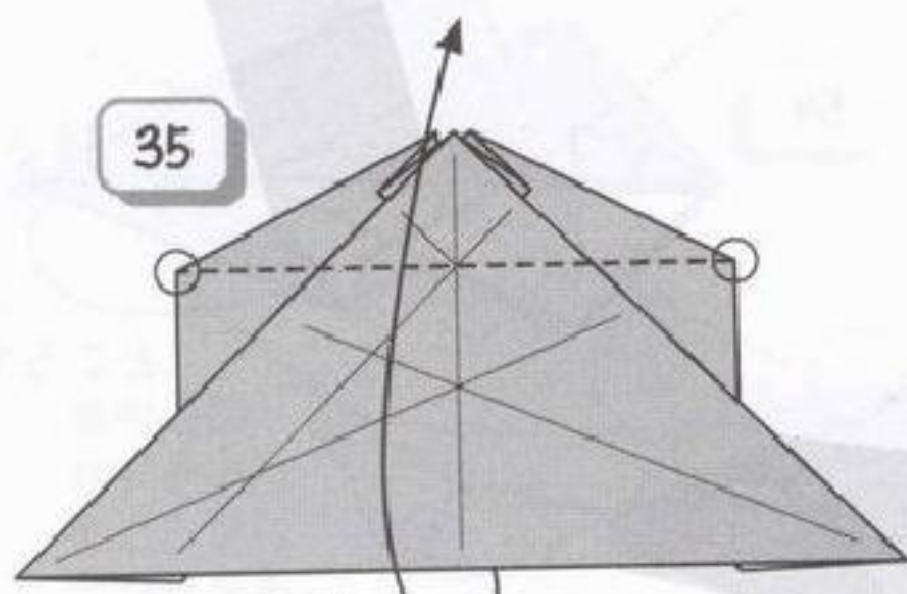
34

反対側にひろげる



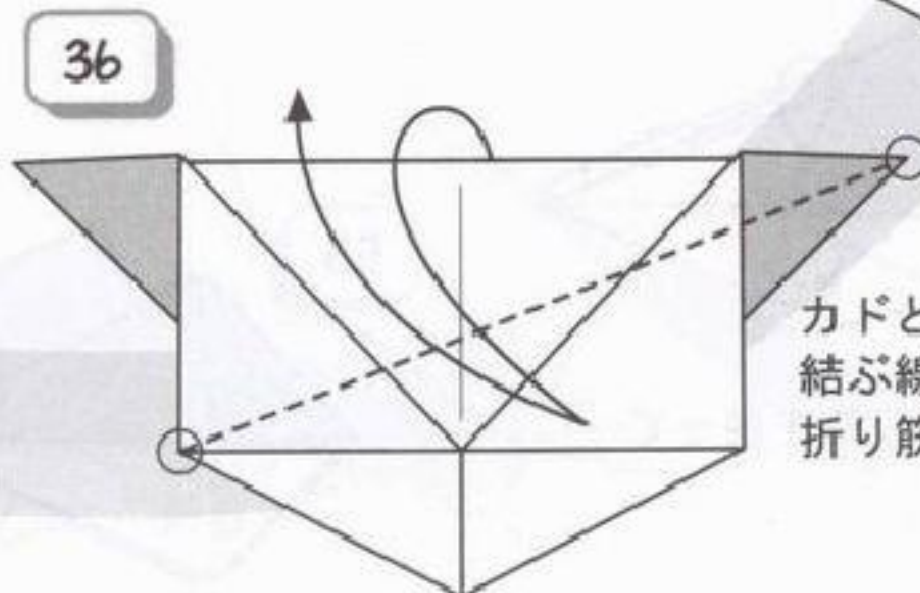
37

同じように
折り筋を
つける



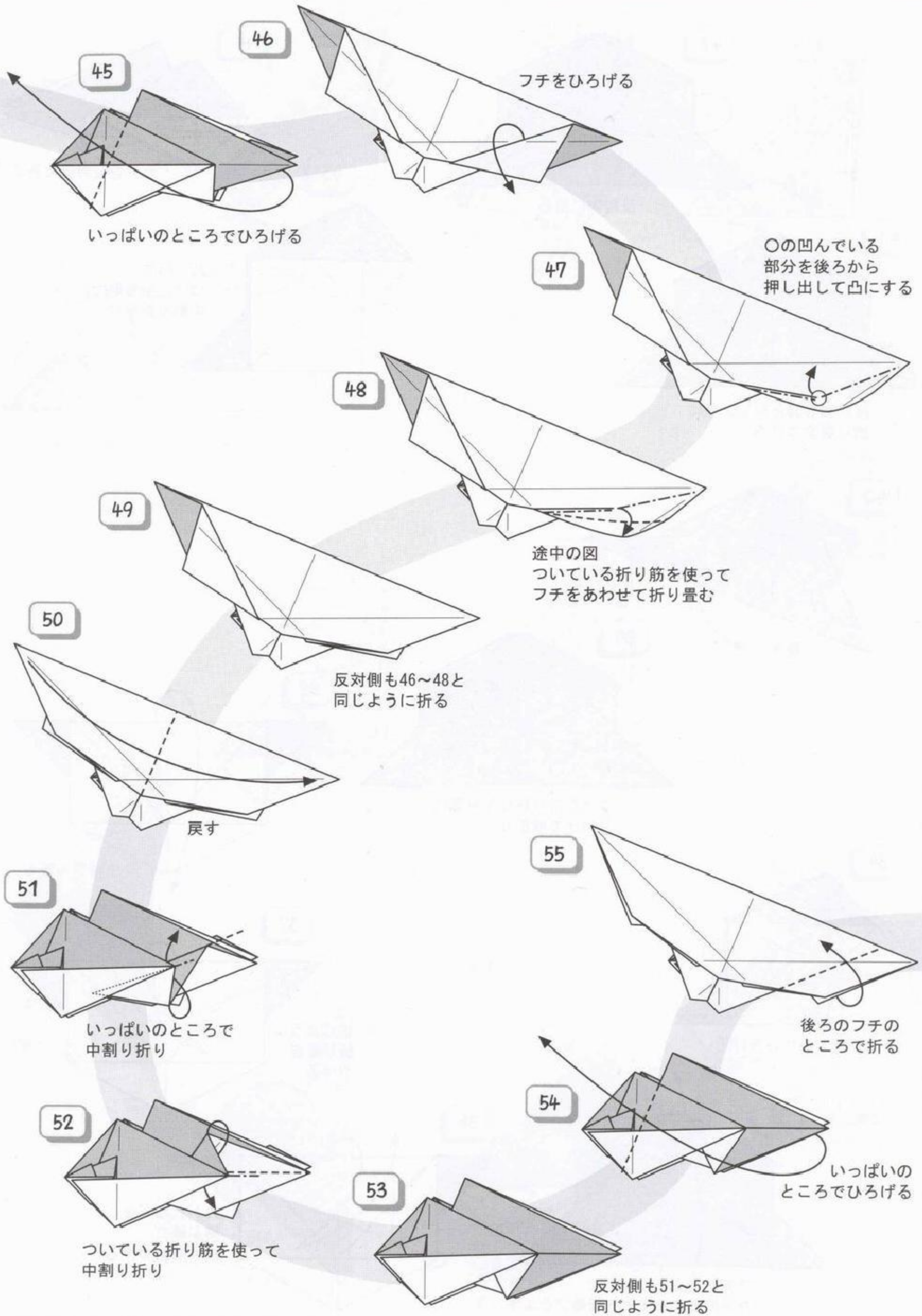
35

フチを
カドのところで上へ折る

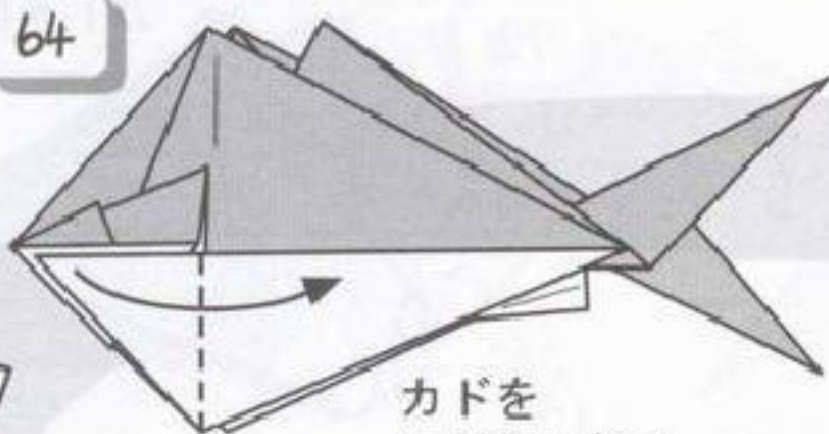


36

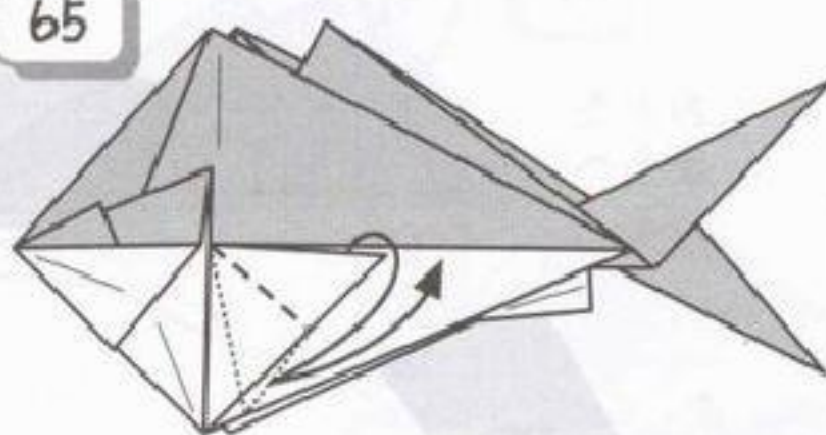
カドとカドを
結ぶ線で
折り筋をつける



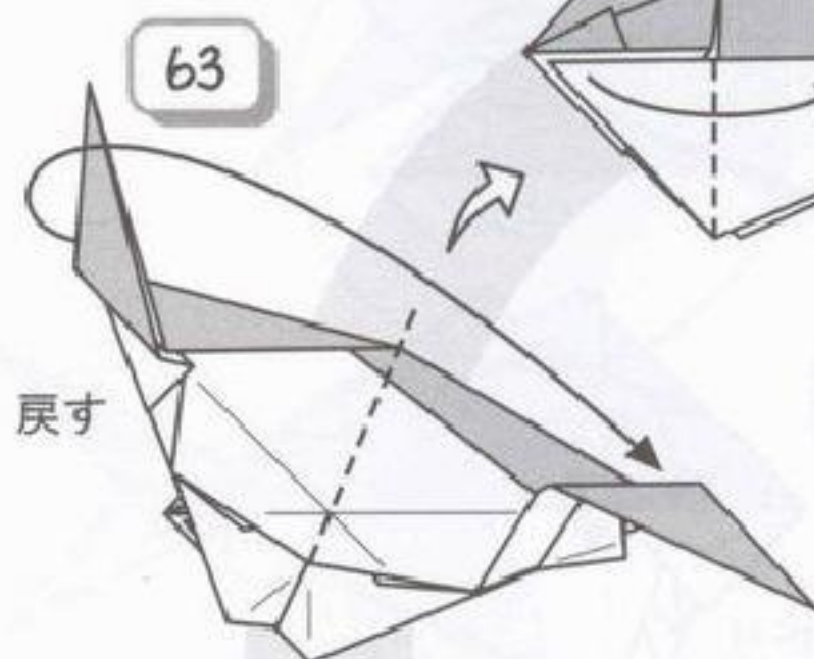
64



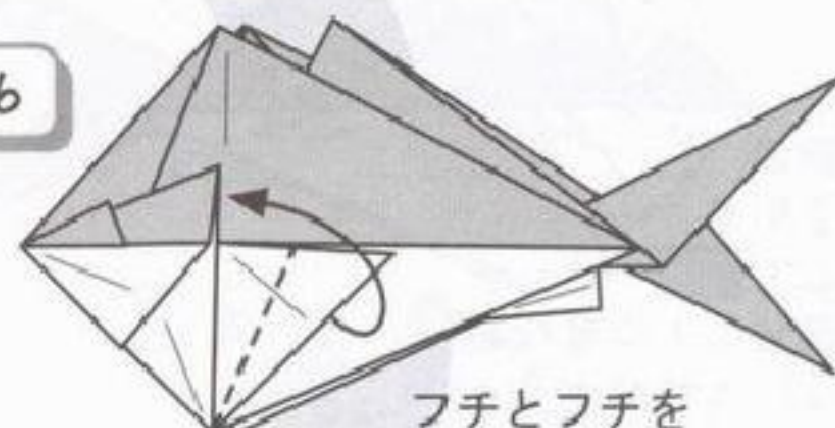
65



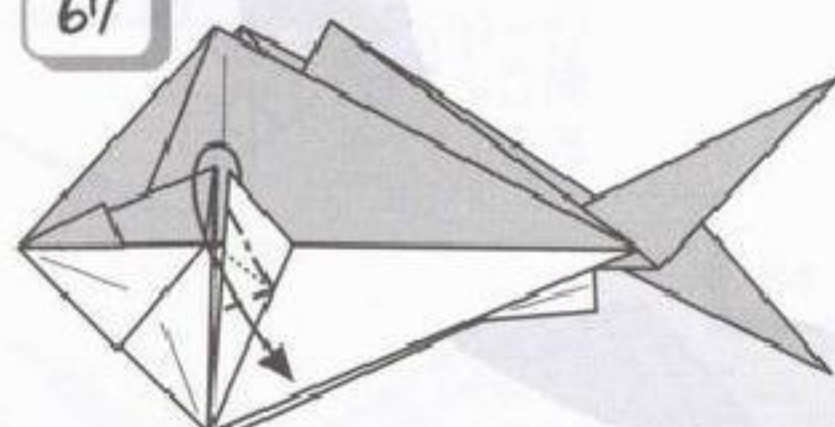
63



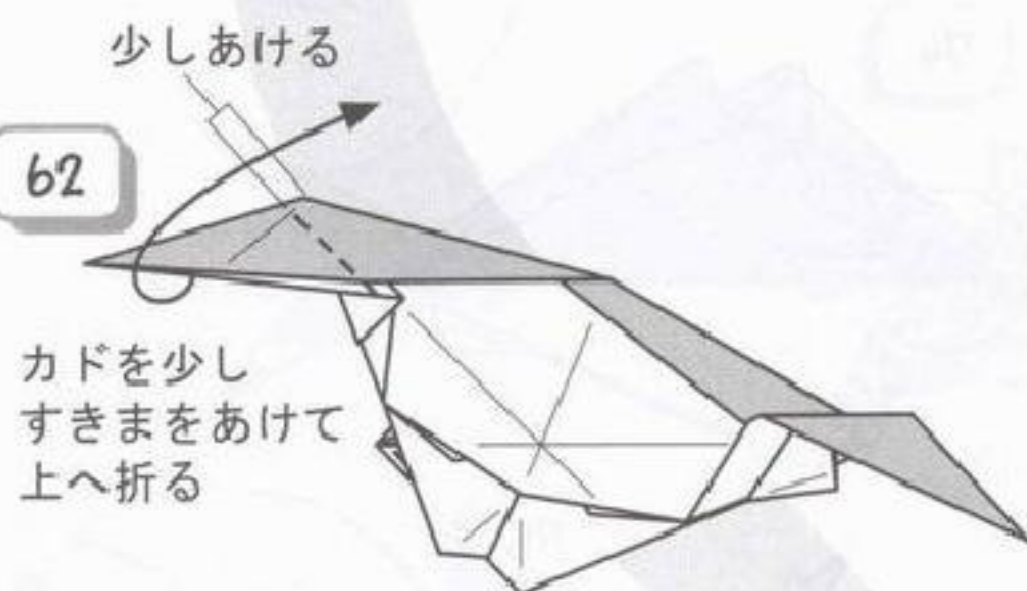
66



67

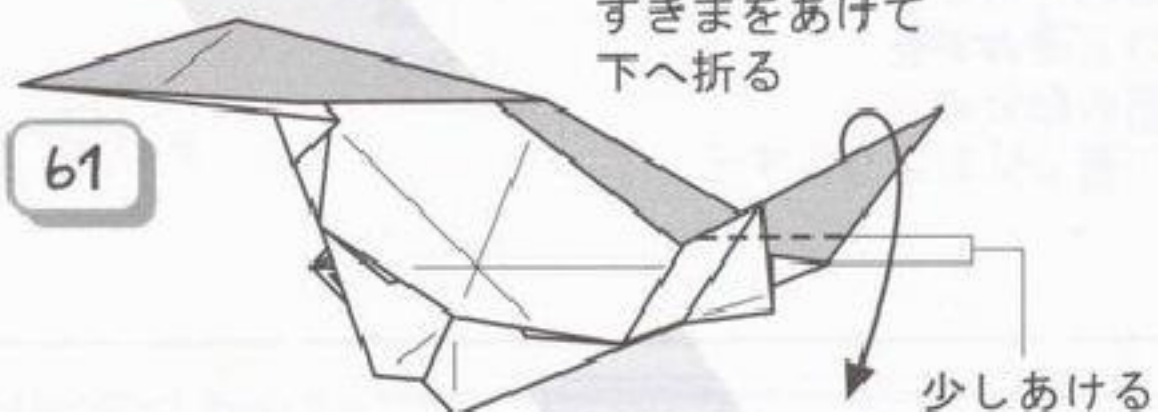


62

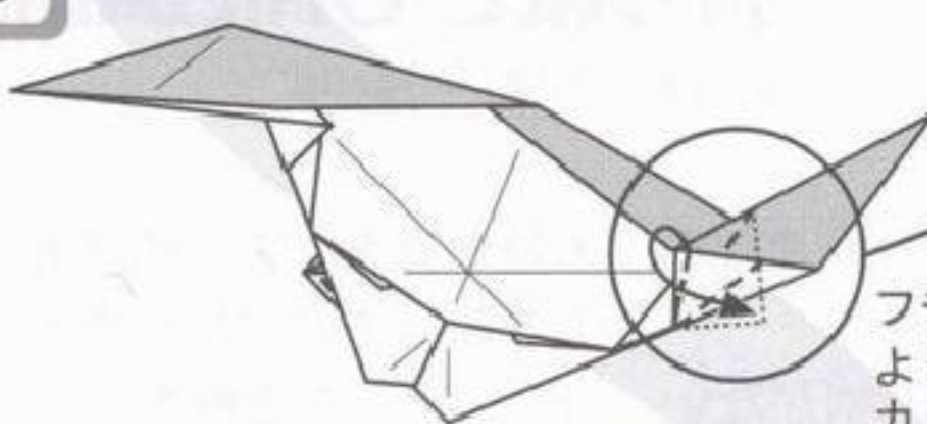


カドを少し
すきまをあけて
下へ折る

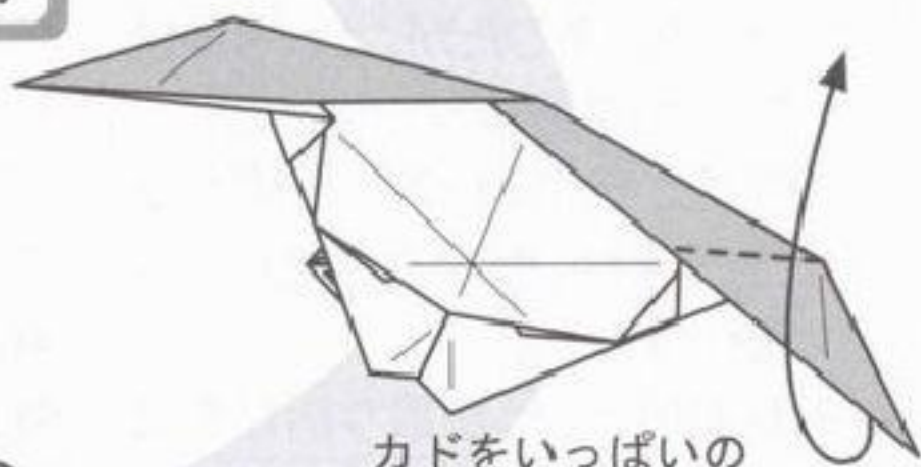
61



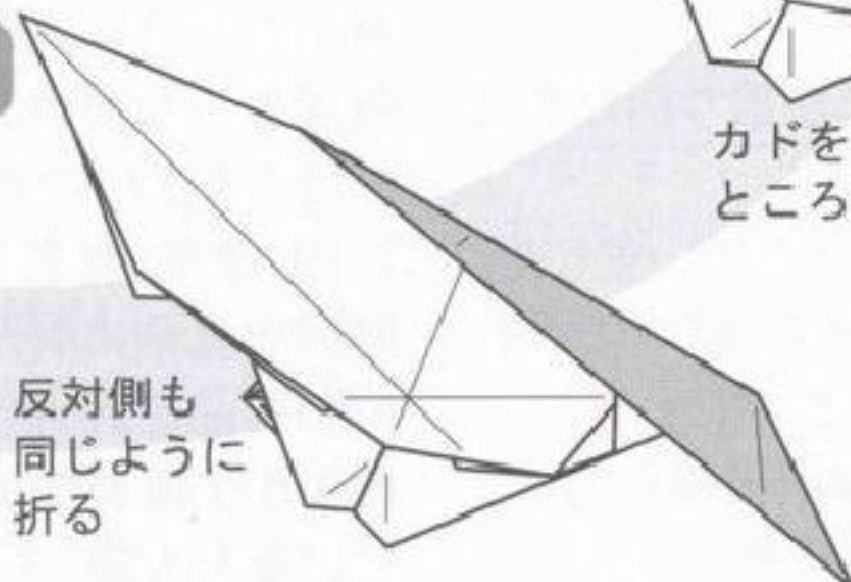
60



59

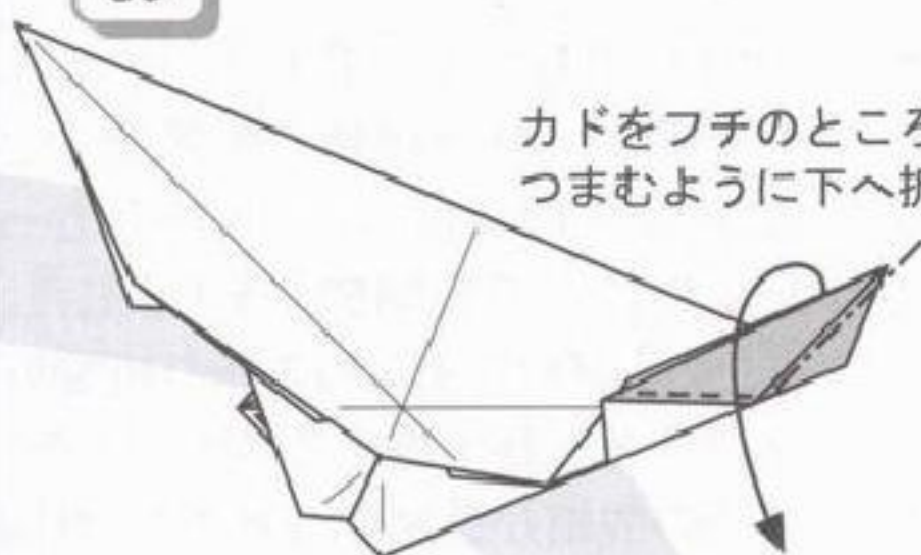


58



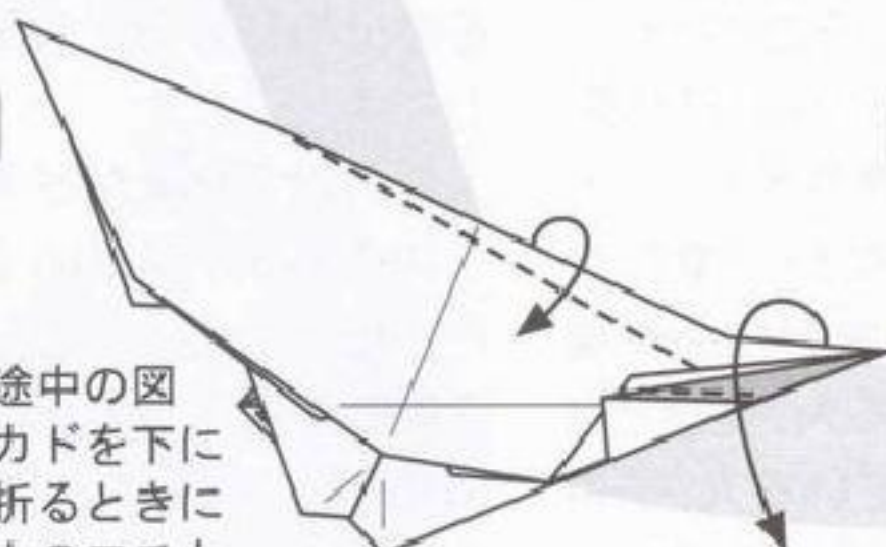
56

カドをフチのところで
つまむように下へ折る

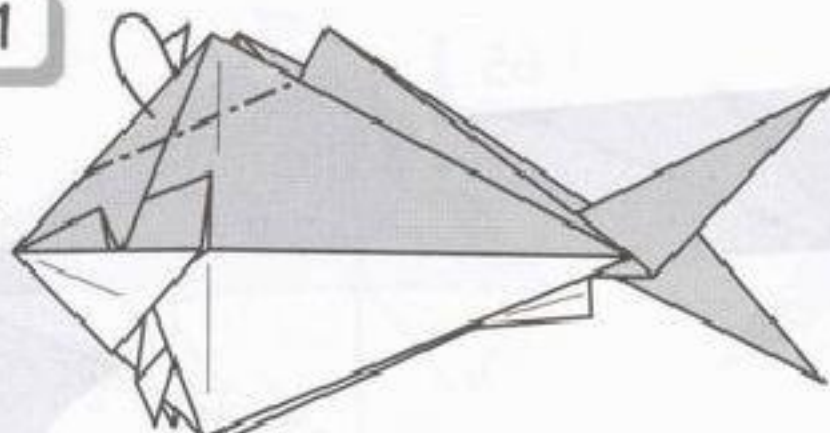


57

途中の図
カドを下に
折るときに
上のフチも
折れるところで折る

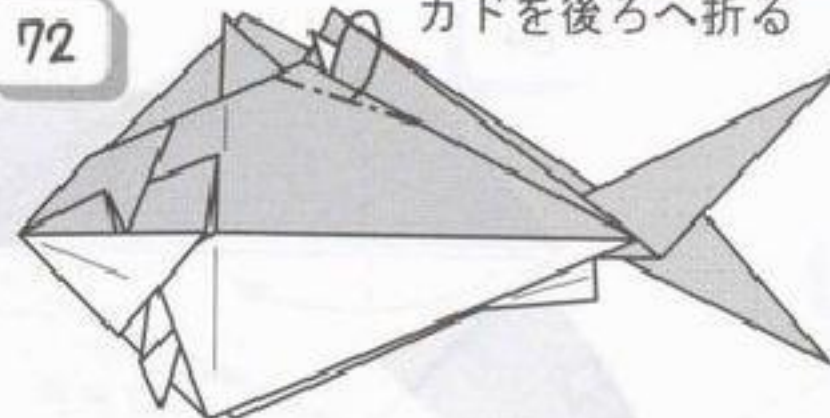


71

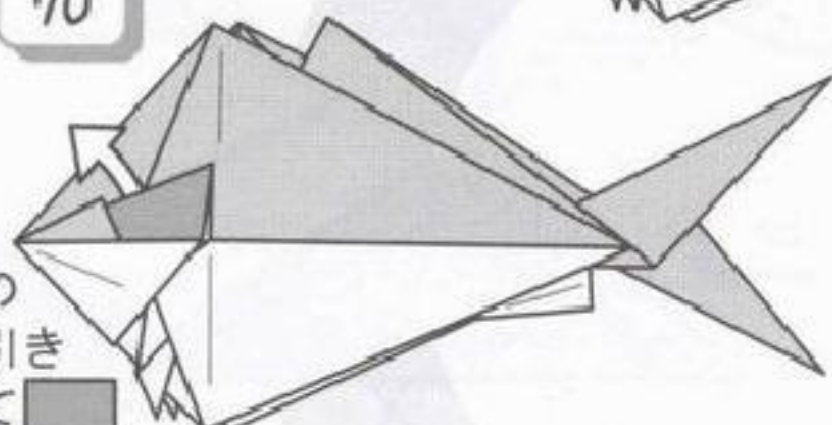
カドを
後ろへ
折る

72

カドを後ろへ折る

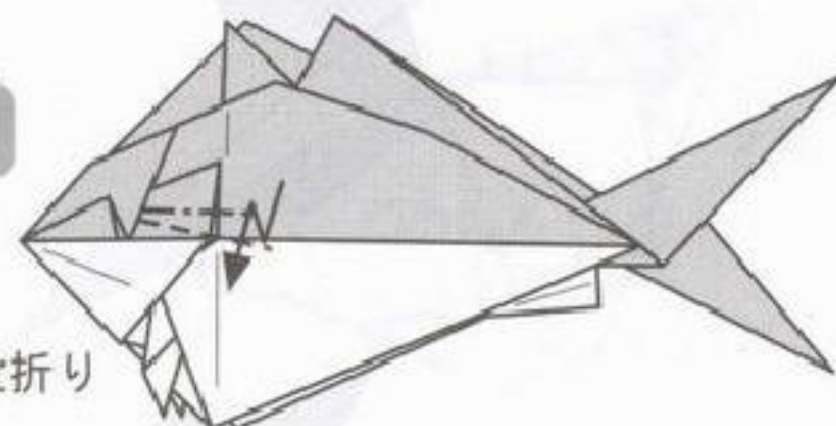


70

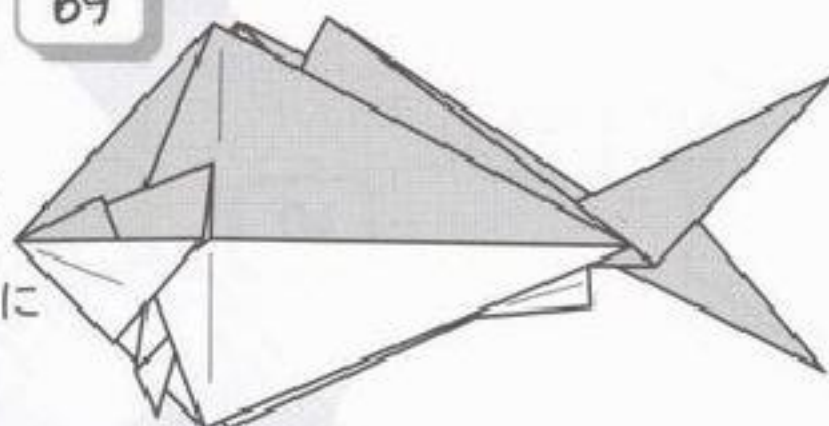
内側の
紙を引き
出して
の部分の上に重なる
ように入れ替える

73

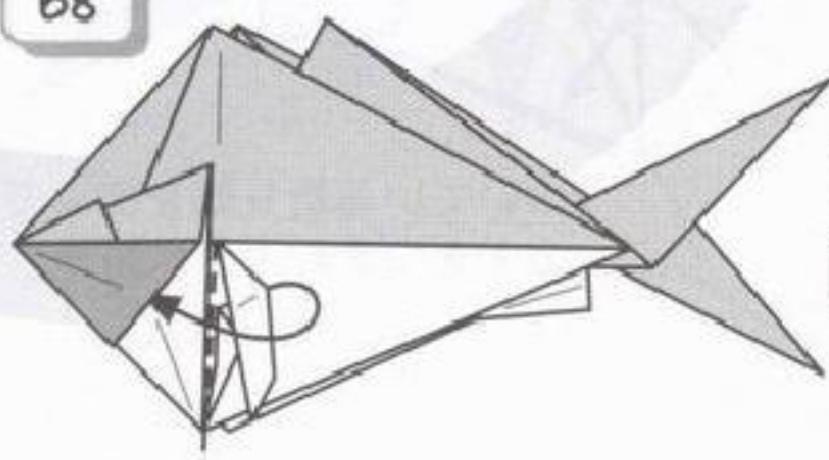
段折り



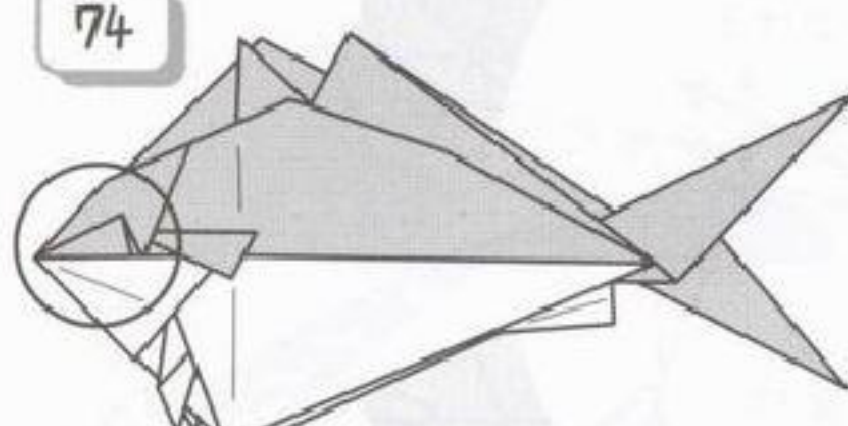
69

反対側も
65~68と
同じように
折る

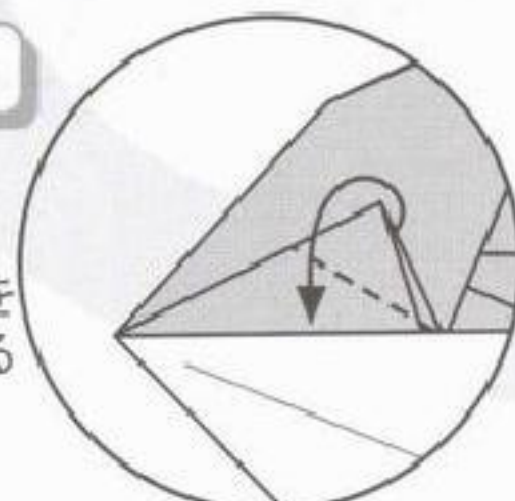
68

反対側へ折る
このときカドを
の部分の
下に差し込むようにする

74



75

フチとフチを
あわせて折るおり
すじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

折り紙と ORIGAMI と

Origami and "Origami"

北西一貴

Kitanishi Kazuki

以前、悪友にこう言われた事がありました。

「お前は、折り紙しか取り柄がないな。」

確かにその通りで、私は趣味こそ人より多くありましたが、どれも長続きせず、いつも最後は、紙をいじっていました。そう言われても仕方がないと思う半面、腹が立った私はこう言い返しました。

「ならお前には、何か取り柄があるのか？」

すると悪友は黙ってしまいました。おそらく、折り紙“すら”夢中になれるものが、なかったのでしょう。

何か一つでも夢中になれることがあるのはいいことです。私は、折

り紙が好きです。むしろ私は、それに誇りを持っていて毎日のように折っています。そんな愛好家です。この雑誌を読んでいる方の中には、私のような方は少なくはないでしょう。

夢中になって続けていると多くのことを教えられます。そのことのひとつが、《「ORIGAMI」さえあれば誰とでもつながることが出来る》ということです。東京などのコンベンションへ行けば、外国からも含めて、全国各地から、それはたくさんの老若男女が一堂に会しています。有名な作家の作品や展開図を真剣に睨んでいる人、友達と自分の作品を評価し合っている人、子供のような純真無垢な笑顔で紙を折っている大人達。大きな折り紙組織のな

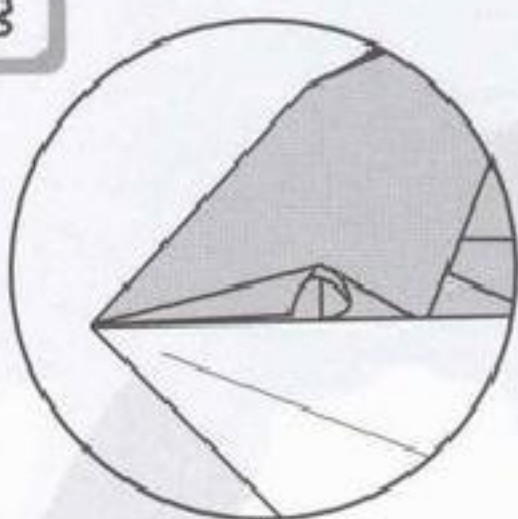
い田舎出身である私にとってそんな光景は、大きな感動や興奮、それと「こんな人間は自分だけじゃなかったんだ」という安堵感がありました。また、外国から来られた折り紙愛好家の方とも話す機会がありました。英語の成績が壊滅的な私でも、外国人の方々と笑顔で“話す”ことが出来るのは後にも先にも「ORIGAMI」の力です。

自分は折り紙が好き。

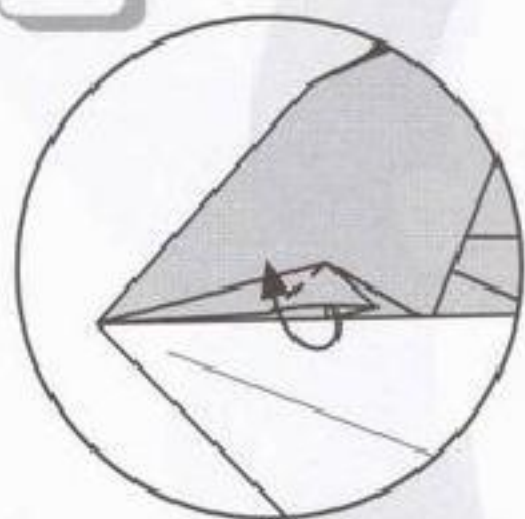
相手もORIGAMIが好き。

たったそれだけのことで心を許し合えるのかも知れません。年齢の差や国籍といった心の境界さえもつなげる“コトバ”、それだけの力が折り紙にはあると思います。

78

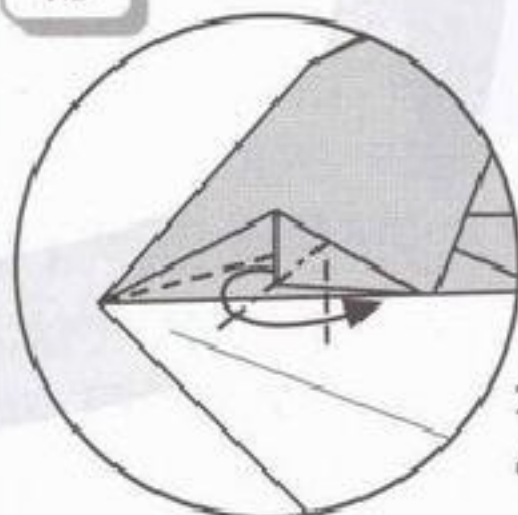


77



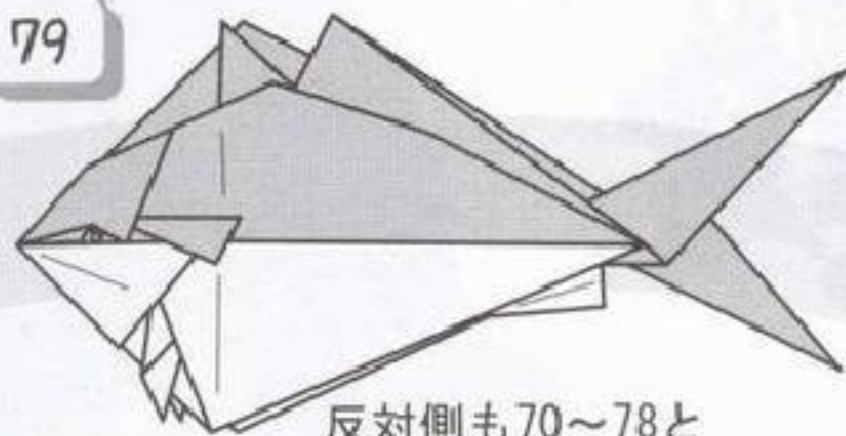
フチをひろげて
眼のかたちを作る

76



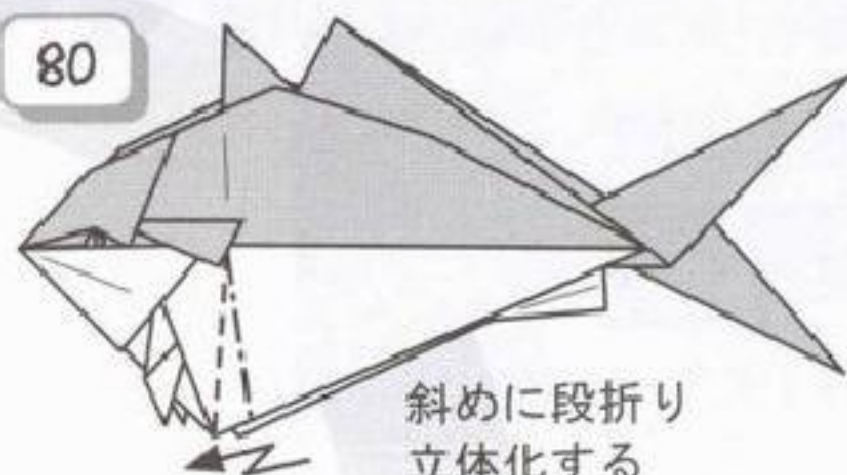
カドをつまむ
ように折る

79



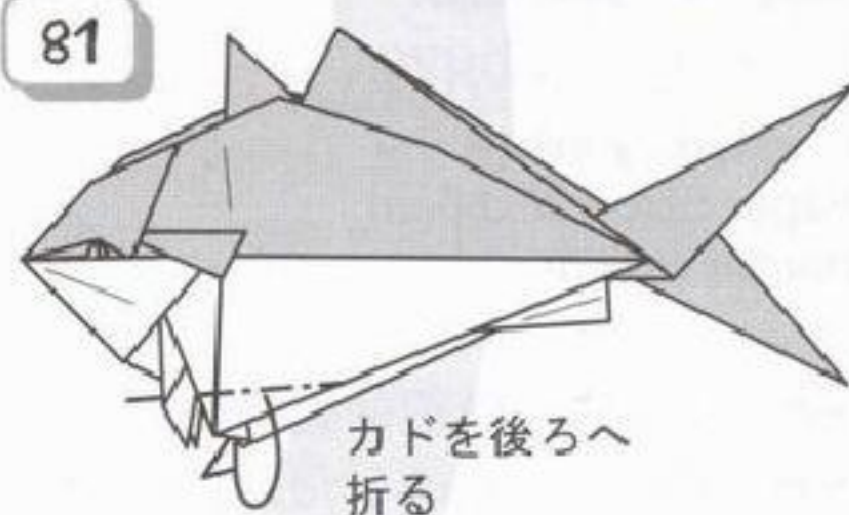
反対側も70~78と
同じように折る

80



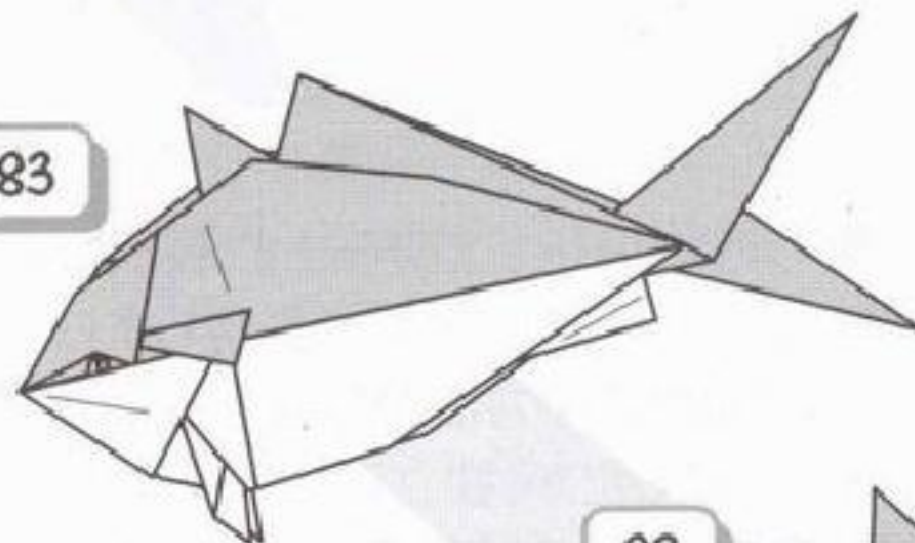
斜めに段折り
立体化する

81



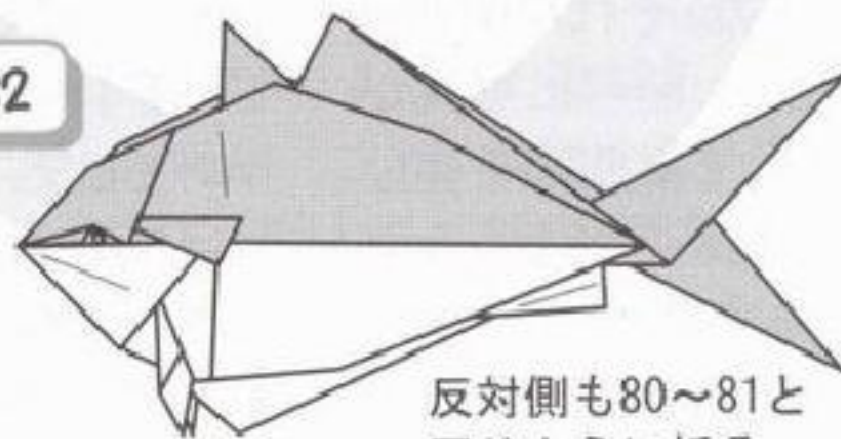
カドを後ろへ
折る

83



身体が開く場合は
糊付けして
できあがり

82



反対側も80~81と
同じように折る

折紙三昧 ④

Origami-Zanmai (This Origami and That)

犬のこと

Puppies and Dogs

4年ほど前から、2匹のヨークシャーテリアを飼い始めました。名前をメルシーとプリエといいます。飼い始める前は、「犬に洋服を着せるなんて、何考えてんだ」くらいのことを、酒席で口走ったこともあるかもしれないのに、今では可愛くてメロメロ状態。もちろん、洋服を着せることなど当たり前で、まっ

たく赤面ものです。私がかように犬を可愛がっていることは、恥も外聞もなく周囲に吹聴して、山口さんにも気を使わせて「メルシー」という名の馬券をプレゼントしていただいたりしました。飼い始めた時から何とか折り紙でも表現しようとしていたのですが、ようやく年初にヨークシャーテリアの折り紙作品を一つものにするのができ、今年のコンベンション折り図集に投稿してほっとしているところです。

さて、2匹は男の子と女の子のペアなのですが、名前は共にフランス語の単語をもとにしています。フランス語は発音が大切らしいのですが、Merci(=ありがとう)ならカタカナ化してもいいかと納得し、男の子は、まずはメルシーくん。次は女の子らしい語感をもとめて、夫婦で一

悩み。折り紙関係で良いのがないかと考え巡らすこと数日。そしてようやくメルシーくんのフィアンセには「プリエ」と名付けることができました。日本語の「折る」と「祈る」の字ヅラが似ています。これは時々言われることです。ところがなんとフランス語でも動詞の「折る」は《plier》そして「祈る」は《prier》と一字ちがいだということを見つけて、小喜び。カタカナにすると正に二つの意味をこめることができるのです。

さてさて、この文章を書いているのは正に7月7日の七夕の日。天の川のカミに《prier》する気持ちで、カミを《plier》して、星の短冊に願いを書いてみます。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表



左がプリエ、右がメルシー

展開図折りに挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第60回 河童

KAPPA the Water Imp

宮本宙也

Miyamoto Chuya

Created : 2009.06

Paper Size : 60x60cm

Height : 18cm

➤ の作品は、最初は蛇腹48等分か
➤ ら創作していましたが、それだと
紙が余り過ぎてしまうために44等分
でまとめることにしました。それが
関西コンベンションで展示し、前号
に写真が載ったものです。そして展
開図を描いているうちにさらに詰め
られそうな気がして、蛇腹40等分
で構成し直したものが本作です。そ
の気になれば32等分、24等分とさ
らに詰められるかもしれません。2
等分を目指して頑張ります。

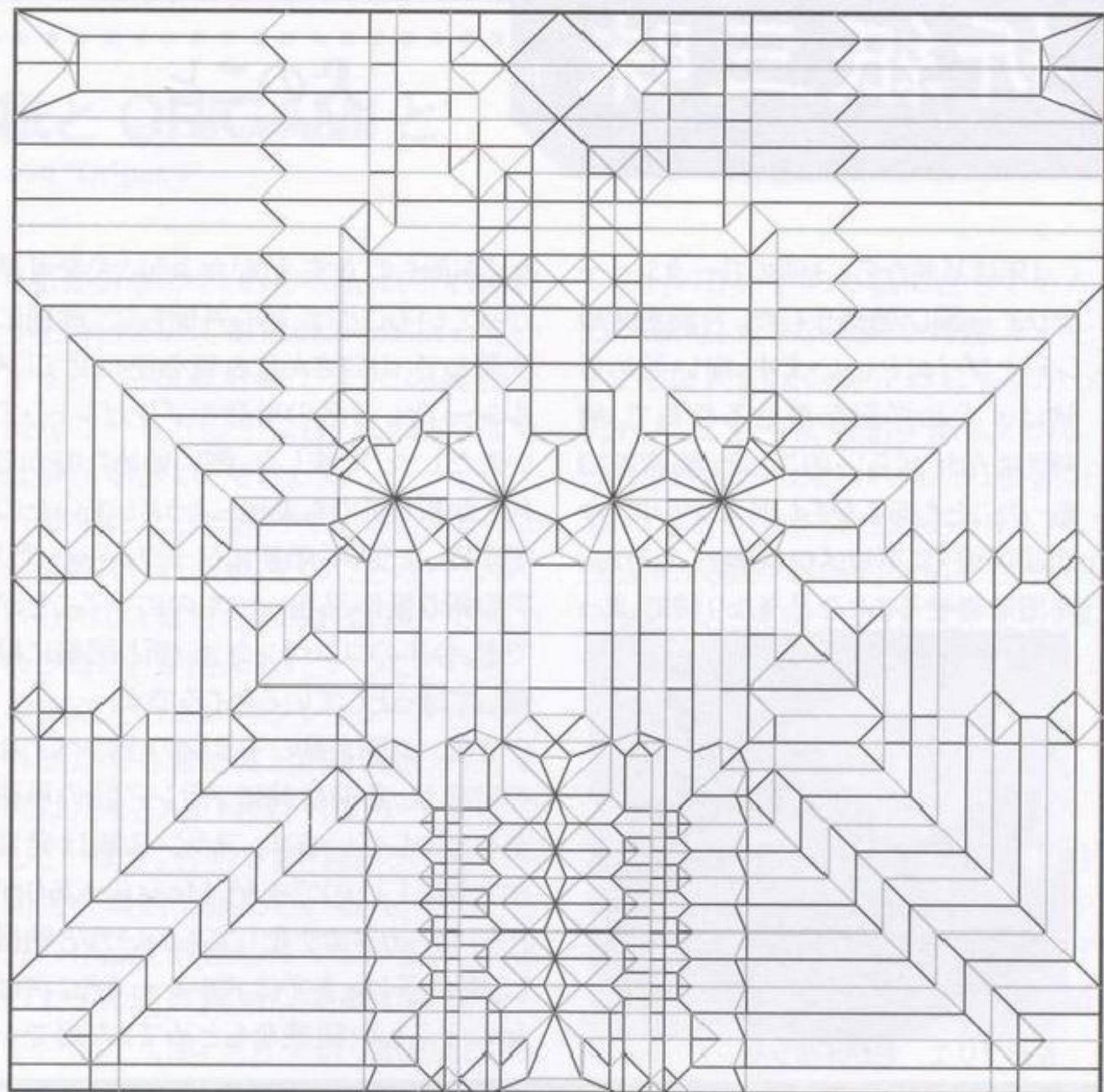
甲羅も別物になっています。もとも
と結構余ってしまった紙を有効に
使う目的で無駄に段折りを増やした
ため、六角形の隣合う板どうしに
隙間ができ、皮が剥がれている様
子を表すことで誤魔化していました。
また、何の見どころも面白みもな
い展開図になりそうだったので、
今までにない表現での甲羅の折り
出しを試みることにしました。そ
こでカドの細かい沈め段折りで甲
羅の板の筋を表現することを思い
ついたので、これを見て折る側から
すれば敬遠する要素になってしまっ
たかもしれません。列ごとの境目
の角度が急につきすぎて亀の甲羅
らしく見えないのも考えものでは
ありますが、河童は亀じゃないの
でいいと思います。

腹側は亀みみたいな平らな板にし
ましたが、河童は亀じゃないので、
普通に筋肉を折るのもいいと思い
ます。開き止めで折り込むために
余分に紙をとっているの、その余
分を下にまわして足を伸ばすこと
ができます。

髪の毛はカドとして尖らせず、板
状に折り出して縁を折ることで表
現しました。個人的にこの方法が
気に入ったので多用しましたが、
独立したカドとなっている4本の
後ろ髪がその分周りから浮いて
しまいました。ここも改良を加え
ればよかったですね。

この展開図は、紙を表側から見て
います。この作品の場合はこの方
が分かりやすいだろうとの判断か
らそうしました。最近では左右で
違う展開図が流行っ

ているので私もなにか取り入れよう
と思いましたが、この作品に於いて
は、特に加工前—加工後で理解に
苦しみそうな箇所が見つかりませ
んでした。マシンガンとか持たせ
て左右非対称にしたほうがよかつ
たでしょうか。



File-34

三浦公亮

Miura Koryo

三浦公亮(みうら・こうりょう)＝
1930年東京生まれ。東京大学
名誉教授。宇宙科学研究所名
誉教授。



4月から日本折紙学会の顧問に就任していただいた、三浦公亮氏(東京大学名誉教授・宇宙科学研究所名誉教授)を紹介します。

■「宇宙の建築家」とも呼ばれると同時に、地図などにも応用されているミウラ折りや、ダイヤカット缶(多面体状の凹凸のある缶で、缶コーヒーや缶チューハイに使用)など、身近なものへの応用も一般には有名ですが、代表的な業績をご自身で挙げると、どのようなものになりますか?

やはり、ミウラ折りでしょう。じっさいに宇宙で使われたものとしては、電波天文観測衛星「はるか」の展開パラボラアンテナなどが代表でしょう。ダイヤカット缶のもとになった「疑似円筒凹多面体」は、強度を保ちながら材料を薄くできるという工学的な意味だけではなく、デザイン的なことが大きな理由となって飲料缶に使われたのは、自分では意外でした。

■いままでの研究生活での一番のひらめきはなんですか。

これもミウラ折りになるでしょうか。平面の破壊と変形を考えていて、美しい解の可能性に出会い、これは「正しい」と直感しました。じつはこれは、宇

宙工学に応用しようというのではなく、純粋な興味からの研究でした。

■科学においても美しさは重要なわけですね。

そのとおりです。科学者は、意外とアートに興味があるのです。サイエンスとアートを結びつけようとする学会がいろいろできています。しかし、科学者とアートの作家との付き合いは、意識してやらないと続かないところがあります。その点、折り紙というのは、根っから垣根がないという感じがします。

■ミウラ折りを見いだしたときに、「折り紙」との結びつきは頭にありましたか。

これは、ありませんでした。折り紙との付き合いは、ミウラ折りが、そのデモンストレーションの意味で地図の畳み方として広まったあと、藤田文章さんから折り紙の科学国際会議に呼ばれるなどしてからです。

■折り紙との付き合いはいかがですか。

ふつうの研究生活では出合えない、幅広いひとたちと会えるのが、ほんとうに楽しいです。若いひとの熱気もよいです。第3回折り紙の科学国際会議の冒頭でわたしが話したのは、この会にはふたつのペーパーがあるということでした。ひとつは論文という

意味のペーパーで、もうひとつは文字通り「紙」です。このふたつ、つまり、研究と手作業の相互作用が折り紙の魅力のひとつと言えるでしょう。

■若い研究者や折り紙作家にアドバイスすることはありますか。

目の前の問題に取り組むときは、それに集中することは必要ですが、二足のわらじも悪くないというか、視野を広く持つことは重要だと思います。関心に幅があったほうがよい場合が多いのではないのでしょうか。なお、折り紙には定年がありません。老いてもやることができ、そして仲間がいることはすばらしいことです。

■10代のころは、どのような将来を思い描いていたのですか。

航空少年でした。飛行機的设计をしたいなどと思っていました。それが、いつのまにか宇宙になったわけです。それと、幾何学は好きでした。やはり、その美しさ、永遠性のようなものにひかれたのでしょうか。これは、研究にも役にたちました。

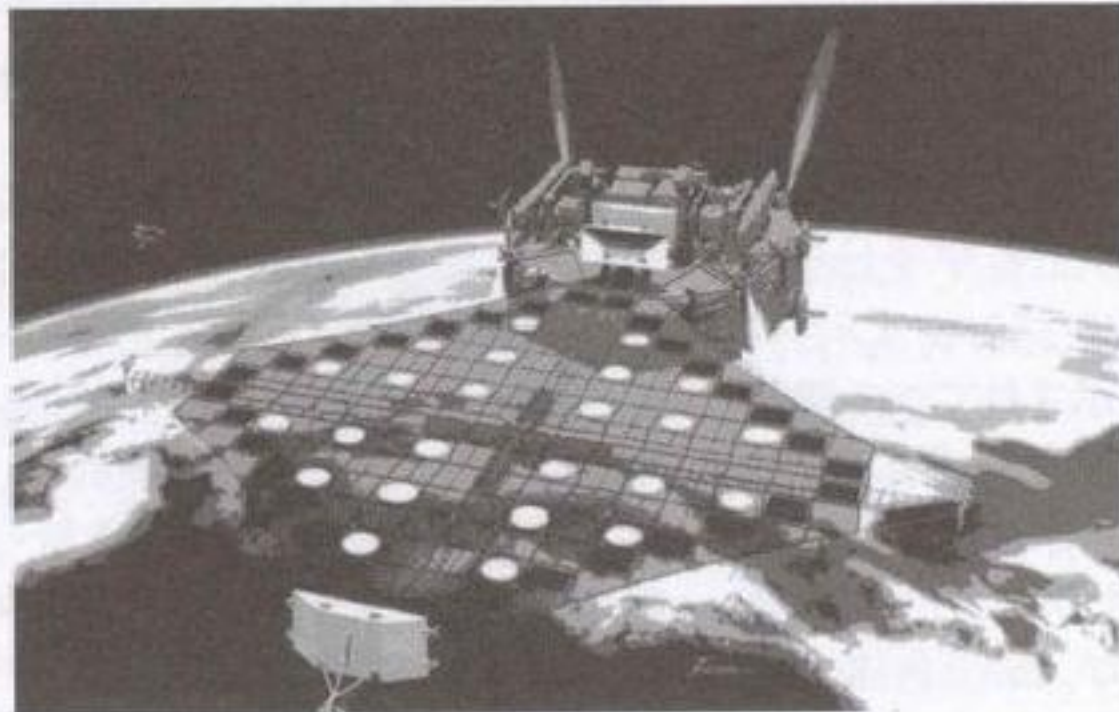
■日本折紙学会に期待することをお聞かせください。

さきに述べたように、ふたつのペーパー、学術的なものと、手を使うこと、日本折紙学会は、そのどちらにも偏ら

ずに、学者と作家と愛好家が、垣根なしに歩むことを望みます。これまで多くの作家たちが、ほとんど直観をたよりに、素晴らしい仕事をやってきたことなども思い起こす必要がありますね。



▲ミウラ折り



▲宇宙空間で展開されるミウラ折りのソーラー・アレー

Rabbit Ear

つまみおり

Information

◆第2回折紙著作権国際会議レポート

折り紙の著作権は、今重要な時期を迎えている。OrigamiUSAのNYコンベンション終了後の6月30日には、第2回折紙著作権国際会議が開催された。日本での第1回は、関係者のみの小規模なものであったが、今回はアメリカ自然史博物館の小ホールを借りた本格的なものとなった。参加には25ドルが必要だが、それでも60人余りの聴講者があった。折り紙愛好家の著作権への関心の高さが感じられる。

10時から15時までの間に10件ほどの著作権問題に関する発表があり、残りの1時間は質疑応答にあてられた。一般

参加者からの熱心な意見や質問が寄せられ、充実した時間となった。

＜国境なき著作権問題＞

日本における著作権問題としては、3つのケースが発表された。日本折紙協会と日本折紙学会が協力して取り組んでいるNHK出版に関わる問題や、山口氏の作品が無断使用され、出版・販売されている問題である。いずれも日本と海外を結ぶ問題で、今後ますますこういった問題は増えていくことが予測され、迅速かつ適切な対応方法が求められる。この会議の詳細及び発表内容については発表者の一人である立石浩一

氏により、117号で報告される予定だ。

＜動き出した法的措置＞

一般に、著作権問題を裁判に持ち込むと民事裁判になる。判決まで時間とお金がかかり、またその費用が回収できないため、実際に裁判へ持ち込まれることはまれで、弁護士への相談なども気軽にできないのが現実だ。しかし今回、山口氏は3件の著作権問題を弁護士に託した。2件はアメリカ、1件は韓国だ。アメリカの方は、June Sakamoto氏の協力により、解決の方向へ向いつつある。韓国の件はまだ始まったばかりで、ここで詳細を述べることはできないが、結論が出た際には、また本誌で報告できるであろう。

(報告：松浦英子)

◆2009 OrigamiUSコンベンションレポート

武田直樹

去る6月26日～29日、アメリカはニューヨークで開催されたOrigamiUSA Convention 2009。私は日本からの参加者の一人としてお邪魔させて頂いた。海外コンベンション初参加者として、そして何かを吸収し続けたい一折紙愛好家としての視点から、この一大イベントに参加して感じた所を報告させて頂く。

まず印象深かったのは、その規模の大きさである。例えば、参加者が受けられる講習の数。日本のコンベンションと同じように、受講者は展示されている講習作品を見て受ける教室を選ぶのだが、その数の多いこと多いこと。600を優に超える参加人数を考えると当たり前と言えば当たり前なのだが、広い全体会場の端から端まで続く講習作品の展示は

壮観だった。

また、広大な会場で開かれた一般の展示についても、その量と質に圧倒された。言わずと知れたご高名な方々の作品はもちろんのこと、今まで知ることの無かった様々な国の愛好家による趣向をこらした作品群に、ただ感嘆しきりであった。

そして、コンベンション全体を通して最も心に残っているのは、参加者の積極性だ。私が全体会場で折紙を折っていると、英語があまり通じないにも関わらず、頻繁に、そして非常に積極的に、老若男女に話しかけられた。「何を折っているのか」「あなたの作品か」「展開図はあるか」etc… また、私はこのコンベンションにおいて拙作「牛乳パック」を講習さ

せて頂いたのだが、その夜以降、講習に来られなかった方々から「折り方を教えてくれ」と度々声をかけられた。どちらも日本のコンベンションではあまり経験したことのないことだ。

人見知りのきらいがあり、この貴重な機会にも関わらずあまり自ら動けずにいた私にとっては、非常にありがたく刺激的な体験だった。今後はこのアグレッシブさを見習っていききたい。

他にも、余興に行われた巨大折紙コンテストや深夜の「徹折り」交流など、非常に実り多きコンベンションであった。最後に、このような素晴らしい経験をさせて頂くに際しお世話になった方々へ、この場を借りて心から感謝申し上げたいと思う。ありがとうございました。



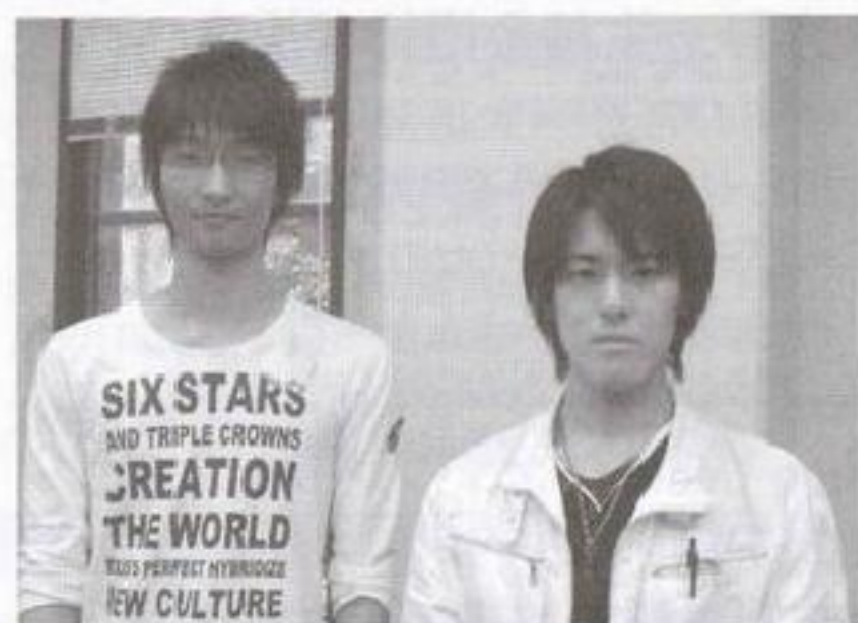
韓国で出版されている本(左)と山口氏の著書(下)

折り紙のメッカ(?)文京区のOrigami濃度が例会でもないのに急激に上がるのを感じた私は、その方角に意識を向けてみた。なるほど、昨年の4月に新入生だけで発足したばかりの東大折り紙サークル“Orist”が、今日(5月30日)から5月祭に出展しているのか。昨年創部早々に出店した駒場祭で企画グランプリ1位との噂は聞いていたが、ついに文京区進出か。文京区在住の私は記者を装い東大本郷キャンパスへ。正門から近い法文1号館3階の教室の中央にオリジナルのユニット作品のタージマハル宮殿(2,500枚)がそびえる。教室壁沿いに部員の折っ



実は2008年夏の探偵団コンベンションに参加していた柏村君は創作数も多い。大学にサークルができて「すごくうれしかった」と話す

た作品(習作から部員の創作まで多種多様)を展示し、窓際のテーブルを囲んで折り紙教室と、比較的ゆったりした構成、客入りはますますと見た。代表を務める西村光平さんと宮下令央さんが中心になって、駒場での創部活動を展開、今年の新入生を加えて5月時点で26名の部員を抱える(探偵団歴の長い武田君も部員とのことだ。また、1年先輩の金沢君も今回の5月祭には作品展示で参加していた。)。目下の夢は膨らんだ部員がいっしょに折れる部室の獲得とのことだった。普段は週2回、食堂に集まってしゃべりながらひたすら折っているのが部活動。記者の経験では、大学で折り紙サークルを作れるほどの仲間を見つけるのは容易ではないし、女子部員を持たない20名を超える大学生がひたすら折り紙をする姿は圧巻でした。時代が変わったのかと感慨に耽りつつ、今後の更なる活躍に期待をこめメールを送ろう。



折り紙は小2頃から、小6で創作も始めたという代表の西村君(右)と高3の時に川崎さんの『バラと折り紙と数学と』(森北出版)に出会ってハマったという宮下君(左)



まったりとした折り紙教室

◆PCOC 2009 San Francisco情報

2009年11月5日～8日

2年ごとにアメリカ西海岸で行われているPCOC(Pacific Coast Origami USA Conference)が今年の11月にサンフランシスコにて開催される。今号で紹介しているニューヨークのコンベンションと比べると規模は小さいが、開催される都市ごとに個性がある運営をされており、毎回違った魅力があるコンベンションだ。

会場となるのはダウントウンに位置する、ホリデイイン・ゴールデン・ゲートウェイホテルで、大会は教室から懇親会までこのホテル内で行われる。都市の中心にあり名物のケーブルカーが目の前を走る利便性の高い立地は、折り紙を楽しみたい人はもちろん観光を楽しみたい人も満足出来るだろう。

ゲストは現在、地元の西海岸エリアよりロバート・J・ラング氏、ピーター・エンゲル氏、バーニー・ペイトン氏、昨年名古屋コンベンションに吉野一生基金ゲストとして来日したジェレミー・シェーファー氏など、また太平洋をはさんで対岸となる日本から山口真氏が決定している。申し込みは8月末から受付開始予定。

～Vicky Mihara AveryさんからのPCOC案内～

サンフランシスコは、過ごしやすい気候や急な丘、ビクトリア調の建物などで知

られている、刺激的で素晴らしい都市です。PCOCが始まったこの美しい都市で、忘れられない訪問をお楽しみください。

日時:2009年11月5日～8日

会場:ホリデイイン・ゴールデン・ゲートウェイホテル

宿泊費:一泊 \$99.00(税別)

※予約はお早めに(ウェブサイトのリンクもご利用下さい)。

参加費:早期割引パック \$195.00

内容:懇親会(金)、講習(土・日)、ランチバッグ(土・日)、ピュッフェディナー(土)、ウェルカムキット、Tシャツ

その他のオプション(別料金):

レセプション(木)、スペシャルセッション(講義・講習)(金)、サンフランシスコ・ベイエリアツアー(月)

日程:

11月5日(木)

受付開始

懇親会(オプション)

11月6日(金)

スペシャルセッション(オプション)

懇親会

レイトナイト・折り紙エリア開場

11月7日(土)

折り紙教室

折り紙作品展示

ピュッフェディナー

レイトナイト・折り紙エリア開場

11月8日(日)

折り紙教室

折り紙作品展示

11月9日(月)

サンフランシスコ・ベイエリアツアー(オプション)

▼詳細はウェブサイトをご覧下さい

<http://www.origami-usa.org/pcoc2009>

▼問い合わせ先

Vicky Mihara Avery: vicky@origami-usa.org

日本の参加申し込み等の問い合わせ先:おりがみはうす(03-5684-6040)

◆第15回折紙探偵団コンベンション直前情報

◆吉野一生基金招待者決定

今年の吉野一生基金は、前号までにお知らせした、ドイツのシュテファン・ペーパー氏、アメリカのエリック・ジャーディ氏に加え、ベトナムからTran Trung Hieu(チャン・チュン・ヒエユ)氏とNguyen Hung Cuong(グエン・フン・クオン)氏の2名を招待することが決定した。

◆まだまだ参加申込受付中!

申込用紙を、日本折紙学会のHPの特設ページからダウンロードしてください。また同時に、15日、16日の折り紙教室の講師も募集中です(難しい作品の講習大歓迎)。今年は講師デビューをしてみませんか?

HP=<http://www.origami.gr.jp/>

申し込み締切=8月7日(金)

※今年のコンベンション会場は、工事の為例年使用してきた「1号館」から「6号館」に変更となります。当日は、会場案内の看板に注意してご来場ください。

『Origami 4』近日発売!?

ロバート・ラング氏が編纂にあたっていた『Origami4』が出版される。

2006年パサディナで開かれた第4回OSME(折り紙の科学と数学と教育の国際会議)の論文集だ。写真は校正のためのダミーだが、もう印刷に入っているとのこと。中身は勿論英語表記だが、厳選された各分野の折り紙研究内容が詰まっており、折り紙理論に興味がある人には必須アイテムとなりそうだ。

価格:11,000円(予価)

探偵団コンベンションの会場で販売を受け付ける予定。



完成見本を手にするラング氏。第4回OSMEのシンボル作品となったフラクタリビラミッドの作者、池上牛雄氏とニューヨークコンベンションにて

204・205/参加費=大人200円(中学生以下は100円)/時間=13:00~16:30

●8月8日(土)/講師:未定/作品:未定

●9月19日(土)/講師:未定/作品:未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

休止中。

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ 4F第2研修室B

参加費=大人300円、子供100円

時間=13:00~16:00

●8月30日(日)/講師:未定/作品:未定

●9月20日(日)(予定)/講師:未定/作品:未定

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=大人500円(中学生以下300円)

講習会=14:00~16:00/研究会=16:00

●8月1日(土)/講師:霞誠志/作品:立方体のスケルトン

●9月5日(土)/講師:未定/作品:未定

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F

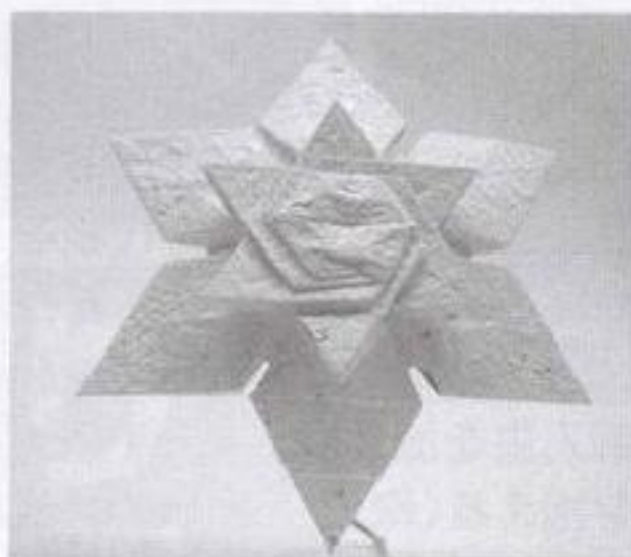
参加費=大人500円(中学生以下は200円)

時間=10:30~12:00, 13:00~14:30

●8月2日(日)/講師:未定/作品:未定

東海友の会 ※折り紙は各自持参

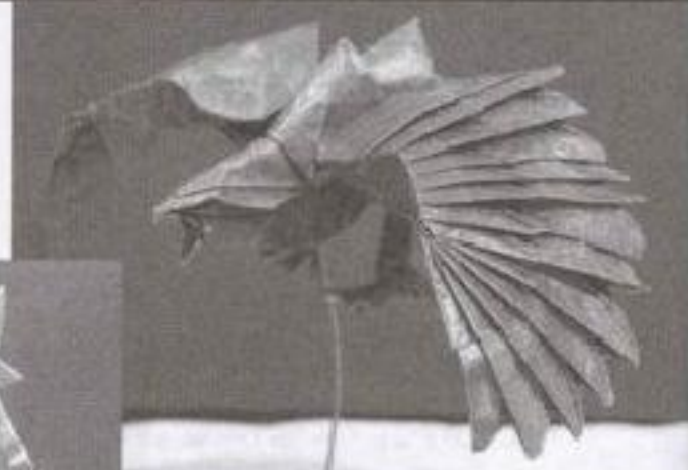
会場=名古屋芸術大学 西キャンパスG棟



▲エリック・ジャーディ(アメリカ)



▲シュテファン・ペーパー(ドイツ)



▲グエン・フン・クオン(ベトナム)



▲チャン・チュン・ヒエユ(ベトナム)

JOASホール今後の予定

◆「知子の部屋」

9月19日(土)/講師=布施知子/参加費=2,500円/12:30~16:00

アットホームな雰囲気のある教室で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

◆「ある折紙作家の教室」

9月13日(日)/講師=神谷哲史/参加費=3,000円/11:00~16:00/作品=エンゼルフィッシュ(予定)/定員=28名(定員になり次第締め切ります)

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。上記方法が困難な場合は電話でも受け付けます(03-5684-6040)。

編集後記

■6月、7月にかけて海外出張が3回もあった。■いずれも著作権がらみ。■こんなにムキにならなくてもいいと思うのだが、今後の事を考えるとやっておかなければならないだろう。■それは私個人の事だけではなく、後に続く人達にとっても大切な事だと思うから。■事例を遺しておく事で、今後少しでも役にたてば無駄ではないと自分に言い聞かせ、老体に鞭を打って、ムキになっている。■今回の事は海外の事だけであったが、国内に於いてもいろいろと問題がある。■人に嫌がられながらも今後のためにももう少し頑張ってみようと思っている。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団

2009年7月25日発行 第20巻2号 通巻116号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史、勝田恭平

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.116 / Published on 25, July 2009 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 HAKUSAN Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "KAPPA the Water Imp" Produced by Miyamoto Chuya : Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi Katsuta, Kyohei / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはいすべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第15回折紙探偵団 折り図集vol.15

日本折紙学会 編 / 2,000円 / 送料420円
B5判 / 全256頁 / 約50作品収録予定

2009年8月14日発売!

※14~16日はコンベンション参加者のみ購入可能

ただいま予約受付中!

申し込み方法は通常の通信販売方法(右下参照)と同様です。送料と本の代金をお送りください(送付先住所と商品名を明記のこと)。コンベンション終了後発送開始致します。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込)※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵 4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中具子 著 山口 真 編 残部僅少	2,500円		B5判/全120頁/カラー口絵8頁/31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラー口絵4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第14回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.14 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作41作品を収録
第13回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.13 日本折紙学会 編 残部僅少	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作39作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

※第1回~第9回及び第12回の折り図集は全て絶版です ※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

『折紙探偵団』専用ファイル **好評発売中!!**

変形B5判/箔押し(緑) ロゴ入 **ピンが7本ついた改良型**
雑誌『折紙探偵団』1年分(6冊)と、会員特別配布物(1冊)が
収納可能!

1冊750円 送料: 1冊250円(合計1,000円)
2冊350円(合計1,850円)
3冊470円(合計2,720円)
※定形外郵便で発送します (書籍・紙製品とは別発送です)

書籍 複数 の 送料	書籍 2冊 の送料は 530円
	書籍 3冊 の送料は 670円
	例外:「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合 (例:折り図集13.14と色紙百花1冊)のみ 530円

上記以外の場合はお問い合わせください。書籍と紙製品は別発送となります

GALLERY 折りがみはうす
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp 10時~18時 日・祝休

折り紙用紙専門のオンラインショップ開店!
(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。
<http://origamihouse.store-web.net/>
※本ページ商品は取り扱いっておりません。ご注意ください

商品名	送 料	内 容
折紙探偵団Tシャツ XS, S, M, L, 各サイズ 2,000円(税込)	国内一律 2着まで 500円	折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ 色は黒のみで布は厚手 ※数に限りがありますので、ご注文の 際には在庫を確認してください。
恐竜柄おりがみ用紙 1,000円(税込)	国内一律	35×35cm/10枚入/70kg の洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット 1,200円(税込)	1~2セット 440円	恐竜柄おりがみ用紙+ ドラゴン(北條高史作)の折り図

※定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送) 送料には梱包材代が含まれています
本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に**郵便振替**か**現金書留**で料金(商品価格+送料)をお
送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希
望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の
「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

TANT 12 COLOR PAPER タント 12 COLOR PAPER

7.5×7.5cm 96枚入 (12色)

¥200
(税抜き)



35.0×35.0cm 12枚入 (12色)

¥600
(税抜き)

